

平成29年度

現職教員研修支援プログラム開発 に関する調査研究報告書

兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム
開発プロジェクト研修プログラムチーム

平成29年度兵庫教育大学現職教員 研修支援プログラム開発に関する調査研究報告書

目 次

【 平成29年度 実施研修 】

1	兵庫教育大学と兵庫県教育委員会との連携研修……………1
①	学校管理職・教育行政職特別研修(ニューリーダー特別研修) …… 1
②	大学と連携した英語指導力向上事業 ……12
2	兵庫教育大学と兵庫県立教育研修所との連携研修……………14
3	兵庫教育大学と神戸市教育委員会(神戸市総合教育センター)との連携研修 ……16
4	兵庫教育大学と姫路市立総合教育センターとの連携研修 ……18
5	兵庫教育大学と尼崎市立教育総合センターとの連携研修 ……21
6	兵庫教育大学と西宮市教育委員会との連携研修 ……22
7	兵庫教育大学研修講座〈10年経験者研修等の選択研修〉 ……23

【 参考資料 】

1	平成29年度 教育委員会等との連携によるその他の教員研修の実施 ……106
①	県立高等学校10年経験者研修(生徒指導)〔兵庫県教育委員会との連携〕 ……106
②	兵庫教育大学スクール・パートナーシップ事業 ……107
2	兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト実施要項 ……108
3	兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト 研修プログラムチーム構成員名簿 ……109

学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）

I 研修の目的・内容・方法

1. 学校管理職・教育行政職特別研修の創設の経緯

兵庫県教育委員会（以下、兵庫県教委と略記する）と兵庫教育大学（以下、兵教大と略記する）は平成16年度、共同して「学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）」（以下、「特別研修」と表記）を立ちあげた。

兵庫県教委は『美しい兵庫の教育を担う教職員のパワーアッププラン』（平成14年5月）を策定して、教職員の資質力量の向上に取り組んでいた。とりわけ、教育行財政の地方分権化と自律的学校経営という新しい状況に対応できる力量を学校管理職と教育行政職に育成することと、そのための研修プログラムを開発・実施することは急務と考えられていた。

一方、「教員のための大学」であることをミッションとする兵教大は、学部における養成教育と大学院における現職教員の再教育を中心に、教員の資質能力の向上を目指すさまざまな活動を行ってきた。このミッションをより一層果たすためには、現職教員の研修を組織的に支援する活動も行うべきと考えて、平成15年度に、兵庫県教委、神戸市教育委員会、姫路市教育委員会、兵庫県教職員組合、私立学校団体等の参画を得て「兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発に関する調査研究会」を発足させた。

このような兵庫県教委の課題・ニーズと兵教大の現職教員研修への積極姿勢が一致して、上記調査研究会の主要成果の一つとして生まれたのが特別研修である。

平成15年度後半以降、兵庫県教委の主として総務課と教職員課の指導主事・管理主事と、兵教大の教育経営講座（当時）の教員（加治佐哲也教授、笠沙知章助教授、武井敦史助教授）が何度も会合して、特別研修のカリキュラムや運営方法についての検討を重ね、第1回特別研修のプログラムが共同開発された。そこでは、兵庫県教委や学校が蓄積してきた実践的事例と兵教大がもつ理論・専門知識を融合することにより、理論と実践の両面を兼備したカリキュラムを編成することがとくに意図された。

本年度（平成29年度）の特別研修は14回目である（注）。平成19年度までの10日間が、平成20年度からは5日間に短縮されているが、過去13回の経験を生かした改善を加えた。また、兵庫県教委と兵教大との連携で企画・実施する学校管理職・教育行政職特別研修（ニューリーダー特別研修）は、これまで各種媒体でも紹介され、管理職研修のカリキュラムのモデルとしても全国の注目を浴びている。

2. 特別研修の目的（育成が目指される力量）

兵庫県教委の『兵庫の教育改革プログラム～県民すべてがかかわる兵庫の教育をめざして～』（平成15年7月）に述べられているように、教育行政・財政の地方分権化と自主的・自律的な学校経営を進める改革のなかで、教育行政・学校経営のあり方が大きく見直されようとしている。それに対応していくために、教育行政・学校経営の担当者には新たな力量が求められるようになっている。そこで、そうした新しい教育行政・学校経営のあり方についての理解を深めるとともに、その基礎的な知識を身につけ、新しい状況に対応することができる実践力を養っていくことが重要な課題になる。

特別研修は、これからの兵庫の学校経営と教育行政を担う人々に対して、教育行政・学校経営の

基礎を学ばせるとともに、教育行財政の地方分権化と自律的学校経営の下で教育行政・学校経営の改善を実践することのできる力量（知識とスキル）を育成することを目的とする。

要するに、新しい学校経営と教育行政に対応できる力量を養う。受講者である皆さんはこれまでは教育のプロであったが、これに加えて、学校経営と教育行政のプロになるための力量を養う。具体的には、次のような力量の獲得が目指される。

本研修は2種類の学校指導者を養成の対象としている。すなわち、校長、教頭という単位学校のリーダーである学校経営専門職と、指導主事、管理主事といった教育行政の専門職である。それぞれの専門職に次のような力量を育成することが目指される。

（１）学校経営専門職（校長、教頭など単位学校のリーダー）

学校経営専門職には、自主的・自律的な学校経営の下で、特色ある学校づくり、魅力ある学校づくりを推進できる力量が必要である。それは具体的には次の4つの力量である。

①学校の教育・学習活動の改善能力（「教育的リーダーシップ」）

「教育的リーダーシップ」(instructional leadership)とは、学校を児童生徒と教職員の学びが何よりも尊重される文化をもつ「学習社会」とすることのできるリーダーの能力である。学校を学習社会にするためには、まずもってリーダーそのものが常に学習している姿勢を示すことが必要である。たとえば、校長免許制度が確立されているアメリカでも、教育的リーダーシップは学校指導者に習得させるべき最優先の能力とされている。

学校の活動の中核はいうまでもなく、教育・学習活動である。学校のリーダーには、教育・学習活動の創造・開発、実施、そして評価を組織的に主導する役割と能力が求められる。学校は教育組織であり、教育組織のリーダーには教育に精通し、教育活動の改善を組織的に主導する能力が欠かせない。なかでも教育課程経営と生徒指導経営を推進する力量が重要である。

学校の組織的能力を高めるためには、教職員の職能開発と成長を図ることが必要である。教職員の職能開発・成長を促す力量も教育的リーダーシップであり、リーダーにはそのために、たとえば校内研修を経営する力量や教職員評価・育成制度によって教職員の意欲と職能の向上を図る力量が求められる。

②学校のビジョン・目標の創造と共有化の能力

自主性・自律性を有する組織には、その組織に固有のビジョンが不可欠である。ビジョンを創造するのはリーダーである。こうした組織のリーダーにとって、ビジョン創造はもっとも重要な役割であり、もっとも基本的な能力ということができる。自律的学校経営を担う校長は、自らが中心となって、教育組織としての学校のビジョンを創造する能力を備えていなければならない。

ビジョンにはミッション（その学校の使命や存在意義）が伴っていなければならない。また、ビジョンは抽象的なレベルにとどまるものでは意味がなく、中期、短期や年間の目標として、また焦点化された重点事項として表現され、さらに学校の各部署の目標や取り組み・活動として具現化されうるものでなければならない。こうしたビジョンの創造能力は総合的な能力であり、その能力を獲得するためには、教育行政・学校経営の特性、教育に関する国とその地方の政策や改革の動向、その学校の地域の特性、そしてその学校の特性、実態などについて理解していることはもちろんのこと、幅広い教養や教育哲学も欠かせない。

ビジョンと目標は創造されるのみでは無意味であり、教職員に理解されて浸透していかなければ

ならない。保護者や地域の人々にも理解されることが望ましい。ビジョン・目標が教職員に共有されることによって、ビジョンと目標の達成に向けての協働がリーダーと教職員間に生まれる。ビジョン・目標への保護者・地域の理解は、学校への支持と支援につながる。リーダーには、そのためのコミュニケーション能力が必要である。

③合理的組織運営能力

あらゆる組織体は日常的に、それぞれの目的達成に向けて、安全に生産的に運営されなければならない。学校もひとつの組織体であり、そのリーダーである校長は、学校組織の特性を理解して、児童生徒や教職員の安全を確保し、学校組織を効率的に機能させる力量、いわゆる学校のマネジメント能力を身につけている必要がある。学校マネジメント能力を支える基本的能力が教育法規の知識と応用能力である。

教職員や施設設備などの管理能力も必要であるが、自律的学校経営においては、特色ある学校づくりに向けた予算編成・執行（学校財務）能力、結果責任を明らかにするための学校評価能力、そして生徒指導、学校事故、情報などにかかわる危機管理能力がとりわけ重要である。

④保護者・地域社会との連携構築能力

自主的・自律的な学校は開かれた学校でもある。学校は保護者と地域住民の理解と協力・支援を得た教育活動を展開しなければならない。経営責任を明らかにするために、保護者と地域住民に対する説明責任も学校には要求されている。自律的学校経営を推進する校長には、外部の学校関係者（stakeholders）である父母、地域住民との協力関係を築く力量が不可欠である。

保護者・地域社会と学校との連携関係の構築に関して、校長にはとくに、学校と地域の教育・学習活動において協働をつくる能力、および学校評議員制度を効果的に運用する力量が求められている。

（２）教育行政専門職（指導主事、管理主事など教育委員会の専門職員）

指導主事などの教育行政専門職には、教育行財政の地方分権化の下で、それぞれの地方・地域の特性と実情を踏まえた特色ある施策の企画・立案を行うとともに、自主的・自律的な学校経営を支援する力量が必要である。それは具体的には、次の３つの力量である。

①特色ある施策の企画・立案能力

教育行政と教育財政の地方分権化が、学校経営の自律化とともに、急速に進んでいる。地方分権化した教育行財政の下では、教育委員会は、国に依存することなく、各地方・地域の特性に応じた独自の教育施策を策定する必要がでてくる。これを担当するのが教育行政の専門職である教育長、指導主事である。教育行政専門職には、特色ある効果的な教育施策を企画・立案する能力が求められている。

こうした施策を企画・立案できるためには、少なくとも、教育行政・学校経営についての基本知識、国と各地方の行財政一般や教育に関する政策や改革の動向についての理解、各地方・地域の特性と実情の理解、そして管轄する学校など教育機関の特性についての理解が必要である。

②自律的学校経営支援能力

自律的な学校経営の下では、教育委員会の役割も自ずと変容する。すなわち、これまでの画一的

基準にもとづいて指示・命令することから、各学校の自主的で特色ある活動を個別事情に応じて専門的に支援することになる。指導主事など教育行政専門職には、学校の主体性と自律性を尊重して、その取り組みを支援する専門的能力が必要になる。

自律的学校の成功を図るためには教育課程経営と生徒指導経営、および校内研修経営に関する支援が重要であり、指導主事などにはとりわけ、これらについての支援能力が求められる。自律的学校経営の下にあっても、学校の危機管理は教育行政機関たる教育委員会の責務であることに変わりはない。いうまでもなく、各学校の危機管理能力は限られている。自律的学校における危機管理を支援する能力も教育行政専門職員には必要である。

③教職員研修企画能力

自律的学校においては、これまで以上に教職員の資質・力量がその成功にとって重要な要因となる。各学校でも、校長が中心となって校内研修を組織し、教職員の職能開発が図られるが、教育委員会の主催する研修の重要性も従前以上に高まる。指導主事などには、学校教育の変化とニーズに対応し、教職員の職能成長を促す教職員研修を企画する力量もより一層求められる。

3. 受講者

特別研修の受講者は、①兵庫県内（神戸市を除く）の公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のすべての新任教頭（県立学校は名簿登載者を含む）と、②兵庫県教委所属の新任指導主事である。

これら対象者は、第1期の県立学校の新任教頭、県立学校の教頭名簿登載者、県立学校出身の新任指導主事、市町立学校出身の新任指導主事、市町立中学校の新任教頭と、第2期の市町立小学校、特別支援学校の新任教頭の2組に分けられた。平成29年度は、第1期が111名（県立学校教頭名簿登載者30名、兵庫県教委新任指導主事等30名、市町立中学校新任教頭51名）、第2期が130名（市町立小学校新任教頭126名、市町立特別支援学校新任教頭4名）の総計241名であった。

なお、対象者を校長や主任クラスではなく、新任教頭、名簿登載者、新任指導主事としたのは、これから一定期間、学校経営ないし教育行政を担うことが決まっている者に対し、管理職・教育行政職への任用後の早い時期に、あるいは任用前に、新しい教育行政・学校経営に対応する力量を育成する方が効果的・効率的と考えられたことによる。

4. カリキュラム

（1）内容構成

カリキュラムは5日間に及ぶものであり、「日程概要」に示されるような構成となっている。第1期と第2期の構成は共通する。日毎に研修テーマが設定されており、各日、講義と演習の5コマが行われる。

1日目：教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント

開講式とオリエンテーションに続いて、まず、今日の教育行政と学校経営の改革と施策の動向について知ってもらう。学校づくりと学校支援には、改革と施策の方向を押さえておくことが不可欠である。

今日の改革の中で学校づくりと学校経営を推進するためには、学校組織マネジメントの発想とスキルが必要とされている。学校を一つの組織体として捉え、それをマネジメントするという学校組

組織マネジメントの講義が行われる。

2日目：教育行政・学校経営改革と学校経営ビジョン

二日目は学校環境の分析の演習から始まる。そして、学校経営ビジョンの構築の演習と続く。

教職員の多忙を克服し、子どもたちと向き合う時間を確保する必要性から、「業務改善」についての時間を設け、講義・事例紹介と演習を行う。

3日目：教育法規と学校危機管理

教育法規は学校経営と教育行政を行う際の基礎であり、管理職にはその知識と応用能力が欠かせない。生徒指導と労務管理に焦点をあてる。

危機管理も今日の学校経営にとって最重要事項であり、危機管理能力はこれからの学校経営者、教育行政者には不可欠である。危機管理の原理や理論についての講義に続いて、事例研究を行い、学校事故への対応法や情報セキュリティについても学ぶ。

また、現在の教育課題への対応として、いじめ問題とその対応マニュアルの活用について講義と演習を行う。

4日目：労務管理と地域の連携協働

まず管理職としての必須の労務管理について、実践的な演習を行う。次にカリキュラム・マネジメントや地域との連携協働の必要性についての講義と演習が行われる。また、今日の学校経営は、開かれた学校づくりでもある。開かれた学校には二つある。すなわち、学校経営面で開かれることと、教育活動で連携協力することである。講義と演習で構成される。

5日目：学校評価と教職員評価

最終日は組織マネジメントの仕上げとして、学校評価を扱う。自校の学校評価システムを構築するための演習を行う。組織マネジメントを扱った2日目の内外環境分析、学校経営ビジョンの創造はこれに直接に関連している。

自律した学校が成功するためには、教職員の職能開発（スタッフ・ディベロップメント）が必要である。それを主導する力量は管理職の「教育的リーダーシップ」の中心である。指導主事にとっても、これは欠かせない力量といえる。平成19年度から試行実施された教職員評価・育成制度についての講義と演習が行われる。

最後に、本研修全体のふりかえりを行い、受講者各人にとっての成果と課題、そして今後の自分のリーダーとしての力量向上の方法について考える。宿題も出される。リーダーとしての学習は特別研修で終了ではない。むしろ始まりである。本研修を契機にして、今後の自己学習に励んでもらうために、「全体総括」の時間が設けられた。また、特別研修についての総体的な評価も行っていた。閉講式で本研修全体を締める。

(2) 観点

以上のようなカリキュラムは、次のような観点をもとに作成された。

① 上述の学校経営専門職と教育行政専門職に必要とされる力量を育成する内容が取り入れられた。各日のテーマ・内容は複数の力量と関連しているが、主たる関連は次のようになっている。

1 日目：教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント

2 日目：教育行政・学校経営改革と学校経営ビジョン

(1)② (2)①②

3 日目：教育法規と学校危機管理

(1)③ (2)②

4 日目：労務管理と地域との連携協働

(1)①④ (2)②

5 日目：学校評価と教職員評価

(1)①②③ (2)①②③

②学校を自己の使命や目標を達成する自律した組織体として捉え、それをマネジメントするという「学校組織マネジメント」の発想と手法を学ぶことを基本に内容は編成された。とくに、1 日目、2 日目、5 日目は学校組織マネジメントを直接に扱う。

③原則として教頭と指導主事は同内容である。それは、職務内容が重なる部分が多く、指導主事もその後のキャリアとして学校管理職を経験する機会が多いと考えられることに加えて、指導主事に対しては、別に研修が企画・実施されているからである。

④講義のみでなく、事例研究や受講者参加型の演習を多く取り入れた。

5. コーホート

演習が多くを占める。25～30人前後のクラスが、第1期は4クラス、第2期は5クラスつくられ、そして各クラスは5～6人の班に細分される。演習は、全期間、クラスを単位に行われ、各クラスの構成メンバーは固定される。また、班メンバーも固定される。つまり、演習はすべて、次のような意図から、メンバーを固定した「コーホート（学習を協力して行う同僚集団）」を単位に実施される。

①演習では、事例も扱われるが、現任校を想定して行われることがより多い。各人の考え方や経歴、勤務校の状況が互いによく認識されているほど、ディスカッションは深まる。また、互いの進歩や成長を確認しながらのディスカッションには、相互に啓発されるものがある。そうした深まりのある刺激的なディスカッションを通じて、それまでの経験、当面している課題やその解決方法を共有化できる。偶発的な集団ではこれは期待できないし、できても限られる。

②研修終了後のネットワーク形成につながる。5日間も学びの場を同じくするのであるから、そのことを、「同じ釜の飯を食った者」同士の連帯感や同僚意識が形成される機会として、メンバーを固定することにより意図的、積極的に活用する。ネットワークを通じて、リーダーとして必要な情報の交換を行ったり、直面する課題解決への支援を相互に得ることができるであろう。ネットワークはリーダー間の一種のサポートシステムといえることができる。

6. 振り返りシートと職能成長プラン

(1) 毎日の振り返りシート

受講生は、毎日の研修の終了時に、「振り返りシート」に記入する。そのねらいは次の2点であ

る。

- ・テーマの異なる毎日の研修を振り返ることにより、その日の研修の成果と課題を自分に意識化して、研修の効果を高めること。
- ・研修のカリキュラムと方法についての評価データとすること。
受講生を評価する資料ではない。集めてコピーし、次の日に返却される。

(2)管理職（教育行政職）としての振り返り

受講生は5日間の研修を振り返り、とくに印象に残った点や関心を持って取り組んだ点（研修内容の振り返り）と、なるほどと思った点や自分の考え方が変化した点（自己認識の変容の振り返り）をそれぞれ3点程度記述する。

(3)管理職（教育行政職）としての職能成長プラン（シート）

「管理職（教育行政職）としての振り返り」をもとにして、学校管理職あるいは教育行政職としての自分の「強み」（すでにもっている資質・力量）と「弱み」（これから身につける必要のある資質・力量）を自己分析し、それぞれ3点程度を記述する。そして、「得意分野」や「強み」をさらに伸ばす方策と、「不得意分野」や「課題」を克服する方策を策定する。

(4)管理職（教育行政職）としての職能成長プラン（レポート）

これからの学校管理職や教育行政職としての自分の職能開発の構想や計画を、「管理職（教育行政職）としての職能成長プラン」をもとにして、文章化する。レポートの課題名は「これからの学校管理職・教育行政職と自己の職能開発について」である。

(2)(3)(4)の作成方法は最終日の「全体総括」の時間に説明され、宿題として後日提出が求められる。

7. 指導スタッフ

講義と演習には、兵教大の教育行政・学校経営、教育課程関係の教員、兵庫県教委の総務課、教職員課、高校教育課、義務教育課、教育研修所等の指導主事・管理主事をはじめとして、県外の学校関係者を講師・助言者として招いている。

連携している兵教大と兵庫県教委がそれぞれの有する人的資源とネットワークをフルに活用してこうした人材を集めた。研究機関と実践機関の連携であればこそ、可能となったことであろう。

8. 資料

資料や演習等での作業成果をまとめてもらうために、ファイルを用意した。追加資料がある。宿題も出される。その都度、それらを綴じること。

9. 運営体制

運営は、兵庫県教委の指導主事・管理主事が兵教大教員とともに兵教大に常駐し、兵教大の社会連携担当の事務職員も施設設備と教材の整備・準備に携わる。

10. 報告書の内容と活用方法

報告書には、目次にも示されているように、特別研修にかかわる①から③④の資料が収められている。

①受講生作成の研修の記録

②「管理職（教育行政職）としての振り返り」（小学校11点、中学校7点、高校5点、特別支援学校1点、指導主事3点）

③「管理職（教育行政職）としての職能成長プラン」（小学校11点、中学校9点、高校7点、特別支援学校1点、指導主事4点）

④宿題として出された「レポート」（小学校10点、中学校7点、高校8点、特別支援学校1点、指導主事4点）

⑤改善意見の集計

②、③、④は、具体的であること、わかりやすいこと、論理的であること、内容が豊かであること、を基準に掲載分を選定した。

①は講義で学んだ内容と、演習で取り組んだ内容と成果物を確認し、整理する資料として活用していただきたい。

②、③、④は、自分の学校指導者や教育行政専門職としての成長に向けて自己学習の方法を考えたり、見直してゆくための有用な教材となるであろう。他受講生の職能成長プランのアイデアを、自分の状況に合わせて大いに取り入れていただきたい。

⑤は特別研修を改善してゆくための評価資料であるが、受講生が特別研修についてどのように考えていたか、またどのように変えて欲しいと思っていたかを、受講生にも知っていただくために掲載した。受講者の意見をもとに、来年度の特別研修は一層の改善が図られる。

要するに、本報告書は、受講者と主催者の県教委・兵教大の「共有財産」である。

注：10日間の内容・方法は次の刊行本にまとめられているので、ぜひ参照されたい。加治佐哲也編著『学校のニューリーダーを育てる－管理職研修の新しいスタイルー』学事出版、2008年10月発行。

平成29年度 学校管理職・教育行政職特別研修日程概要

1期・2期	研修テーマ
1日目	教育行政・学校経営改革と学校組織マネジメント
2日目	教育行政・学校経営改革と学校経営ビジョン
3日目	教育法規と学校危機管理
4日目	労務管理と地域との連携協働
5日目	学校評価と教職員評価

1期（111名：男88名、女23名）：県立学校教頭採用候補者名簿新規登載者（30名）

県教育委員会新任指導主事等（30名）、市町立中学校新任教頭（51名）

2期（129名：男89名、女40名）：市町立小学校新任教頭（126名）、市町立特別支援学校新任教頭（3名）

日程	1期	2期	講義内容					
1日目	5/17 (水)	5/31 (水)	時間	9:20～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
			内容	開講式 オリエンテーション	(講義) 教育改革と学校 指導者に求められる 力量	(演習) 教育改革と学校 経営課題の明確 化	(講義) 学校組織マネジメ ントとは何か①	(講義) 学校組織マネジメ ントとは何か②
2日目	5/18 (木)	6/1 (木)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:50
			内容	(演習) 学校環境の分析	(演習) 学校経営ビジョン の構築①	(演習) 学校経営ビジョン の構築②	(講義・事例紹介) 学校業務の改善	(演習) 学校業務の改善
3日目	5/19 (金)	6/2 (金)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
			内容	(講義) 危機管理能力を 高めるには	(演習) 学校経営と危機 管理の実際 (事例研究)①	(演習) 学校経営と危機 管理の実際 (事例研究)②	(講義) 体罰・いじめ問題 と対応マニュアル の活用について	(演習) いじめ問題と対応マ ニュアルの活用に ついて
4日目	6/12 (月)	6/19 (月)	時間	9:30～10:30	10:50～12:10	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:50
			内容	(演習) 労務管理関係 法規実践演習①	(演習) 労務管理関係 法規実践演習②	(講義) カリキュラム開発と 地域との連携協働 の考え方	(演習) カリキュラム開発と 地域との連携協働 の実践	(演習) カリキュラム開発と 地域との連携協働 の実践
5日目	6/13 (火)	6/20 (火)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
			内容	(講義) 学校評価システム の活用	(講義) 教職員の職能開 発の実践	(講義) 教職員の評価・育 成システムの理解	(演習) 教職員の評価・育 成演習	全体総括 閉講式

平成29年度 学校管理職・教育行政職特別研修 講師・助言者（第1期）

（第1期：県立新任教頭等、新任指導主事等、市町立中学校新任教頭）

		講義内容等					
1 日 目	5/17 (水)	時間	9:20～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
		内容	開講式 オリエンテーション	(講義) 教育改革と学校指導 者に求められる力量	(演習) 教育改革と学校経営 課題の明確化	(講義) 学校組織マネジメント とは何か①	(講義) 学校組織マネジメント とは何か②
		講師・助言者	兵庫県教育次長 世良田 重人	兵庫教育大学 教授 日渡 円	教職員課 人事班主幹 小川 秀雄 教職員課 主任指導主事兼 管理主事 赤坂 博和 県立教育研修所 指導主事 松岡 克晋 県立教育研修所 指導主事 奥田 健二	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 浅野 良一
			兵庫教育大学長 福田 光亮				
			兵庫教育大学 教授 浅野 良一				
2 日 目	5/18 (木)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:50
		内容	(演習) 学校環境の分析	(演習) 学校経営ビジョンの 構築①	(演習) 学校経営ビジョンの 構築②	(講義・事例紹介) 教職員の勤務時間適 正化	(演習) 教職員の勤務時間適 正化
		講師・助言者	高校教育課 主任指導主事 松本 久永	高校教育課 主任指導主事 松本 久永	高校教育課 主任指導主事 松本 久永	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 山本 浩一	教職員課 人事班主幹 小川 秀雄
			高校教育課 指導主事 秦 良和	高校教育課 指導主事 秦 良和	高校教育課 指導主事 秦 良和	県立相生産業高等学校 校長 桑野 貢	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 赤坂 博和
			県立教育研修所 指導主事 奥田 健二	県立教育研修所 指導主事 奥田 健二	県立教育研修所 指導主事 奥田 健二	養父市立関宮中学校 校長 藤原 尚	但馬教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 神戸 剛
			県立教育研修所 指導主事 脇本 真行	県立教育研修所 指導主事 脇本 真行	県立教育研修所 指導主事 脇本 真行		教職員課 主任指導主事兼 管理主事 山本 浩一
3 日 目	5/19 (金)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
		内容	(講義) 危機管理能力を高め るには	(演習) 学校経営と危機管理 の実際（事例研究） ①	(演習) 学校経営と危機管理 の実際（事例研究） ②	(講義) 非遵行為の防止と いじめ問題と対応マニ ュアルの活用について	(演習) いじめ問題と対応マニ ュアルの活用について
		講師・助言者	兵庫教育大学 准教授 富山 清実	教育企画課 指導主事 白鷹 昌樹	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 赤坂 博和	教職員課 考査班長 岡田 悟	高校教育課 主任指導主事兼 主幹 藤原 良光
				特別支援教育課 指導主事 大上 高広	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 山本 浩一	義務教育課 主任指導主事兼 主幹 木山 正規	義務教育課 主任指導主事兼 主幹 木山 正規
				体育保健課 指導主事 森鼻 崇文	義務教育課 主任指導主事 西川 康一		高校教育課 主任指導主事 辻 登志雄
				人権教育課 主任指導主事 東内 淳	高校教育課 主任指導主事 辻 登志雄		義務教育課 主任指導主事 西川 康一
4 日 目	6/12 (月)	時間	9:30～10:30	10:50～12:10	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:50
		内容	(演習) 労務管理関係法規実 践演習①	(演習) 労務管理関係法規実 践演習②	(講義) カリキュラム開発と地域 との連携協働の考え方	(演習) カリキュラム開発と地域 との連携協働の実践	(演習) カリキュラム開発と地域 との連携協働の実践
		講師・助言者	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 赤坂 博和	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 赤坂 博和	兵庫教育大学 教授 小西 哲也	兵庫教育大学 教授 小西 哲也	兵庫教育大学 教授 小西 哲也
			教職員課 主任指導主事兼 管理主事 大迎 規宏	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 大迎 規宏	兵庫教育大学 准教授 安藤 福光	兵庫教育大学 准教授 安藤 福光	兵庫教育大学 准教授 安藤 福光
			阪神教育事務所 主任指導主事 兼 管理主事 津田 景	阪神教育事務所 主任指導主事 兼 管理主事 津田 景	兵庫教育大学 准教授 上田 真弓	兵庫教育大学 准教授 上田 真弓	兵庫教育大学 准教授 上田 真弓
			阪神教育事務所 指導主事兼 管理主事 宮下 巨樹	阪神教育事務所 指導主事兼 管理主事 宮下 巨樹	兵庫教育大学 准教授 富山 清実	兵庫教育大学 准教授 富山 清実	兵庫教育大学 准教授 富山 清実
5 日 目	6/13 (火)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
		内容	(講義) 学校評価システムの 活用	(講義) 教職員の職能開発の 実践	(講義) 教職員の評価・育成 システムの理解	(演習) 教職員の評価・育成 演習	全体総括 閉講式
		講師・助言者	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	教職員課 管理・免許班長 福島 豊	兵庫教育大学 教授 浅野 良一
					教職員課 管理・免許班長 福島 豊	教職員課 主任管理主事兼 主幹 小川 秀雄	教職員課 主任管理主事兼 主幹 小川 秀雄
						教職員課 主任指導主事兼 管理主事 赤坂 博和	教職員課 主任管理主事兼 人事班長 漁 修生
						教職員課 主任指導主事兼 管理主事 山本 浩一	

平成29年度 学校管理職・教育行政職特別研修 講師・助言者（第2期）

（第2期：市町立小学校・特別支援学校新任教員）

		講義内容等					
日 目	5/31 (水)	時間	9:20～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
		内容	開講式 オリエンテーション	(講義) 教育改革と学校指導 者に求められる力量	(演習) 教育改革と学校経営 課題の明確化	(講義) 学校組織マネジメントとは何か①	(講義) 学校組織マネジメントとは何か②
2 日 目	6/1 (木)	講師・助言者	兵庫県教育次長 世良田 重人 兵庫県教育大学長 福田 光完 兵庫県教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 准教授 川上 泰彦	教職員課 主任管理主事兼 人事班長 漁 修生 教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 県立教育研修所 主任指導主事 兼課長 園田 元彦 県立教育研修所 主任指導主事 西村 研史 県立教育研修所 主任指導主事 波部 新	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 浅野 良一
		時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:50
3 日 目	6/2 (金)	内容	(演習) 学校環境の分析	(演習) 学校経営ビジョンの 構築①	(演習) 学校経営ビジョンの 構築②	(講義・事例紹介) 教職員の勤務時間適 正化	(演習) 教職員の勤務時間適 正化
		講師・助言者	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 県立教育研修所 主任指導主事 高見 秀樹 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也 県立教育研修所 主任指導主事 寺戸 武志 県立教育研修所 指導主事 松岡 克晋	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 県立教育研修所 主任指導主事 高見 秀樹 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也 県立教育研修所 主任指導主事 寺戸 武志 県立教育研修所 指導主事 松岡 克晋	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 県立教育研修所 主任指導主事 高見 秀樹 県立教育研修所 主任指導主事 古林 達也 県立教育研修所 主任指導主事 寺戸 武志 県立教育研修所 指導主事 松岡 克晋	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 山本 浩一 尼崎市立園田小学校 教頭 平岩 健太郎 小野市立大部小学校 教頭 吉岡 優	阪神教育事務所 指導主事兼 管理主事 日外 亮 播磨東教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 岡田 浩一 播磨西教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 土井 寛文 丹波教育事務所 管理主事 鳥首 邦彦 淡路教育事務所 主任指導主事 兼管理主事 仲野 幹
4 日 目	6/19 (月)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
		内容	(講義) 危機管理能力を高め るには	(演習) 学校経営と危機管理 の実際（事例研究） ①	(演習) 学校経営と危機管理 の実際（事例研究） ②	(講義) 非違行為の防止 いじめ問題と対応マニ ュアルの活用について	(演習) いじめ問題と対応マニ ュアルの活用について
5 日 目	6/20 (火)	講師・助言者	兵庫教育大学 准教授 富山 清実	教育企画課 指導主事 藤本 直英 教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 義務教育課 指導主事 大谷 典之 特別支援教育課 指導主事 中野 純也 体育保健課 指導主事 松尾 吉晃 人権教育課 主任指導主事 小池 宏尚	教育企画課 指導主事 藤本 直英 教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 義務教育課 指導主事 大谷 典之 特別支援教育課 指導主事 中野 純也 体育保健課 指導主事 松尾 吉晃 人権教育課 主任指導主事 小池 宏尚	教職員課 調査班長 岡田 悟 高校教育課 主任指導主事兼 主幹 藤原 良光 義務教育課 指導主事 大谷 典之 義務教育課 指導主事 早瀬 幸二 県立教育研修所 主任指導主事 増田 美佳子 県立教育研修所 指導主事 福田 秀則	高校教育課 主任指導主事兼 主幹 藤原 良光 義務教育課 指導主事 大谷 典之 義務教育課 指導主事 早瀬 幸二 県立教育研修所 主任指導主事 増田 美佳子 県立教育研修所 指導主事 福田 秀則
		時間	9:30～10:30	10:50～12:10	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:50
6 日 目	6/19 (月)	内容	(演習) 労務管理関係法規実 践演習①	(演習) 労務管理関係法規実 践演習②	(講義) カリキュラム開発と地域 との連携協働の考え方	(演習) カリキュラム開発と地域 との連携協働の実践	(演習) カリキュラム開発と地域 との連携協働の実践
		講師・助言者	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 播磨東教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 足立 幸謙 播磨東教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 岡田 浩一 播磨西教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 竹原 一典 播磨西教育事務所 管理主事 辰田 奈味	教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 播磨東教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 足立 幸謙 播磨東教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 岡田 浩一 播磨西教育事務所 主任指導主 事兼管理主事 竹原 一典 播磨西教育事務所 管理主事 辰田 奈味	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 兵庫教育大学 教授 小西 哲也 兵庫教育大学 准教授 安藤 福光 兵庫教育大学 准教授 上田 真弓 兵庫教育大学 准教授 川上 泰彦	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 兵庫教育大学 教授 小西 哲也 兵庫教育大学 准教授 安藤 福光 兵庫教育大学 准教授 上田 真弓 兵庫教育大学 准教授 川上 泰彦	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 兵庫教育大学 教授 小西 哲也 兵庫教育大学 准教授 安藤 福光 兵庫教育大学 准教授 上田 真弓 兵庫教育大学 准教授 川上 泰彦
7 日 目	6/20 (火)	時間	9:00～10:20	10:40～12:00	13:10～14:30	14:50～16:10	16:30～17:30
		内容	(講義) 学校評価システムの 活用	(講義) 教職員の職能開発の 実践	(講義) 教職員の評価・育成 システムの理解	(演習) 教職員の評価・育成 演習	全体総括 閉講式
8 日 目	6/20 (火)	講師・助言者	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 浅野 良一	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 教職員課 管理・免許班長 福島 豊	教職員課 管理・免許班長 福島 豊 教職員課 主任指導主事兼 管理主事 陰山 理沙 県立教育研修所 主任指導主事 荒木 和仁 県立教育研修所 主任指導主事 宋 久視 県立教育研修所 指導主事 乗松 宏美	兵庫教育大学 教授 浅野 良一 教職員課 主任管理主事兼 人事班長 漁 修生

大学と連携した指導力向上事業

〔事業について〕

本事業は、文部科学省の「外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上事業」を活用し、文部科学省と県教育委員会が委託契約を締結し実施する予定である。

県教育委員会は、兵庫教育大学と再委託をし、連携して本事業を実施し、県教委と兵教大が共催して研修を実施する。

〔兵庫教育大学と連携する効果〕

- ・教員養成課程の教職大学院を設置し、現職教員に対するカリキュラム、教材、環境が整備されており、指導法が確立していること
- ・兵教大と県教委が連携して実施している研修事業の実績があること
- ・大学には、海外交流等で得られた先進的な英語教育に係る情報があり、その先進的な研究内容の支援が得られること。

事業実施方法

推進リーダーの養成

兵庫県教育委員会

再委託

兵庫教育大学

共催して実施

委託

文部科学省

リーダー教員

地域単位

小学校：学級担任 中・高等学校：教科担任

ALT・地域人材・外国人講師

研究成果の普及・授業改善

役割分担

	兵庫県教育委員会	兵庫教育大学
研修内容	・研修要項の作成 ・本県の英語教育の実態及び課題提示 ・研修プログラムの検討	・具体的な研修プログラムの作成 ・研修プログラムの検討
研修講師		・兵教大教員 ・兵教大が必要に応じて他大学の教員を招聘
指導体制	・研修参加者に対する支援 ・研修参加者の目標管理 ・研修参加者の評価	・講師として、講義・演習の実施及び研修参加者への指導助言等
運営体制	・研修会の実施通知 ・研修参加者の把握 ・研修参加者のグループ分け ・研修参加者の旅費精算	・研修教室の確保 ・教材の開発・準備 ・教具等の準備
国からの委託経費の分配	運営に係る指導主事の旅費 研修評価、まとめ作成費用 等	講師の謝金・旅費、教材・教具等消耗品費等

実施スケジュール

4～5月：委託契約締結 6月～2月：委託契約期間・研修実施期間

平成29年度 大学と連携した英語指導力向上事業 日程等

				9:30～10:50		11:10～12:30		13:30～14:50		15:10～16:30	
1 日 目	日程	会場	校種	1		2		3		4	
	6月12日 (月)	兵庫県 中央労働 センター	小	開 講 式	講義 「今、英語教育に 求められること」 【竹内 理教授】	講義 「今、英語教育に 求められること」 【竹内 理教授】	講義・演習 外国語活動の授業実践(1) 吉田達弘教授		グループ協議 授業実践の 現状と課題 吉田達弘教授		英語力 J-POSTL 吉田達弘教授
			大ホール								
			講義・演習 中学校の授業実践(1) 近藤暁子准教授				グループ協議 授業実践の 現状と課題 近藤暁子准教授		英語力 J-POSTL 近藤暁子准教授		
			視聴覚室								
高	講義・演習 高等学校の授業実践(1) 【楠本信治特任教授】		演習 県内の 取組等 【指導主事】		英語力 J-POSTL 【指導主事】						
				大ホール				202			

2 日 目	日程	会場	校種	1	2	3	4
	1	2	3	4			
2 日 目	7月27日 (木)	神戸 ハーバーランド キャンパス	小	講義 授業プランの作成 モジュールの活用(1) 吉田達弘教授	講義・演習 授業プランの作成 モジュールの活用(2) 吉田達弘教授	演習 授業プランの作成 モジュールの活用(3) 吉田達弘教授	小中合同研修 吉田達弘教授 稲岡章代教諭 講義室4・5
			中	講義・演習 All Englishでの授業 をめざして(1) 稲岡章代教諭	講義・演習 All Englishでの授業 をめざして(2) 稲岡章代教諭	演習 新しい指導方法 (4技能の定着) 稲岡章代教諭	
			高	講義・演習 技能統合型の言語活動について 言語活動の留意点等 Rooks John Matthew 准教授	講義・演習 技能統合型の言語活動について プレゼンテーション Rooks John Matthew 准教授	講義・演習 即興型英語ディベート(1) 中川智皓助教	
	8月7日 (月)	神戸 ハーバーランド キャンパス	高	講義室1			講義・演習 即興型英語ディベート(2) 中川智皓助教

3 日 目	日程	会場	校種	1	2	3	4
	1	2	3	4			
3 日 目	8月25日 (金)	県立 教育 研修所	小	演習 ICTを活用した授業実践(1) 岡本真砂夫主幹教諭	演習 ICTを活用した授業実践(2) 岡本真砂夫主幹教諭	演習 ICTを活用した授業実践(3) 岡本真砂夫主幹教諭	演習 ICTを活用した授業実践(4) 岡本真砂夫主幹教諭
			中	講義・演習 パフォーマンス評価について(1) 今井裕之教授	演習 パフォーマンス評価について(2) 今井裕之教授	講義・演習 ICTを活用した授業実践(1) 米田謙三専任教諭	演習 ICTを活用した授業実践(2) 米田謙三専任教諭
			高	中高合同研修			中高合同研修
	8月21日 (月)	県民会館		303号室			

4 日 目	日程	会場	校種	1	2	3	4
	1	2	3	4			
4 日 目	10月13日 (金)	神戸 ハーバーランド キャンパス	小	講義・演習 先進校の取組を知る 朝来市小学校教諭・吉田達弘教授	協議 有効なT.Tについて 朝来市小学校教諭・吉田達弘教授	講義・演習 評価について(1) 吉田達弘教授	演習 評価について(2) 吉田達弘教授
			中	講義・演習 先進校の取組を知る 朝来市中学校教諭・近藤准教授	協議 有効なT.Tについて 朝来市中学校教諭・近藤准教授	講義・演習 技能統合型の言語活動(1) 稲岡章代教諭	講義・演習 技能統合型の言語活動(2) 稲岡章代教諭
			高	講義・演習 能動的な英語学習者を育てる 協同学習の進め方(1) 江利川春雄教授	講義・演習 能動的な英語学習者を育てる 協同学習の進め方(2) 江利川春雄教授	講義・演習 コーパスを活用した 教材研究(1) 石川慎一郎教授	講義・演習 コーパスを活用した 教材研究(2) 石川慎一郎教授
	10月12日 (木)	神戸 ハーバーランド キャンパス		コンピュータ教室・講義室4			

5 日 目	日程	会場	校種	1	2	3	4
	1	2	3	4			
5 日 目	1月25日 (木)	三田市立 広野小学 校	小		参加者代表者勤務校 での研究授業 吉田達弘教授	事後研修 吉田達弘教授	英語力 J-POSTL 吉田達弘教授
			中		参加者代表者勤務校 での研究授業 近藤暁子准教授	事後研修 近藤暁子准教授	英語力 J-POSTL 近藤暁子准教授
			高		参加者代表者勤務校 での研究授業 有働眞理子教授・楠本信治特任教授	事後研修 有働眞理子教授・楠本信治特任教授	英語力 J-POSTL 有働眞理子教授
	11月21日 (火)	西脇市立 西脇東中 学校			【事務局】		

平成29年度 兵庫教育大学と兵庫県立教育研修所との連携研修講座等の実施報告書

兵庫県立教育研修所

No.	研修講座名	講 師 〔兵庫教育大学関連〕	対 象	日程等	場 所	(受講人数 人)		
						一般 研修	公開 講座	合計
1	国語科教育講座 ー新学習指導要領を見据えた国語科の授業づくりに向けてー	兵庫教育大学大学院 教授 吉川 芳則	小・中学校及び 特別支援学校 (小・中学部) で国語科を担当 する教員	7月26日(水)	県立教育研修所	93	36	129
2	社会科教育講座 ー新学習指導要領を見据えた社会科の授業づくりに向けてー	兵庫教育大学 副学長 米田 豊	小・中学校及び 特別支援学校 (小・中学部) で社会科を担当 する教員	8月7日(月)	県立教育研修所	55	17	72
3	小学校理科教育講座 ー新学習指導要領を見据えた理科の授業づくりに向けてー	兵庫教育大学大学院 准教授 山本 智一	小学校及び特別 支援学校(小学 部)で理科を担当 する教員	9月27日(水)	県立教育研修所	7	3	10
4	地理歴史科・公民科授業 づくり充実講座 ー主体的・対話的で深い学 びをめざしてー	兵庫教育大学大学院 教授 吉水 裕也	高等学校及び特 別支援学校(高 等部)で地理歴 史科・公民科を 担当する教員	9月22日(金)	県立教育研修所	34	4	38
5	道徳教育講座 ー道徳教育の今日的な課題 を踏まえてー	兵庫教育大学大学院 教授 谷田 増幸	小・中・高等学 校及び特別支援 学校の教員	8月24日(木)	県立教育研修所	83	34	117
6	プログラミング教育講座 ー「プログラミング的思 考」を育むためにー	兵庫教育大学大学院 教授 森山 潤	小学校及び特別 支援学校(小学 部)の教職員	8月22日(火)	県立教育研修所	28	12	40
7	タブレット端末活用講座 B ータブレット端末で深める 学びー	兵庫教育大学大学院 教授 森山 潤	中・高等学校及 び特別支援学校 (中学部・高等 部)の教職員	10月5日(木)	県立教育研修所	21	8	29
8	ユニバーサルデザイン化 の視点をもとにしたICT 活用講座 ー合理的配慮の視点を踏ま えてー	兵庫教育大学大学院 准教授 小川 修史	全ての教職員	10月20日(金)	県立教育研修所	26	6	32
9	ミドルリーダーのための 学級経営講座 ー「いじめ未然防止プログ ラム」の活用に向けてー	兵庫教育大学大学院 教授 松本 剛 教授 秋光 恵子	小・中・高等学 校及び特別支援 学校の教員	7月26日(水) 8月17日(木) 9月21日(木)	伊丹市総合教育 センター 姫路市総合教育 センター 県立教育研修所	115	—	115

平成29年度 兵庫教育大学と兵庫県立教育研修所との連携研修講座等の実施報告書

兵庫県立教育研修所

No.	研修講座名	講 師 〔兵庫教育大学関連〕	対 象	日程等	場 所	(受講人数 人)		
						一般 研修	公開 講座	合計
10	震災に学ぶ防災教育講座 －兵庫の防災教育の推進－	兵庫教育大学 教授 岩井 圭司	小・中・高等学校及び特別支援学校の教職員	6月21日(水)	県立教育研修所	7	—	7
11	高等学校初任者研修(第4回) 「特別支援教育」	兵庫教育大学大学院 准教授 岡村 章司	高等学校教員	5月25日(木)	県立教育研修所	187	—	187
12	高等学校初任者研修(第8回) 「学級経営の視点」	兵庫教育大学大学院 教授 秋光 恵子	高等学校教員	8月18日(金)	県立教育研修所	183	—	183
13	高等学校初任者研修(第10回) 「地球の食卓」	兵庫教育大学教職大学院 特任教授 楠本 信治	高等学校教員	10月13日(金)	JICA関西	21	—	21
14	高等学校中堅教諭等資質向上研修 「生徒指導研修」	兵庫教育大学大学院 准教授 隈元 みちる	高等学校教員	9月5日(火)	兵庫教育大学	10	—	10
15	高等学校中堅教諭等資質向上研修 「生徒指導研修」	兵庫教育大学大学院 教授 藤原 忠雄	高等学校教員	9月6日(水)	兵庫教育大学	20	—	20
16	小中学校事務職員(経験者Ⅲ)研修講座	兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	小・中学校及び特別支援学校の事務職員	10月24日(火)	県立教育研修所	16	—	16

平成29年度 兵庫教育大学と神戸市教育委員会
(神戸市総合教育センター)との連携研修講座報告

No.	実施日	実施時間	担当講師	内容・形態	参加人数
-----	-----	------	------	-------	------

1. 基本研修／教職経験者研修／8年目研修(中堅教諭等資質向上研修)

1	5月26日(金) 第1回	15 : 00 ~ 17:00	廣岡 徹 非常勤講師	教員としてのキャリア研修	113 名
2	6月2日(金) 第1回				125 名

2. 基本研修／教職経験者研修／16年目研修

3	8月8日(火) 第1回	13 : 30 ~ 15:00	吉川 芳則 教授	校内授業研究のあり方	89 名
---	----------------	--------------------	-------------	------------	------

3. 職務研修／管理職研修／二年次校園長研修

4	5月16日(火) 第1回	13 : 30 ~ 17:00	日渡 円 教授	教職員の意欲を引き出す 管理職のコーチングⅠ 【講義・演習】	34 名
5	7月18日(火) 第2回	13 : 30 ~ 17:00	日渡 円 教授	教職員の意欲を引き出す 管理職のコーチングⅡ 【講義・演習】	47 名
6	9月12日(火) 第3回	13 : 30 ~ 17:00	日渡 円 教授	教職員の意欲を引き出す 管理職のコーチングⅢ 【講義・演習】	33 名
7	11月9日(木) 第4回	13 : 30 ~ 17:00	日渡 円 教授	教職員の意欲を引き出す 管理職のコーチングⅣ 【講義・演習】	36 名

4. 職務研修／管理職研修／二年次教頭研修

8	6月20日(火) 第2回	13 : 30 ~ 17:00	岩井 圭司 教授	教職員のメンタルヘルス 「教職員の仕事とストレス」 【講義】	46 名
---	-----------------	--------------------	-------------	--------------------------------------	------

5. 職務研修／管理職研修／四年次教頭研修

9	8月7日(月) 第1回	9:30~12: 00	浅野 良一 教授	学校組織マネジメント 【講義・演習】	52 名
10	8月7日(月) 第2回	13 : 30 ~ 17:00	浅野 良一 教授	学校組織マネジメント 【講義・演習】	52 名

No.	実施日	実施時間	担当講師	内容・形態	参加人数
-----	-----	------	------	-------	------

6. 職務研修／職務研修講座／学校力アップ講座(教務・校務運営)

11	5月26日(金) 第1回	15:00～ 17:00	安藤 福光 准教授	「生きる力・確かな学力を育む教育課程の編成」 ーカリキュラムマネジメント、教育課程編成と教務主任の役割ー	26 名
12	7月4日(火) 第3回	15:00～ 17:00	日渡 円 教授	「教育と法規」 ー教育法規の基礎知識を学ぶー	34 名
13	10月23日(月) 第4回	15:00～ 17:00	米田 豊 副学長	「学力の向上を目指して」 ー力のつく授業の推進、家庭学習習慣育成の取組ー	32 名
14	12月11日(月) 第5回	15:00～ 17:00	浅野 良一 教授	「学校づくりに生かす学校評価システム」 ー学校評価の進め方・生かし方ー	29 名

7. 職務研修／職務研修講座／学校力アップ講座(校内研修推進)

15	5月25日(木) 第1回	15:00～ 17:00	山内 敏男 准教授	「学校の活性化と校内研修」 ○校内研修の今日的課題と役割を知る ○自校研修の分析	10 名
16	9月29日(金) 第4回	15:00～ 17:00	米田 豊 副学長	「各校の実践から学ぶ」 ○2学期に生きる参加型研修の実際を知る ○各校の取組報告	22 名
17	1月23日(火) 第5回	15:00～ 17:00	浅野 良一 教授	「次年度プランへの提言」 ○研修評価を計画へつなぐ企画の仕方を 知る ○次年度プランづくり	16 名

8. 職務研修／職務研修講座／主幹教諭研修

18	6月7日(水) 第1回	15:00～ 17:00	浅野 良一 教授	学校活性化のための主幹教諭の役割	51 名
19	11月20日(月) 第2回	15:00～ 17:00	浅野 良一 教授	主幹教諭としての行動実践に向けて	58 名

平成29年度 兵庫教育大学と姫路市立総合教育センターとの連携研修計画

姫路市立総合教育センター 教育研修課

カテゴリ	番号	研修名	期日	内容	講師予定	受講者数
ライフ ステー ジ別 研修	1	中堅教諭等資質向上研修	5月10日(水)	ミドルリーダーの役割と特性	准教授 川上 泰彦	91
	2	ブラッシュアップセミナー①	7月25日(火)	メンターとしてのミドルリーダー	教授 山中 一英	91
	3	教職経験者(3年次)研修	9月13日(水)	授業改善につなげる教育評価の在り方	講師 奥村 好美	67
	4	ブラッシュアップセミナー②	9月15日(金)	言語活動の質を高める指導と評価	教授 勝見 健史	68
	5	幼稚園臨時教員研修②	10月17日(火)	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方	准教授 鈴木 正敏	48
	6	ブラッシュアップセミナー④	11月17日(金)	主体的・対話的で深い学びを行う際の評価の在り方	講師 奥村 好美	51
職 能 研 修	7	学校事務職員研修Ⅲ・Ⅳ	7月7日(金)	学校運営とマネジメントを考える	准教授 川上 泰彦	61
	8	教頭研修②	10月26日(木)	学校運営におけるマネジメント	准教授 川上 泰彦	101
パ ワ ー ア ッ プ 研 修	9	図工科①	8月3日(木)AM	造形表現活動の楽しさを実感できる図工科の授業づくり	教授 初田 隆	38
	10	図工科②	8月3日(木)PM	造形表現活動の楽しさを実感できる図工科の授業づくり	教授 初田 隆	30
	11	学級運営	8月10日(木)	望ましい児童生徒の理解と支援	教授 秋光 恵子	73

学校園支援

開 発 研 究 ・ 支 援	1	スペシャリスト派遣	市立学校園からの要請に基づき校内研修等へ講師を派遣
	2	兵庫教育大学との連携 (授業力向上プラン推進校)	推進校を6校程度指定し、協定に基づき兵庫教育大学教員を派遣
	3	新教育研究員制度	研究に対してアドバイザーが助言

平成29年度 兵庫教育大学と姫路市立総合教育センターとの連携研修講座等実施状況報告

H29研修受講確認カードより

姫路市立総合教育センター教育研修課

番号	研修名	対象	実績	研修の概要及び成果	受講者の感想より
1	中堅教諭等資質向上研修	小中特	91	◆概要 教職経験10年を経過し、中堅教員に求められる資質・能力について考え、ミドルリーダーとして今後教育活動に主体的に取り組む意欲を高める。 ○成果 タイムマネジメントを中心に、ミドルリーダーとして自分自身の働き方について考え直す良い機会となった。	・自分の学校のことをしっかりと知った上で、自分のやるべきことをしっかりと考え、優先順位を決めて一つ一つマネジメントして自分の時間の使い方を考えていこうと思いました。 ・兵教大の川上先生の講義では、うなづくことが多くこれまでの自分の経験を振り返る良い時間となった。タイムマネジメントを見直し、自分のキャリアアップの方向性を考えたり学校の中心としての役割についてもじっくり考えたりしたい。
2	ブラッシュアップセミナー①	小中高特	91	◆概要 中堅教員が担う若手教員を育成するメンターとしての役割や、ともに学んで行こうとする学校組織の構築について学ぶことで、中堅教員としての資質・能力を高め、学校運営参画への意欲向上を図る。 ○成果 講義で学んだことを、後半の演習ですぐに実践する形が、大変好評であった。中堅教諭として、ミドルリーダーとして、一人一人が自分自身の立場をしっかりと再確認できるきっかけとなった。	・メンタリングの姿勢で同僚職員に接することもあったことが自分自身認識することができた。子供も若い先生も自分で切り開いていく力を持っているという立場で話を聞き、本人が問題を解決できるようにサポートしていく。子供に接する時にも今日の学びを積極的に活かしていきたい。 ・新任教員にどのように関わっていけばよいかを考えるととてもいい機会となった。自分が新任の立場だったら、すぐ目の前のことを解決する答えを欲しがってしまうし、逆に聞かれたときには、すぐに全力で応えてしまおうと思うが、立ち止まってよく考え、メンタリングだけでなく、コーチングの視点からその人の成長を考え、聞くことが大切だと分かった。
3	教職経験者（3年次）研修	小中	67	◆概要 教職経験3年目の教員がこれまでの研修の成果や教育評価についての講義を踏まえて学習指導案の検討に取り組むことで、課題意識に基づく授業の工夫改善とカリキュラムを構想する力の向上を図る。また、これまでの教職経験を振り返り成果と課題を明確化することで、教師としての資質向上に関する意欲向上を図る。 ○成果 ルーブリックづくりについて、評価点を明確にすることで指導者側の評価にブレがなくなること、そこがクリアになることで学習者の学習内容がより深くなっていくことを理解できた。	・今日の話を聞き、評価は観点がやはりすごく大切なことやアンカー作品をつけておくこととふれずに評価できることなどが分かった。ペーパーテストの評価と違ってパフォーマンス評価は基準が難しく迷いながらいつも評価していたが、今日学んだことを取り入れ、根拠がしっかりとした評価をしていき、子供を伸ばしていけるようになりたい。 ・評価の方法を偏る方法で行うのではなく、様々な活動から多面的に行うことが必要だと感じた。また、予備的ルーブリックを作成することでパフォーマンス評価に繋がっていくことも学ぶことができた。具体的に子供たちの発言を予想することで、しっかりとした評価ができるということも今日の研修を受けて改めて実感した。
4	ブラッシュアップセミナー②	小中高特	68	◆概要 新学習指導要領においても引き続き求められている「言語活動の充実」に向けて、その目的や学習過程における位置づけ、評価の在り方について学ぶことでその充実を図る。 ○成果 深い学びには教師には教師の発問や発言がとても大きく影響する事、考えが深まった子供の姿を教師がしっかりとイメージし、さらに深まるように導くことのできる発問を考えることの大切さを学ぶことができた。	・今までの授業作り、授業での声かけ、生徒の文章へのコメントを考え直さなければいけないと思いました。思考の質を高める問いかけを意識して授業をしていきたいです。 ・母語とは社会と〈自分自身〉をつなぐ「思考の道具」である。これからは知識の量ではなく、持っている知識や技能を活かして新しい解を作り出す姿が求められるなど知識観が変化している事を認識した授業作りが大切であると感じた。また、主体的で対話的な深い学びをいかに深めていくかは、子供たちの考え方のすれを活かして学びを深めていくステージを教師が提示していくことで成り立っていく事を改めて学んだ。探索的コミュニケーションを目指した授業展開を心がけた。
5	幼稚園臨時教員研修②	幼	48	◆概要 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を行うためには、幼児期・児童期の教育の違いと、連続性・一貫性の調和を図ることが求められる。そこで、幼児期の子供たちの活動事例等から、具体的に円滑な接続について学ぶ研修を行うもの。 ○成果 子供自身が主体的に考え行動することが、将来につながるということがよく分かった。また、守られた幼稚園の中で、失敗体験を乗り越えさせ、小学校や将来に接続していくことを意識することが大切であることがよく理解できた。	・写真や動画などを見ながらだったので、とても分かりやすく、身近に考えることができました。 ・分かりやすく、皆が知識として必ず持っている内容だったので、興味深く聞き入りました。何となく知っている話題をしっかりと深めて研修することができた。 ・面白い話をしていただきながら、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について教えていただき、とても分かりやすかったです。子供が主体となる保育をしていきたいと思いました。
6	ブラッシュアップセミナー④	小中高徳	51	◆概要 新学習指導要領で示された新しい時代に求められる資質・能力を育むためには、児童生徒の学びの深まりを把握するための多様な評価方法が求められる。そこで、主体的・対話的で深い学びを行う際の評価の在り方について学ぶことで指導力の向上を図る。 ○成果 パフォーマンス評価のように子供の力を伸ばしていけるような課題を与え、言語活動の充実も含め、指導を見直していこうという意欲が高まった。	・生徒の評価を行う際には、丁寧な基準の設定が必要だと改めて感じました。そのためには、より普段からの生徒の見取りが必要だと思います。パフォーマンス課題を用いた授業実践をした際に、教師が期待する力と実際の子供も力や考え方にずれがあり、課題の設定を見直したこともありました。今回、奥村先生が言われたように、どう改善していくのかを検討し、次にいかす必要があります。 ・採用から11年目を迎え、評価方法も今の時代に合った方法を取り入れていく必要があるんだなと思いました。授業内容は多くの研修で学べますが、評価方法はあまり研修がないので今回の研修は為になりました。
7	学校事務職員研修Ⅲ・Ⅳ	小中特	61	◆概要 学校教育活動と学校事務の関係を理解し、学校事務職員として必要な職務上の知識や技能を習得するとともに、各種マネジメント力を高め、効率的、効果的な学校運営や事務室経営を図る。 ○成果 一人職ということもあり、学校事務職員の日常は、非常に多忙である。「タイムマネジメント」を切り口に、日々取り組んでいることを見直すとともに、すべてがマネジメントであり、学校事務職員として「存在感のある仕事」をすることについて学びを深めることができた。	・大変わかりやすい講義で、日々やっていることの中からマネジメントを考えることができました。今までよりもより身近に、より簡単にできるのではないかと少し考え方が変わりました。職場で実践していきたいと思います。 ・学校を取り巻く環境は大きく変わり、教員以外の非正規の職員も学校で働くようになってきました。その中で、いろんなスタッフを見渡し、つなぎ、管理して、学校組織をマネジメントしていく役割を学校事務職員が担う必要があると思います。一人ひとりが力を発揮できるように連絡・調整する一人として、自分自身の役割は大きいと感じています。 ・講義の内容が、事例も含めて具体的で大変わかりやすかったです。「足りところがある」ことに「マネジメント」の必要が発生することをおさえて、課題解決を考えたいと思います。

番号	研修名	対象	実績	研修の概要及び成果	受講者の感想より
8	教頭研修②	小中特	101	◆概要 教頭として学校教育を取り巻く諸課題についての現状把握や、学校での対応等について研修を深めることにより、管理職としての資質能力の向上を図る。 ○成果 様々な分析についてグラフを活用し、資料に伝えたいことが表記されており、分かりやすく、学びが深まった。また、仕事の質を探究することや相談しやすい雰囲気づくり、学び続けることなど、今後の働き方の方向性が見える研修となった。	・「教頭の強みは、ネットワークである。」この話にはとても納得できた。現任校のネットワークは、学校運営や子供たちにとって大きな力になっている。 ・本音で相談できる教頭になれるように努力していきたいと感じた。 ・最近職場では疲れ気味の教員が増えてきている。少しでも働きやすい職場を作っていかなければならないと思う。 ・リーダー（校長）とマネージャー（教頭）の違いについて明確になり、マネジメントに不可欠なネットワークの中で、自分自身には児童とのつながり、実態把握がたりないことに気がついた。どうしても職員室と地域に身をおくことが多いが意識的に教室へ足を運ぶよう心掛けたい。
9	パワーアップ研修講座（国工①）	保幼小中特	38	◆概要 水彩絵の具等を使って実習する中で、造形表現活動の楽しさ・意義や指導のポイントについて学ぶ研修を行うもの。 ○成果 準備が万端だったため、長い鉛筆や重い鉛筆を用いて描くときに、受講者が興味深く取り組むことができた。割り箸など、身近な材料を使用して描いたため、子供達にも興味を持たせることのできる研修となった。	・ラジオ体操を色鉛筆でするなんて、とても驚きました。とても楽しくて、学校の子供達にも教えてあげたいです。 ・抽象表現や具象表現の仕方を学ぶことができました。私自身がとても楽しめたので、学校でもしていきたい。 ・楽しく描けたことと、「やさしい色ですね」とか「雰囲気が出てますね」と声をかけていただいたことで、少し自信が持てました。 ・描くことは上手に描くことだけでなく、「相手を良く見る」ことということがとても印象的でした。
10	パワーアップ研修講座（国工②）	保幼小中特	30	◆概要 水彩絵の具等を使って実習する中で、造形表現活動の楽しさ・意義や指導のポイントについて学ぶ研修を行うもの。 ○成果 準備が万端だったため、長い鉛筆や重い鉛筆を用いて描くときに、受講者が興味深く取り組むことができた。割り箸など、身近な材料を使用して描いたため、子供達にも興味を持たせることのできる研修となった。	・ラジオ体操を色鉛筆でするなんて、とても驚きました。とても楽しくて、学校の子供達にも教えてあげたいです。 ・抽象表現や具象表現の仕方を学ぶことができました。私自身がとても楽しめたので、学校でもしていきたい。 ・楽しく描けたことと、「やさしい色ですね」とか「雰囲気が出てますね」と声をかけていただいたことで、少し自信が持てました。 ・描くことは上手に描くことだけでなく、「相手を良く見る」ことということがとても印象的でした。
11	パワーアップ研修講座（学級運営）	小中高特	73	◆概要 学校生活の基礎となる児童生徒理解に基づく指導について学び、望ましい学級運営の在り方や支援の方法について具体的に理解するための研修を行うもの。 ○成果 学級の中で、意識していない子供が多いことに気付くことのできる研修となった。また、様々なデータを基にした講義であったため、視覚的にも分かりやすいものとなった。	・子供を変えることばかりに力が入っていたが、まずは私自身が変わらなければならないと感じました。1つの見方で見るのではなく、様々な見方で子供達を見て受け入れなければならないと思いました。 ・朝、校門前で登校してくる子供の顔を見て、笑顔で「おはよう」と声をかけて出迎える挨拶運動は、学校がすこししやすい居場所につながっているのだと感じました。 ・て、子供の適応状態が変わり、評価が違うという差がとても大きく驚きました。先入観があることで、子供の成長を減らしてしまうかもしれないと気付けたので、自分を見直すことを大切にしてクラスを見ていきたいと思います。

平成29年度 兵庫教育大学と尼崎市立教育総合センターとの連携研修講座

No.	研修名	実施日	研修場所	テーマ	講師	参加人数
1	国語科教育研修講座	8月8日 (火) 14:30-16:30	尼崎市立 教育総合 センター	メディアを活用した国語科授業	羽田 潤 准教授	45
2	技術科教育研修講座	7月31日 (月) 14:00-16:00	尼崎市立 教育総合 センター	学習指導要領の改訂と技術科教育の方向性	森山 潤 教授	10
3	家庭科教育研修講座	8月22日 (火) 10:00-12:00	尼崎市立 教育総合 センター	家庭科教育における主体的・対話的で深い学び	永田 智子 教授	20

**平成29年度 兵庫教育大学と西宮市教育委員会
(教育研修課)との連携研修講座の実績**

講座 No.	期日	曜	カテゴリー	講座名	テーマ	講 師	対象	参加 予定 人数
1	4月21日	火	企画研修	校内研究 の進め方 Ⅰ	校内研究計画について	勝見 健史 教授	小中特教職員	18名
2	5月31日	水	職務研修	初任者 研修	道徳教育とは	行本美千子 非常勤講師	小中特教職員	61名
3	8月2日	水	企画研修	健康教育 研修	子どもが元気になる 学校づくり	秋光 恵子 教授	小中特教職員	82名
4	8月9日	月	専門研修	道徳教育 研修	特別な教科「道徳」の進め 方	行本美千子 非常勤講師	小中特教職員	25名
5	8月10日	木	企画研修	校内研究 の進め方 Ⅱ	1学期の校内研究の見直 しについて	勝見 健史 教授	小中特教職員	16名
6	8月21日	月	専門研修	社会科 教育研修	社会科教育について 「新学習指導要領のポイ ント」	米田 豊 副学長	小中特教職員	30名
7	9月14日	木	専門研修	学校事務 職員研修	学校経営と学校事務職員	諏訪 英広 准教授	小中特学校事 務職員	79名
8	10月18日	水	職務研修	教頭研修	「特別支援教育の現状と 今後の課題」	河相 善雄 教授	小中高特教頭	65名
9	1月5日	木	職務研修	西宮教育 推進講座	学校組織マネジメント	浅野 良一 教授	幼小中高特教 職員(学校長 の推薦のあつ た者)	60名
10	1月11日	木	企画研修	校内研究 の進め方 Ⅲ	研究紀要作成について	勝見 健史 教授	小中特教職員	10名

※米田 豊 副学長には、特別研究指導員として、社会科の研究グループと西宮市中学校教科等研究会社会科部会において、授業研究等への指導助言を随時いただいた。

平成29年度 兵庫教育大学研修講座実施状況

●自主研修、中堅教諭等資質向上研修等の選択研修

H29.9.20 現在

No.	新規 継続	教科名等	研修講座名	講 師	主たる対象	日程等	場所	募集人数	受講者数
1	継続	理科	顕微鏡による岩石の観察	澁江靖弘教授	中学校教員	8/5(土) 13:10～16:55	加東C 自然・生活・健康棟419	8 名まで	7
2	継続	道徳	学習指導の多様な展開を構想する道徳の時間の授業づくり ～持ち帰ってすぐに使える指導案を作成しよう！～	淀澤勝治准教授	小学校・中学校教員	8/18(金) 10:00～16:10	加東C 共通講義棟304	15 名程度	22
3	継続	その他 ICT 活用 (校務)	校務におけるICT活用のための基礎 -ワークフロー、表計算ソフトを中心としたオフィスソフトウェア活用における基礎とポイント-	掛川淳一准教授	学校種を問わない	8/18(金) 10:00～16:30	加東C 共通講義棟情報教育実習室3	10 名程度	10
4	新規	図画工作 美術	「デス・エデュケーション」としての美術教育を考える	初田 隆教授	幼稚園・小・中学校教員	8/20(日) 13:30～17:50	加東C 芸術棟203	10 名程度	10
5	新規	職能開発	ワークショップ入門 -協同的な学びと創造の新しいスタイル	宮元博章准教授 ※丸毛幸太郎	学校種を問わない	8/21(月) 10:00～17:00	加東C アクティブラーニングスタジオ	16 名程度	21
6	継続	技術家庭 (技術)	技術科におけるICT活用の授業デザイン 2017 -電気回路シミュレーションの活用-	森山 潤教授 ※末吉克行	中学校技術科教員	8/4(金) 10:30～16:30	加東C 自然・生活・健康棟112及び 技術実習棟	5 名程度	13
7	継続	技術家庭 (技術)	技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究 2017 -パソコンによるフルカラーLEDの制御-	小山英樹教授 森山 潤教授	中学校技術科教員	8/23(水) 10:00～16:30	加東C 自然・生活・健康棟139 (技術実習棟・電気実習室)	5 名程度	8
8	継続	職能開発	インプロ・ワークショップでこころと身体を解きほぐそう -共感的・応答的・創造的コミュニケーションの愉しみ-	宮元博章准教授 ※鈴木聡之	学校種を問わない	8/23(水) 13:00～17:00	加東C マイクロティーチングスタジオ①	16 名程度	15
9	継続	音楽	ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫 -歌唱、リコーダーを中心として-	河邊昭子准教授	小学校教員	8/24(木) 10:00～15:00	加東C 芸術棟100 (合奏演奏室)	20 名程度	24
10	新規	その他 (プログラミング教育)	プログラミングに挑戦！ -Scratchによるゲーム・教材作成 体験 -	掛川淳一准教授 森山 潤教授 ※黒田昌克	小学校教員	8/29(火) 10:00～16:00	加東C 共通講義棟情報教育実習室3	10 名程度	10
11	新規	生活科 理科 総合的な学 習の時間	アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ	溝邊和成教授 ※田中吾子	小・中学校教員 (幼稚園教諭も可)	7/28(金) 10:00～15:00	神戸HLC 講義室4	15 名程度	20
12	継続	児童生徒 理解	脳科学と教育 -情動・睡眠に関連して-	松村京子教授 ※谷池雅子 ※佐藤真	学校種を問わない	8/1(火) 13:30～16:30	神戸HLC 兵教ホール	30 名程度 (※うち高校教 諭バック15名)	45 (15)
13	継続	児童生徒 理解 学級経営	子どもと学級をみる目を広げる	秋光恵子教授 ※川元佳子 ※石井真理	現在、学級担任をしてい る小・中・高等学校教員	8/1(火)、8/3(木) 2日間 10:00～15:00	(8/1)神戸HLC・講義室1 (8/3)神戸HLC・講義室1	10 名程度	10
14	継続	体育	非言語コミュニケーション力を育む体育授業づくり	簡井茂喜准教授	小学校・中学校教員	8/2(水) 9:30～12:00	神戸HLC 講義室1	15 名程度	17
15	継続	授業研究	わかる授業づくりのポイントを学ぼう -生涯楽しく学び続ける教師であるために-	吉國秀人准教授 ※安河内 功	小学校教員	8/5(土) 10:00～16:00	神戸HLC 兵教ホール	10 名程度	23
16	継続	小学校 理科	やってみよう！楽しい理科の実験・実技 -小学校の先生自身が楽しむ理科-	笠原 直准教授 ※山野井 昭雄	小学校教員	8/6(日) 13:00～16:00	神戸HLC 講義室4	12 名程度	19
17	新規	学級経営	心理学から考えるいじめのない学級づくり	秋光恵子教授	現在、学級担任をしてい る小・中・高等学校教員	8/8(火) 9:00～12:00 13:00～16:00	神戸HLC 兵教ホール	25 名程度 (※うち高校教 諭バック15名)	21 (0) 27 (15)
18	継続	授業研究	対話による授業リフレクションの体験 -“自分のことば”で授業を語りー聴き合う教員研修-	宮元博章准教授 ※大向 勲	主として小学校・中学校 教員 (他校種の教員も可)	8/17(木) 10:00- 16:30、8/18(金) 11:00-16:30(2日間)	神戸HLC 兵教ホール	25 名程度 (※うち高校教 諭バック15名)	20 (15)
19	継続	職能開発	教師としての成長・発達について考える -教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らない ために-	別惣淳二准教授 ※新井 肇	小学校・中学校教員	8/20(日) 9:30～17:00	神戸HLC 兵教ホール	30 名程度 (※うち高校教 諭バック15名)	27 (15)
20	継続	高等学校 生物 生物基礎	教員のための分子生物学 -演習を通して理解を深めよう-	笠原 恵准教授	高等学校生物教員、分 子生物学に関心のある 他校種教員	8/22(火) 10:00～14:00	神戸HLC コンピューター教室	12 名程度	14
21	継続	部活動	部活動の指導と運営	森田啓之准教授	主に中学校教員(高等 学校教員も可)	8/25(金) 13:30～16:30	神戸HLC 講義室2	20 名程度	24
22	継続	算数	思考力・表現力を育てる算数科授業づくり	加藤久恵准教授	小学校教員	9/9(土) 13:30～16:45	神戸HLC 講義室1	20 名程度	18
23	新規	図画工作科 美術科	陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞	浅海真弓准教授	小学校・中学校教員	8/18(金) 13:30～15:30	兵庫陶芸美術館	16 名程度	17

備考：(1)講師欄の下線は、講座実施責任者を示す。また「※」は、学外講師を示す。

(2)受講者数欄の()は、高校教諭のバックによる受講者数を内数で示す。

合 計

23講座

415 名程度 442

101.7%

研修実施報告書

NO.1

「顕微鏡による岩石の観察」

○ 研修の背景やねらい

中学校の理科の教科書で岩石の偏光顕微鏡観察が扱われていることがある。例えば、啓林館が発行する中学校理科1年生用の教科書には、玄武岩、安山岩、流紋岩、斑れい岩、せん緑岩、花こう岩の各資料を偏光顕微鏡で観察した時の写真が掲載されている。

本講座では、偏光顕微鏡の扱い方を講義し、偏光顕微鏡による観察実習を行う。顕微鏡観察を行う岩石として、深成岩である花こう岩と火山岩である流紋岩を取り上げる。教科書が取り扱っている六種類の岩石すべてを取り扱うことは時間の関係で行わない。火成岩以外でも顕微鏡観察を行う方が理解を深めることができる岩石がある。本講座では、古生代の代表的示準化石であるフズリナを含む岩石（石灰岩）の顕微鏡観察も行う。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：中学校。経験年数は問わないが、偏光顕微鏡による岩石観察を行った経験のない人を対象とする。

人 数：7人

期 間：平成29年8月5日（土）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス

講 師：澁江靖弘（兵庫教育大学大学院 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

1 コマ目：偏光顕微鏡の使い方

2 コマ目：花こう岩、流紋岩、石灰岩、安山岩、玄武岩の観察

研修対象者の項目で記したように、今回の研修は偏光顕微鏡を扱ったことのない人を対象にしている。そこで、実際に偏光顕微鏡を用いて、実習の中で偏光顕微鏡の構造や操作方法を習得する必要がある。今回の研修では、機器の操作に関する基本的な事項の習得を1コマ目の研修で目指した。

偏光顕微鏡の操作方法を習得した後で、実際に資料の観察を2コマ目で行った。「研修の背景やねらい」の項目で記したように、今回の研修では教科書に掲載されている岩石の顕微鏡観察を行った。偏光顕微鏡で岩石を観察すると様々な鉱物を偏光顕微鏡で観察することができる。単なる岩石の観察だけではなく、岩石中に含まれている鉱物の鑑定実習もあわせて行うことにした。取り上げた鉱物等は、石英、斜長石、黒雲母、白雲母、輝石である。さらに、フズリナを含む石灰岩の観察を行って、顕微鏡観察が火成岩以外の岩石についても有効であることへの理解が深まることを目指した。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
偏光顕微鏡の使い方	1 コマ目	偏光顕微鏡の構造と操作方法を習得する。	<内容> 偏光顕微鏡の構造と操作方法を習得するための実習 <実施形態> 出席者一人につき一台の偏光顕微鏡を用意して、筆者が行う操作を見ながら出席者が自分の顕微鏡を操作する。

			<使用教材> 筆者が、今回の講座のために昨年度の講座で使用したものを改訂して作成したプリントを使用した。 <進め方> プリントに記した操作および観察方法を、筆者の演示を見た後で出席者が行う方式をとった。 <留意点> 偏光顕微鏡を長時間使用すると目が疲れるので、1コマ目の途中で休憩を入れた。
花こう岩，流紋岩，安山岩，玄武岩，石灰岩の観察	2コマ目	花こう岩，流紋岩，安山岩，玄武岩と石灰岩のプレパラート（薄片）を観察する。	<内容> 花こう岩，流紋岩，安山岩のプレパラートを偏光顕微鏡で観察して，これらの岩石の特徴（等粒状組織と斑状組織）およびプレパラート中に含まれている鉱物の観察を行った。さらに，フズリナを含む石灰岩のプレパラートを偏光顕微鏡で観察して，古生代の代表的示準化石であるフズリナを観察するとともにプレパラート中に含まれている鉱物（方解石）の観察を行った。時間に少し余裕ができたので，玄武岩の観察を短時間ではあるが行った。 <実施形態> 出席者一人につき一台の偏光顕微鏡と花こう岩，流紋岩，安山岩，玄武岩，石灰岩のプレパラート各一枚を用意した。筆者の偏光顕微鏡中で見られる組織（花こう岩なら等粒状組織，流紋岩なら斑状組織）あるいは鉱物等（石英，斜長石，黒雲母，白雲母，輝石，フズリナ，方解石）を観察してもらった後，各自が自分の偏光顕微鏡でこれらの組織や鉱物等を観察した。 <使用教材> 筆者が、今回の講座のために昨年度の講座で使用したものを改訂して作成したプリントを使用した。 <進め方> プリントに記した観察項目に関する筆者の演示を見た後で，出席者が自分の偏光顕微鏡で観察して確認した。 <留意点> 偏光顕微鏡を長時間使用すると目が疲れるので，2コマ目の途中で休憩を入れた。

○ 実施上の留意事項

偏光顕微鏡を使用する場合，90 分間の研修では目に大きな負担がかかる。そこで，適宜，休憩時間をはさむ必要がある。

○ **研修の評価方法，評価結果**

出席者が鉋物等を鑑定できているかどうかを評価した。

出席者7名全員が，鉋物等の鑑定ができるようになっていた。したがって，全員，評価は「極めて良好」である。

○ **研修実施上の課題**

機器（偏光顕微鏡）の台数の関係で，多人数への研修は不可能である。

「学習指導の多様な展開を構想する道徳の時間の授業づくり
～持ち帰ってすぐに使える指導案を作成しよう！～」

道徳授業に関して、その教材研究の仕方の基本を学ぶとともに、それらを活用して、より具体的に指導案を作成し、実践に活かせるようにすることを目的とする。

対 象：小・中学校教員
人 数：22 人
期 間：平成 29 年 8 月 18 日（金）
会 場：兵庫教育大学加東キャンパス
講 師：淀澤勝治（兵庫教育大学大学院 准教授）

まず、午前中は読み物資料の教材解釈の基本を講義形式で伝達する。午後からは、それぞれが持ち寄った読み物資料を使ってより具体的な指導案を作成し、それらを各自が発表するといった配置を考えた。

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
読み物資料の教材解釈の基本	2時間	道徳資料の教材解釈の仕方を学ぶ	内容：道徳資料の教材解釈の仕方 実施形態：講義形式 使用教材「窓ガラスと魚」「2通の手紙」 進め方：講義形式で進めるとともに必要に応じて質疑応答を行う。 配慮事項：受講生のニーズに出来るだけ応えられるように配慮する。また、校種を超えて理解できるように努める。
読み物資料の指導案づくり	2時間半	各自が持ち寄った道徳資料を使っての指導案を作成することによって、持ち帰ってすぐに使えるものとする。	内容：道徳指導案づくり 実施形態：演習形態 使用教材：各自が持ち寄った読み物資料または、こちらで用意しておいた資料 進め方：演習形式で進めるとともに必要に応じて質疑応答を行う。 配慮事項：受講生のニーズに出来るだけ応えられるように配慮する。また、校種を超えて理解できるように努める。
発表	30分	各自が作成した指導案を説明することで、その内容を吟味する	内容：指導案の発表 実施形態：演習形態 使用教材：各自が作成した指導案 配慮事項：成果と課題を明確にする。

○ **実施上の留意事項**

中堅・ベテランの教師に対してより専門性を高めるために、道徳資料の教材解釈の基本を伝えるとともに、そのノウハウを使って具体的な指導案を作成できるように配慮した。

○ **研修の評価方法，評価結果**

指導案づくりへの意欲や成果、ならびに発表の際の積極的な関わりを評価した。その結果、すべての受講生が実に積極的に関わり、なおかつ優れた指導案を作成することが出来た。

○ **研修実施上の課題**

特に大きな課題はなく、あえていうならば来年度以降も受講生の皆さんに満足いただけるような研修にするために創意・工夫を重ねたい。

NO.3

「校務における ICT 活用のための基礎ーワープロ, 表計算ソフトを中心としたオフィスソフトウェア活用における基礎とポイントー」

○ 研修の背景やねらい

ワープロ, 表計算, プレゼンテーション等各ソフトウェアの活用における基礎とポイントについて実習形式の研修を行うことで, 日頃から利用してきているソフトウェアを, 校務において, より効率的・効果的に利用できるようになることが, 本研修の目的である。また, 上述のソフトウェアに関することに限らず, 日頃感じている ICT に関連した疑問 (たとえば, 教育の情報化 (教科指導における ICT 活用, 情報教育 (情報モラル教育を含む)), 校務の情報化等について) の解消についてもねらいに含む。

○ 対象, 人数, 期間, 会場, 講師

対 象: 学校種別, 経験年数不問

人 数: 10 人

期 間: 平成 29 年 8 月 18 日 (金)

会 場: 兵庫教育大学加東キャンパス

講 師: 掛川 淳一 (兵庫教育大学大学院 准教授)

○ 各研修項目の配置の考え方 (何をどの程度配置すべきと考えたか)

「表計算ソフトの演習: 成績処理を題材として」については, 効果的・効率的な使用方法 (「オートフィル」とそのオプション, 「貼り付け」のオプション, および相対参照・絶対参照等) についての認識, および理解が十分でないことが予想されたため, 長めに時間を配分した。また, 「ワープロソフトと表計算ソフトの演習: 差し込み印刷」については, 過去の研修講座において挙げた要望を踏まえ, あて名ラベル印刷, 表彰状作成等の「差し込み印刷」を題材として, Word と Excel との連携について体験的に学習できるよう配置した。今後の学校現場における ICT 活用を促進する目的で, 今回の演習内容に関わらず, 質問を受講生で共有した後, 講師はそれらについての質問応答を行うようにした (「ICT に対する疑問・質問対応」)。

○ 各研修項目の内容, 実施形態 (講義・演習・協議等), 時間数, 使用教材, 進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容, 形態, 使用教材, 進め方等
表計算ソフトの演習: 成績処理を題材として	2時間	表計算ソフトの効果的・効率的な使用方法を学ぶ	<内容> 表計算ソフトの効果的・効率的な活用のための各機能, およびそれらの使用方法 <実施形態> 演習・実習 <使用教材> 演示・例示, および演習・実習用課題のファイル <進め方> 演示・例示ののちの演習, 実習 <留意点> 過度に進みが早くなならないようにした。

表計算ソフトの演習：差し込み印刷	2時間	ワープロソフトと表計算ソフトの連携方法を学ぶ	<内容> 表計算ソフトの差し込み印刷の各機能，およびそれらの使用方法 <実施形態>演習・実習 <使用教材> 演示・例示，および演習・実習用課題のファイル <進め方> 演示・例示ののちの演習，実習 <留意点> 過度に進みが早くなならないようにした。
ICTに対する疑問・質問対応	1時間30分	日々新しくなるICTに対応していくための，ポイントと心構えの獲得 ICTを使用している中で生じた疑問の解決	<内容> ● 日々新しくなるICTに対応していくための，ポイントと心構えについての講義， ● 受講生のICTを使用している中で生じた疑問の共有と，それらに対する講師からの質問応答。 <実施形態>講義，演習・実習 <使用教材> 説明用スライドのファイル 質問に対応したファイル，関連Webページ <進め方> 疑問の共有，その後質問対応 疑問点の解決方法の講義，演示・例示 <留意点> 疑問を共有できるようにした。 また，事前に想定された疑問・質問については説明用資料を準備しておいた。

○ 実施上の留意事項

昨年度の反省，および受講生からの要望に基づき，内容について，精選し，表計算ソフトを中心としたものとした。また，表計算ソフトについては，その効果的・効率的な使用方法について，認識，および理解が十分でないことが予想されたため，演習，実習について長めに時間を配分した。

○ 研修の評価方法，評価結果

演習への取組み状況，および演習課題の完遂の可否を以って評価とした。結果として，受講生全員が合格となった。

○ 研修実施上の課題

表計算ソフトについては，現場においては，データ処理に利用されることよりも，書類の書式作成，入力に使用されていることが多いそうであり，表計算ソフトとしての使用は多くないとのこと。そのような使用方法においては，本講座のポイントである「オートフィル」とそのオプション，「貼り付け」のオプション，および相対参照・絶対参照等についての効果についての認識に結び付きにくいようであった。表計算ソフトのポイントについて明確になるような，例えば簡単な統計学のような題材にすべかどうか，今後検討を行っていく。

#

「お墓」をイメージする	30分	・「お墓」をイメージすることで自分の死後について感じ、考える	・原始人のお墓について ・「魂のかえる場所」をイメージし、ミニ煉瓦を使って造形化する。 ・墓のデザインと墓碑銘を考える
死後をイメージする	15分	・「死後」について感じ、考える	・思考実験「子どもの『人は死んだらどうなるの？』にどうこたえるか？」 ・ペアで、即興表現をする（時間の過ぎる音、魂の離れていく音、死後の世界で聞こえる音、等のイメージ）
死の絵画の鑑賞	20分	・死と美術について感じ考える	・死をテーマとした絵画の鑑賞 ・死をテーマとした絵画にペアでふさわしい音響をつける。
自己物語絵	30分	・これまでの人生と今後の人生、自分の死をイメージする。	・これまでの人生と未来、死をイメージし抽象的にドローイングする。 ・作品を基に、人生と死を語り合う。

○ 実施上の留意事項

「死」は軽く扱うべきものではないといった一般的な感覚を尊重しつつも、可能な限り楽しく明るい雰囲気の中で、活動と話し合いを重ねていきながら、「死」への感じ方の変容を図り、死の教育の必要性について理解を促すようにする。

○ 研修の評価方法、評価結果

ワークごとに、意見交流を行うことで、受講者の感じ方、考え方を知るようにする。評価結果としては、概ね良好と思われる。

○ 研修実施上の課題

特になし。

研修実施報告書

NO.5

「ワークショップ入門 ―協同的な学びと創造の新しいスタイル―」

○ 研修の背景やねらい

近年、さまざまな分野においてワークショップと呼ばれる学びの手法が盛んに行われるようになった。学校教育においても、教員研修のみならず、授業にワークショップが取り入れられるケースも増えており、アクティブ・ラーニングの視点からも今後ますます注目されると思われる。ワークショップという学びを実り豊かなものにするためには、その背後にある新しい学習観を踏まえた上で、学びの場づくりやファシリテートの要点を、参加者としての学びの経験と付き合わせながら実感として理解することが有益である。本講座では、ワークショップにまだ慣れ親しんでいない初学者を対象に、受講者が参加者としてワークを経験し、気づきをふり返り、共有しながら、同時に企画・運営者、ファシリテーター側の視点も解説することにより、ワークショップという学びのスタイルの基本的な枠組を学ぶことを目的とする。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：学校種を問わない

人 数：21 人

期 間：平成 29 年 8 月 21 日（月）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス アクティブラーニングスタジオ

講 師：宮 元 博 章（兵庫教育大学大学院 准教授）

丸毛幸太郎（NPO 法人 Co.to.hana コミュニティデザイナー）

○ 各研修項目の配置の考え方

本研修講座そのものを 1 つのワークショップと見立て、種類の異なる 3 つのワーク（活動）とレクチャー（知識提供）から全体を構成した。初めは「関係づくり」のワークを行いアイスブレイク的なゲーム活動を行いながらメンバー間の関係をつくる。次に、グループ内で 1 つのアイディアを生み出す創造的ワークを行う。その後、ワークショップに関する基礎知識と重要な考え方についての知識提供をレクチャーとして行った後で、知識と活動をつなぎながら今日の体験を振り返り、意味づける対話形式の振り返りセッションを行う。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
オープニング、およびアイスブレイクのワーク	2 時間	・研修講座の趣旨の確認とプログラムの流れの説明。 ・身体と言葉のほぐしと、参加者相互の関係づくりを兼ねたワーク。	< 内容 > 趣旨説明と自己紹介（講師と参加者）の後、アイスブレイクのワーク < 実施形態 > 全体で、適宜グループを組み替えつつインプロ（即興）ゲームを行う < 進め方 > 身体を動かし、即興的に思いついた考えを自由に出し合って話を作り出していくようなゲーム活動を行う。ゲームの後で活動を振り返り、気づきを共有する。

			<留意点> 活動ごとにグループを組み替えて、できるだけ多くの参加者相互作用を生み出す。ファシリテーターは参加者の様子を見ながら即興活動のレベルを調整し、参加者が無理なく、楽しみながら、徐々に型にはまらない自由な表現を出せるような雰囲気を作っていく。
チームによる創造のワーク	1 時間 30 分	・ 非日常的な課題状況を設定し、チームで協働して商品を企画するというワークを行う。 ・ 自由で楽しい笑いに満ちたコミュニケーションの中でアイデアが創発する醍醐味を味わう。	<内容> 「画期的な〇〇」をつくるという課題のもとで、チームでアイデアを出し合い、商品企画を行う。 <実施形態> 4～5名のグループによる話し合い活動 <進め方> まず「使えない〇〇」を個人で多数考えた後、グループでその「使えない」特性を生かしたまま工夫により商品化できそうなアイデアを考える。途中でグループメンバー入れ替えてアイデアを発展させた後で、再びチームに戻り商品企画を完成させ、発表する。その後でチーム内で振り返りをし、気づきを共有する。 <留意点> どんな奇抜なアイデアも一旦受け入れて可能性を考えていけるように、グランドルールを提示する。最初にファシリテーターが奇抜なアイデアを例示する。ワークシートや付箋紙などでアイデアの産出を支援する。活動中は極力介入しないようにする。
休憩＋レクチャー	60 分	・ ワークショップという学びのスタイルについて基礎的知識を提供する	<内容> ワークショップという活動の定義、歴史、背景思想、ワークショップの基本構成、ワークに含めるべき要素、ファシリテーションのポイント等について概説を行う <実施形態> 講義 <進め方> 1人の講師がパワーポイントを使いながら話す。パワーポイントのスライド資料と補助資料を配付し、受講者は椅子のみでモニターの周囲に集まって聴く。 <留意点> 抽象的な話のみにならないよう、いくつかのワークショップの実例を写真やビデオで見せながら説明をする。
振り返りと学びの意味づけのための対話ワーク	60 分	・ ここまでのワーク体験と講義内容を統合し、対話を通じて、自分なりの学びを意味づけ	<内容> 「ワークショップで1人ひとりが参加し、協力して学びを生み出すために大切なことは何か」という問いを提示し、グループで対話を行う。その後で、個人で振り返りシートに記入をし、1人ずつ発表し

		ていく	て全員で共有し合う。 <実施形態> 対話と個人による振り返り <進め方> 対話は4人～5人のグループ（前のグループとは違うメンバーで構成）で行う。個々人の学びの振り返りのためには、シートを用意する。個々人が振り返りをシートに書き込んでいる間、モニターにここまでのワークショップの写真をスライドショーで呈示し続け、活動の様子を客観視しつつ振り返りの助けとする。 <留意点> この段階では、ファシリテーターからはほとんど介入的な発言を行わず、参加者たちが自分自身の言葉で学びを意味づけることを重視した。
講師による意図開きとクロージング	30分	・講座（ワークショップ）の講師たちが、今日の講座を企画・設計した経緯と、ここまでの当日ファシリテーションの行為意図などを開示することで、企画・運営者視点からの自身の体験のさらなる意味づけを促し、学びを深める。	<内容> 講師による、今日の講座自体の企画・コンセプトの設計・準備のプロセス（メイキング）とファシリテーションの視点や場を活性化する「しかけ」について解説する。 <実施形態> 講話

○ 実施上の留意事項

上記の表中に記載済み。

○ 研修の評価方法、評価結果

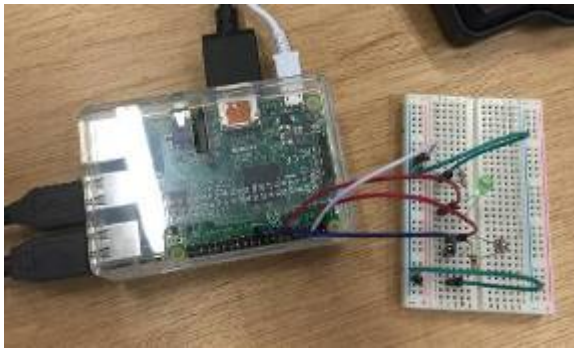
①計画した内容を十分に行うことができたか。②実習中の受講者の取り組みについての観察、③受講者によるアンケートの評定と感想によって判断した。その結果、①については、事前に講師間で議論を重ね、プログラムを入念かつ時間的余裕をもって設計した上で、当日の参加者達の活動の様子を見ながら時間配分やプログラム内容を柔軟に調整したことで、活動中での交流、レクチャー、振り返りと共有を十分に行うことができた。②あまり内容を把握せずに申込み参加した受講者もあり、最初は初対面同士でのやり取りに緊張や戸惑いも見られたが、午前中にアイスブレイク的な活動をしっかりと行ったこともあり、その後の活動においても受講者は活動にコミットし、特に、2番目の商品企画ワークはこちらの予想以上に柔軟なアイディアが飛び交っていた。③アンケート集計では、本講座の評価に関わる項目では、ほぼすべてにおいて肯定的な回答（そう思う、まあそう思う）であったことから、参加者の満足はいく講座になったと考えられる。こちらが用意した振り返りシートへの回答でも、「初めて会う人がほとんどだったが、安心して話せる雰囲気があり、楽しい時間をすごすことができた」、「頭で考えるには、まず体を動かすことが必要だと改めて気づいた」、「ある程度意図されているものだけど、そこから何がうまれるのかわからない面白さがあるのがワークショップ

プ」，「対話の中で，考えることが広がり，新たなことに気づいていく」，「自分の中で漠然としていたWSのねらいや意図というものがわかった」，「「学び」の可能性について考えられるととてもいい機会でした」等，本講座のねらいにかなう感想が多く見られた。これらを総合的に評価して，本研修講座は成功だったと言える。

○ 研修実施上の課題

今年度が初めて開講した講座であり，事前に入念なプログラム設計と準備は行ったつもりだが，実際の現職教員参加者がどのように課題を受けとめて，どのように応答し，どのくらいの時間が必要かということについては予想できなかった部分も多く，予想外に時間がかかったためにその後の展開を調整した部分もあった。そのこともあって，今年度は講座時間を若干長めに取ったが，一部受講者からはもう少し短い方がよいという感想も出た。アンケートの中で唯一否定的な回答が出たのは「開講時間」の適切さについてで，21名中4名いた。もっとも，ワークショップという学びの価値観が，旧来の効率重視の考え方と相反するものであり，ゆったりとした時間の中で関係づくりを楽しみながら，自由に試行錯誤を重ねながら何かを生み出していく学びであることもあり，一概に短時間で済ませればよいというものでもない。今回の実践経験を踏まえ，より時間をかけるべき所と簡潔にできるところとのメリハリを付けることが重要と思われる。レクチャー部分についても，無駄に詳しすぎる部分もあったので，知識が講座でのワーク体験と結びつけられやすいよう工夫したい。また，一部の受講者からは入門編の次のステップの講座の開設を望む声も出た。この点についても検討したい。

#

		 Scratch によるプログラミング	
		 RassberyPi3 による制御	
		 演習の様子 フィジカルコンピューティング の教材研究 (センサー軍手でじゃんけんゲーム)	
			
まとめ-今 後の実践に 向けて-	16:00-16 :30	本日の研修を振り 返し、今後の課題 や方向性について 討論する。	本日の研修内容を振り返り、質疑・応答、今 後の方向性について意見を交わした。

○ 実施上の留意事項

一般参加に加え、西宮市技術・家庭科研究会との共催で実施した。

○ 研修の評価方法、評価結果

事後アンケートにおいて概ね良好な評価を得ることができた。

○ 研修実施上の課題

次年度に向けて、研修の内容、構成、テーマについて継続的に検討する必要がある。

NO.7

「技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究 2017」

○ 研修の背景やねらい

中学校技術科において技術リテラシー育成を図る教材研究を行う。具体的には、内容B「エネルギー変換に関する技術」及び内容D「情報に関する技術」の教材として、フルカラーLEDの制御ができるオリジナル基板を製作し、授業での活用方法について考える。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：中学校技術科教員

人 数：8人

期 間：平成29年8月23日（水）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス

講 師：小山英樹（兵庫教育大学大学院 教授）

森山 潤（兵庫教育大学大学院 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方

講義と演習をバランスよく配置した。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
次期学習指導要領改訂における技術科の新しい授業の方向性	10:00 -11:30	次期学習指導要領の改訂の動向から、技術科の新しい授業の方向性を講義する。	<内容> ・次期学習指導要領改訂の動向 ・技術リテラシーの考え方とそれに向けた授業のあり方 <実施形態> 講義 <使用教材> PowerPoint資料
			

パソコンによるフルカラーLEDの制御 1（概要）	11:30 -12:00	パソコンによる制御の方法についてその概要を知る。	<内容> USB-IO2.0による制御の方法 <実施形態> 講義 <使用教材> PowerPoint資料
パソコンによるフルカラーLEDの制御 2（製作とプログラミング演習）	13:00 -16:00	パソコンによる制御の方法について，プログラミング演習を通して理解する。	<内容> USB-IO2.0を使用した計測制御学習基板の構成と動作 <実施形態> 講義・演習 <使用教材> PowerPoint資料，オリジナル基板
 			
まとめ-今後の実践に向けて-	16:00 -16:30		今後の実践の方向性、教材研究の視点についてディスカッション

○ 実施上の留意事項

一般参加に加え，加古川市技術・家庭科研究会との共催で実施した。

○ 研修の評価方法，評価結果

事後アンケートにおいて概ね良好な評価を得ることができた。

○ 研修実施上の課題

次年度に向けて，研修の内容，構成，テーマについて継続的に検討する必要がある。

NO. 8

「インプロ・ワークショップでこころと身体を解きほぐそう ―共感的・応答的・創造的コミュニケーションの愉しみ―」

○ 研修の背景やねらい

インプロは、脚本、設定、キャラクター等が決まっていな中で、その場で出てきたアイデアを互いに受け入れ合い、ふくらませ合いながら、協同で場面を創っていく演劇活動である。こころと身体をオープンにして他者と即興でやりとりを重ねていく過程は、内省や学びに満ちており、特に「コミュニケーション」の根源について再考する機会をもたらすものと考えられる。本講座では、インプロのアクティビティの体験を通して、即興的に身体と言葉を使って「意味」を創造していくこと、また他者との共感的・応答的なコミュニケーションを通して人間関係を結んでいくことの価値について考え合う。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：学校種を問わない
人 数：15 人
期 間：平成 29 年 8 月 23 日（水）
会 場：兵庫教育大学加東キャンパス
講 師：宮元博章（兵庫教育大学大学院 准教授）
鈴木聡之（インプロパーク 主宰）

○ 各研修項目の配置の考え方

即興的な身体活動を重視する本講座の趣旨に沿って、言語的な事前説明はできるだけせずにまず活動を体験し、その後に意図を解説するようにした。アクティビティの配置については、(1)前半ではシンプルな短いゲームを多く行い場の雰囲気を作る。(2)途中で短いレクチャーを行い受講者に問いを投げかける。(3)後半では、より想像力を要する演劇的要素を含む活動へと移行するようにと順序性を考えて配置をする。また、活動後の振り返りが重要であるため、そこに十分に時間をとる。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
インプロのアクティビティ（1）	1 時間 20 分	インプロのアクティビティを、まず体験し、自由に失敗を楽しめる場をつくる。	<内容> インプロのアクティビティを数種行った。 <実施形態> まず全体で名前を呼び合うことをテーマにしたアクティビティでアイスブレイクを行った後、ペアや小グループでの活動を行った。 <進め方> 活動が終わる毎に、小さな振り返りと解説を行った。そこで出てきたファシリテータ（外部講師）のキーワードや参加者の声を、もう一人の講師が教室背後に貼った摸造紙に書きこんでいった。 <留意点> 数が合わずに余る人が出ないように、適宜、講師が入ったり抜けたりしながら調整を行った。

休憩とレクチャー	20分	後半に向け、インプロを通してコミュニケーションについて考えるための視点を提示する。	<内容> 10分の休憩の後、講師が本研修でのねらいである「コミュニケーション」を見つめ直すという課題を促進するためのミニ・レクチャーを行った。 <実施形態> フロアに座って全体に向けての話
インプロのアクティビティ（2）	1時間20分	インプロのアクティビティを、発展させ、コミュニケーションについて実感を通して考える。	<内容> インプロのアクティビティを数種行った。 <実施形態> ペアや小グループ、全体で活動を行った。 <進め方> 前半同様、活動が終わる毎に、小さな振り返りと解説を行った。 <留意点> 活動の中で受講者から出たつぶやきや疑問を適宜取り上げて、講師が補足解説をするようにした。
振り返り	1時間	今日の活動を振り返り、意味づける。また、疑問等に対する補足解説を行う。	<内容> まず、振り返り用のシートを用いて個人が印象に残った体験について記入した。その際、講師の1人が随時撮影していた写真をスライドショーで呈示し、振り返りの補助とした。 次に、小グループに分かれて、今日の活動についての感想や疑問などを自由に意見交換した。 最後に、各自が順にその内容を述べて共有すると共に、講師がその内容に応じて解説を加え、終了した。 <実施形態> 全体で、輪になって行った。 <留意点> 振り返りための視点となるような発問を示した。また、講師は受講者から出た意見がつながるようファシリテーションに努めた。

○ 実施上の留意事項

上記の表中に記載済み。

○ 研修の評価方法、評価結果

①計画した内容を十分に行うことができたか。②実習中の受講者の取り組みについての観察、③受講者によるアンケートの評定と感想によって判断した。その結果、①については、あらかじめ4時間という十分な時間をとっていたこと、アクティビティの候補についてはもとより厳密に計画を立てずに多目に用意し、当日の流れを見ながら講師の判断で適宜取捨選択していくことにしていたため、十分に行うことができた。事後の振り返りの時間も十分にとることができた。②前半でアイスブレイク的な活動をしっかりと行ったこともあり、どの活動においても受講者は活動にコミットし、失敗やうまくできないことも含めて楽しんでいた。そのことは、③アンケート集計でも明らかであり、本講座の評価に関わる項目では、回答者（13名）全てにおいて肯定的な回答（そう思う、まあそう思う）であったことから、参加者の満足はきわめて高かったと考えられる。こちらが用意した感想用紙への回答でも、「何を言っても大丈夫という活動は、間違ったらどうしようという気持ちを楽にしてくれる活

動」，「自分を解放していくとポジティブになり，人ともつながれるということに気づけました。」，「他の方の意見を共有し合う事で大変参考になった。」，「（体験したインプロアクティビティを）子どもたちと楽しく1つでもできたらうれしく思う。」等，本講座のねらいにかなう感想が多く見られた。これらを総合的に評価して，本研修講座は成功だったと言える。

○ 研修実施上の課題

今回の受講者の反応を検証して，各アクティビティの導入時の説明や例示，アクティビティの配列，振り返りセッションの進め方など，さらに工夫を重ねていきたい。

研 修 実 施 報 告 書

NO.9

「ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫 -歌唱分野，器楽分野を中心として-」

○ 研修の背景やねらい

校内研修では，音楽科に関する内容が取り上げられる機会が少ない。そのため，音楽科担当教員や音楽科に関心をもつ教員の実技講習に対するニーズは高い。しかしその内容は歌唱曲あるいは器楽曲の技術指導，いわゆる how-to に偏る傾向が見られ，教材解釈の重要性や学年の系統性と実技指導との関連について触れられる機会は少ない。

本研修講座のねらいは，新学習指導要領の理念をふまえ，学習理論に裏付けられた音楽表現スキルを児童に習得させるため，知識を伴う実技指導のあり方（know-how）について，講義を通して考察するとともに，演習を通して児童の視点に立つ実技指導の具体を学ぶことにある。

○ 対象，人数，期間，会場，講師

対 象：小学校教員

人 数：24 人

期 間：平成 29 年 8 月 24 日（木）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス

講 師：河邊 昭子（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

音楽科授業において音楽表現活動の中核をなす歌唱表現及び器楽表現を取り上げることとした。また，歌唱表現スキルを器楽表現スキルに活用することにより指導の効果が高まることから，前半に歌唱表現，後半に器楽表現を位置付けた。なお器楽表現については，第3学年から扱うソプラノリコーダーの指導に限定することとした。

○ 各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容，形態，使用教材，進め方等
歌唱分野の実技指導	2時間	児童の視点に立つ歌唱実技の指導のあり方について学ぶ。	<内容> 1 新学習指導要領の目標 2 音楽科において育成を目指す資質・能力 3 音楽活動の基礎的能力 4 階名唱の意義 5 歌唱指導のステップ 6 実技指導のポイント <実施形態> 講義，演習 <使用教材> 《山のポルカ》 《ゆかいに歩けば》《赤いやねの家》 《まっかな秋》《子どもの世界》 《蚊のカノン》《大切なもの》 <進め方> レジュメに沿って講義を行った後，楽譜を提示して演習を行った。

			<留意点> ・楽曲ごとに、音楽的要素や楽曲の構造上の特徴を解説し、実際に演奏して確認するようにした。
器楽分野の実技指導	2時間	児童の視点に立つ器楽指導のあり方について学ぶ。	<内容> 1 リコーダーの特性 2 リコーダー指導のステップ 3 実技指導のポイント 4 研修のまとめとしての演奏発表 <実施形態> 講義，演習 <使用教材> 《レッツゴーソーレー》《陽気な船長》 《雨の公園》《星笛》 《ルパン三世のテーマ》 《ラバーズコンチェルト》 《エル・クンバンチェロ》 <進め方> レジュメに沿って講座の内容を示しつつ講義を行い，楽譜を提示して演習を行った。 <留意点> ・楽曲ごとに、音楽的要素や楽曲の構造上の特徴を解説し、実際に演奏して確認するようにした。 最後に，《エル・クンバンチェロ》のリコーダー合奏を行い，研修で得た知見や習得した技能を自己評価する場を設けた。

○ 実施上の留意事項

研修内容を2学期以降の授業に活用できるよう，教科書に掲載されている楽曲から選曲した。また，歌集やリコーダー曲集の中から，研修の趣旨に適した曲を用いた。これらの曲を，旋律，拍の流れなど，音楽を特徴付ける要素に即して取り上げた。

小学校における音楽科授業の映像を用い，指導場面を想起しやすいようにした。

音楽専科担当者以外にも，学級担任，特別支援学級担任が参加していたことから，学級活動等で効果的な実技指導の実際についても取り上げた。

音楽科の授業で行う実技指導を生かし，音楽会等の指導に取り組む場合の望ましい学習過程や選曲のポイントについても触れるようにした。

○ 研修の評価方法，評価結果

各研修項目における実技の観察や演奏の内容から理解度及び習得度を評価した。全員が目標に到達したと評価した。

○ 研修実施上の課題

研修の際に配布した楽譜を，研修終了後に回収したが，参加者から「楽譜を持ち帰りたい」という意見が寄せられた。著作権の関係から，教科書のコピーや市販の楽譜については回収するようにしている。この点に関して，現場の教員との意識の差を感じた。

「プログラミングに挑戦！ -- Scratch によるゲーム・教材作成体験 --」

小学校段階におけるプログラミングが新学習指導要領に盛り込まれたことから、本研修は、プログラミング教育に対する理解と先行的な実践事例に基づくプログラミング教育の実践イメージ構築、またプログラミングのための基礎知識の獲得とプログラミング体験を目的とした。プログラミング環境として、海外における子どもためのプログラミング環境として実績のある MIT（マサチューセッツ工科大学）メディアラボにおいて開発された「Scratch」を題材とした。本研修が、所属校におけるプログラミング教育のための検討のきっかけとなることを期待するものである。

対 象：小学校教員，経験年数不問

人 数：10 人

期 間：平成 29 年 8 月 29 日（火）

会 場：兵庫教育大学加東キャンパス

講 師：森山 潤（兵庫教育大学大学院 教授）

掛川淳一（兵庫教育大学大学院 准教授）

黒田昌克（南あわじ市松帆小学校 教諭）

本研修設置時においては新学習指導要領が告示されていなかったが、本研修実施時までに、新学習指導要領、および解説の告示、またゲストティーチャーである黒田先生の先行実践事例の充実があったため、プログラミング体験を重視した申請時のシラバスから内容を変更した。受講生のプログラミング教育に対する理解と先行的な実践事例に基づくプログラミング教育の実践イメージ構築を可能とするよう、(1) 初等教育へのプログラミング教育導入の背景・目的、新学習指導要領におけるプログラミングとプログラミング教育の扱いについての講義、(2) 小学校におけるプログラミング教育の先行実践事例紹介を、十分な質疑応答時間を設けられるように、それぞれ 1 時間 30 分として、内容に組み入れた。

結果として、プログラミング体験の時間を縮小したものの、今後自己研修ができるよう、内容を精選した。プログラミングの基本、および採用したプログラミング環境の導入的な機能が組み込まれたサンプルプログラムを準備し、それらに基づくプログラミングの体験できるよう、演習・実習の時間として、1 時間 45 分を設けた。

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
オリエンテーション	10分		<内容> 出欠確認、本研修の趣旨、スケジュール概要の説明、講師紹介、および演習・実習のため準備（ゲストアカウントによる本学情報教育実習システムへのログイン、参考Webページへのアクセス）

プログラミング教育に関する講義	1時間30分	プログラミングとプログラミング教育，および新学習指導要領における小学校段階からのプログラミングの導入の背景・目的に関する理解	<内容> プログラミングとプログラミング教育，情報社会の進展，および新学習指導要領における小学校段階からのプログラミングの導入の背景・目的，「プログラミング的思考」の意味，新学習指導要領（および解説）の各教科におけるプログラミングとその教育に関する扱いに関する講義 <実施形態> 講義 <使用教材> 提示スライド <進め方> 講義，および質疑応答 <留意点> プログラミング教育は学習指導要領における新たな事項であるので，導入の背景・目的や意味が理解できるようなものとした。
小学校におけるプログラミング教育の先行実践事例の紹介	1時間30分	プログラミング教育の実践イメージ構築	<内容> プログラミング教育の先行実践事例（各教科，時間，および活動等），および実践する上での準備，ポイント，および心構え等に関する講義 <実施形態> 講義 <使用教材> 配付資料，および提示スライド <進め方> 講義，および質疑応答 <留意点> プログラミング教育は学習指導要領における新たな事項であるので，受講生にとって実践のイメージが構築しにくいことが想定されたため，講義，および質疑応答の時間を十分にとれるようにした。
プログラミング演習・実習	1時間45分	プログラミング体験	<内容> サンプルに基づくプログラミング演習・実習 <実施形態> 演習・実習 <使用教材> ノートPC，「Scratch」のWebサイト，参考Webページ，サンプルプログラム <進め方> 演示・例示に基づく演習・実習 <留意点> サンプルプログラムには，プログラミングの基本である順次，条件分岐，反復が埋め込まれたものとした。教材サンプルとしては，新

			学習指導要領（および解説）の小学校算数科の「図形」の正多角形における参考例となるであろうものとした。ゲームサンプルとしては、「Scratch」における主要な、かつ導入的な機能が埋め込まれたものとした。
まとめ	10分	振り返り	＜内容＞ 本研修の振り返り，および受講生のプログラミングのための自己研修に対する動機付け。
修了証書授与，アンケート回答	5分		

○ 実施上の留意事項

上記「各研修項目の配置の考え方」，および「各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等」における「＜留意点＞」を参照。

加えて，プログラミング経験がない受講生がほとんどであることが予想されたため，講師 3 名（講師 1 名が進行（場面・状況によっては受講生の演習・実習補助にも参加），残りの講師 2 名が受講生の演習・実習補助を担当）で実施するようにした。

○ 研修の評価方法，評価結果

研修における，必要な時間数以上の出席，演習・実習への取組み状況，および演習・実習課題の完遂の可否を以って評価とした。結果として，受講生全員が合格となった。

○ 研修実施上の課題

上記「プログラミング体験」については，講師 1 名が進行，残りの 2 名が受講生の演習・実習補助を担当するかたちで実施したが，プログラミング経験がない受講生がほとんどであり，受講生数が 10 名ながら，演習・実習補助が行き届かない場面も，少ないもののあった。

今後の実施については，受講生数の増加を検討している。受講生のより具体的なプログラミング教育のイメージ構築とプログラミングスキル獲得を目的とした場合には，プログラミングの演習・実習の時間を多くとる必要があるが，受講生サイズに応じた演習・実習補助の人数について検討を行う必要がある。

研修実施報告書

NO. 11

「アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ」

○ 研修の背景やねらい

昨今注目されているアクティブラーニングをどのように指導すれば良いかについて、子どもの主体的で活動的な学びを支援するラーニングスケッチ（指導案＋記録法）のグループワークを通して学修する。

○ 対象，人数，期間，会場，講師

対 象：小・中学校教員

人 数：20 人

期 間：平成 29 年 7 月 28 日（金）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：溝邊和成（兵庫教育大学大学院 教授）

田中吾子（兵庫教育大学付属小学校 教諭）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

○ 各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容，形態，使用教材，進め方等
ラーニングスケッチとは	60分	ラーニングスケッチについて学ぶ	<内容>ラーニングスケッチのベースとなる指導案の特徴やアセスメントのあり方等について理解を深める。 <実施形態>講義形式 <使用教材>大型モニター <進め方>大学教員と大学附属小学校教員のコラボレーション <留意点>説明を簡潔に行うとともに、具体的事例を示しわかりやすくする。
ラーニングスケッチの作成	120分	グループごとにラーニングスケッチを作成する	<内容>ラーニングスケッチとして、具体的な本時案のパートを作成する。 <実施形態>演習形式 <使用教材>大型モニター <進め方>グループになって、ラーニングスケッチの趣旨を踏まえた本時案を作成する。 <留意点>プレゼンができるように作品化する。
ラーニングスケッチの発表	60分	作品を発表する	<内容>ラーニングスケッチとしての作品（本時案）を発表する。 <実施形態>発表形式 <使用教材>大型モニター <進め方>グループごとに本時案を作成する。 <留意点>全グループがプレゼンができるようにする。

○ 実施上の留意事項

小・中学校の現職教員も多く混ざるため、グループ分けに注意を払うこと。

○ 研修の評価方法，評価結果

自己評価を主として行う。

○ 研修実施上の課題

具体的な授業をイメージさせること

研修実施報告書

NO. 12

「脳科学と教育－情動・睡眠に関連して－」

○ 研修の背景やねらい

近年、いじめ、不登校などの子どもの問題が深刻で、教育現場ではその対応が求められている。そのような中、10年間継続された文部科学省「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」から、いじめ等の問題行動については「情動」の発達におけるひずみが極めて重要な因子の一つであるとする報告書が出された（文部科学省、2015）。さらに、いじめが発達障がいや家庭環境などと複雑に関連している可能性も挙げ、情動にかかわる医学・脳科学・心理学などの研究者と教育関係者で研究情報や課題意識を共有する必要性を提言している。

一方、睡眠も衝動性や情動、不適応や発達障がいと関連していることが示され、睡眠教育の重要性が指摘されている。

そこで本研修では、睡眠及び発達障がい研究の大阪大学大学院連合小児科学研究科教授の谷池雅子氏、脳科学研究の大阪大学医学研究科教授の佐藤真氏、情動研究、生理学エドゥケーターの兵庫教育大学教授松村京子が、情動及び睡眠に関連した脳科学と教育についてわかりやすく解説する。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：幼・小・中・高等学校・特別支援学校の教員

人 数：45人

期 間：平成29年8月1日（金）

会 場：神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：松村京子（兵庫教育大学大学院 教授）

谷池雅子（大阪大学大学院 連合小児科学研究科教授）

佐藤 真（大阪大学大学院 医学研究科教授）

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
	3	教員が正しく脳に関して理解すること。	<内容>脳科学と教育 ・情動のメカニズム ・睡眠のメカニズム ・情動・睡眠・発達障がいに関連する脳科学研究 ・情動と睡眠に関連する教育 <実施形態>講義 <使用教材>特になし <進め方>3人で順に講義。最後に質問を受けた。 <留意点>できるだけわかりやすく解説。

○ 実施上の留意事項

分かりやすく解説すること。

○ 研修の評価方法、評価結果

終了後の参加者の評価

- 研修実施上の課題
とくになし。

研修実施報告書

NO.13

「子どもと学級をみる目を広げる」

○ 研修の背景やねらい

近年の学校現場では「子どもが理解できない」という声がしばしば聞かれる。児童・生徒に対する理解不足は学級経営や学習指導の効果を著しく阻害するものであり、児童・生徒理解は教師に不可欠なものである。児童・生徒に対する理解を深めるためには、まず教師自身が自らの「子どもをみる目」を客観的に理解することが重要である。なぜならば、教師に限らず人は誰でも「他者に対する自分の視点」には気が付きにくいものであり、児童・生徒をありのままに理解しているつもりでも、先入観や偏りのある見方によって彼らを評価している可能性があるからである。そこで本研修講座では、教師用RCRTという方法を用いて、自らの有している「子どもをみる目」を客観的に把握し理解する機会を参加者に提供する。

また、「子どもをみる目」を含め、教師の様々な技能は教員相互の交流を通して培われるものであろう。しかし、多忙を極める学校現場の中では相互交流の場が十分にあるとは言い難いのが現状である。そこで本研修講座では、教師用RCRTによって各自の「子どもをみる目」に気づかせたうえで、参加者相互のディスカッションの時間を十分に取るものとする。さらに2名のベテラン教師を講師に迎え、「子どもをみる目」を学級経営にどう活かすかといった具体的な助言も提供する。これらのことを通して、参加者自身の教師としての「子どもをみる目」を広げ、実践につなげるヒントを得てもらいたいと考える。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：学級担任経験のある小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員

人 数：10名

期 間：平成29年8月1日（火）、3日（木）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：秋光 恵子（兵庫教育大学大学院学校 教授）

川元 佳子（加古川市立東神吉小学校 校長）

石井 真理（明石市立藤江学校 教諭）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

上記のねらいにあるように、本研修講座の目的は教師用RCRTという方法を用いて参加者自身に自らの「子どもの対する視点」を客観的に把握させ、参加者相互およびベテラン教員の学級経営の実践を知り、それらを学級経営に活かす手立てを考えてもらうことにある。そこで2日間の研修講座の最初にグループワークを取り入れながら他者認知の一般的傾向を踏まえて子どもに対する教師の視点の特徴を理解するための講義を行ない、初日の午後に教師用RCRTを実施した。2日目には午前中に教師用RCRTの個別結果をフィードバックし、午後からはその結果を元に、参加者各自の学級経営の課題分析と今後の取り組みについて参加者相互と講師のベテラン教員の討論を中心に検討した。なお結果のフィードバックを2日目に行うのは、参加者ごとの統計的分析と個別のフィードバック用紙の作成に時間を要するためである。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
講義 1	120分 (1日目午前)	他者認知の不正確さや曖昧さについての心理学的な知識を習得し、子どもに対する偏った見方の可能性に気付く。	①オリエンテーション：講師と研修講座の進め方を紹介する。 ②アイスブレーキング：参加者の自己紹介を行ない、2日目の討論を活発にするための下地を作る。 ③視覚的な資料を用いて心理学的知見を紹介しながら、他者認知の不正確さや曖昧さについて解説する。
演習 1	120分 (1日目午後)	担任する学級の子どもに対する自分の視点を把握する。	教師用 R C R T の実施への動機づけを高めるために、冒頭の20分程度を使って、これを通して何がわかるのか、またそれが今後の教育実践にどのように生かされるのかについて、学外講師が自身の体験例を紹介して説明する。
講義 2	30分 (2日目午前)		参加者各自のペースに合わせて、教師用 R C R T を個別に実施する。
演習 2	90分 (2日目午前)		視覚的な資料を用いて教師用 R C R T の解説を行なう。
討論 1	120分 (2日目午後)	子どもに対する自分の視点と学級経営について考える。	教師用 R C R T の個別結果をフィードバックし、結果の解釈を行なう。研修参加者の個別の作業に並行して、講師は机間巡視をしながらコンサルテーションを行なう。
			教師用 R C R T の結果を参照しながら、各自の学級経営の課題分析と今後の取り組みについて検討する。参加者相互および講師との討論を中心に進行する。

○ 実施上の留意事項

教師用 R C R T の作業スピードには参加者ごとに大きな違いがある。そこでこのセッションを初日の午後におくことで時間調整を行なう。

○ 研修の評価方法、評価結果

参加者による事後アンケートによって評価を行った。各評価項目の平均値（4 点満点）は「内容は受講の動機に合っていた」「講義や指導は興味をひくものだった」「教育実践に生かせる内容だった」については 3.8, 「内容がよく理解できた」「教材はわかりやすかった」は 3.7, 「全体として期待通りだった」は 3.6 であった。また、自由記述欄には複数の受講者から「有意義であった」との記述があり、全体として本研修講座に対しては高い評価を得たと考える。

○ 研修実施上の課題

上記のように本研修講座に対する満足度は高く、特に課題はないと考える。「今年は中堅研修で優先的に受講できたが、来年以降も継続して参加できる機会があるとありがたい」という要望もあった。個別のフィードバックをする関係上、定員の 10 名定員を大きく超えて受け入れるのは困難ではあるが、人数に関しては今後も検討したい。

研修実施報告書

NO.14

「非言語コミュニケーション力を育む体育授業づくり」

○ 研修の背景やねらい

「不登校」「いじめ」など、これらの問題が起きる要因として児童生徒の「コミュニケーションの低下」が指摘されている。そこで、多くの学校では「伝え合う」「聞き合う」などの言葉をキーワードに言語コミュニケーションの「発信力」の向上に軸を置いた取組が行われている。しかし、「不登校」「いじめ」は言語コミュニケーションの「発信力」の低下が大きな要因なのであろうか。この研修では、「不登校」「いじめ」問題の背景には非言語コミュニケーションの「受信・解読力」の低下があるのではないか、という問題意識を持ち、非言語コミュニケーション力を高める体育授業づくりについて考究する。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小・中学校の教員
人 数：17 人
期 間：平成 29 年 8 月 2 日（水）
会 場：神戸ハーバーランドキャンパス
講 師：筒井 茂喜（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

具体的な事例を通して、その背景にある理論を考究した。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
・「非言語コミュニケーション」と感情の共有について考える。 体育授業で育む「非言語コミュニケーション力」について考える。	80分	・「コミュニケーション」とは何か。原義に遡って考究する。 ・「いじめ」「不登校」で問われるコミュニケーション力の不足の内実を考究する。	＜内容＞ ・コミュニケーションの原義から考えるコミュニケーションとは何か。 ・「いじめ」「不登校」の背景あるコミュニケーション力の不足とは何か。 ・非言語コミュニケーションが人間関係づくりにおいて果たす役割について。 ＜実施形態＞ 座学 ＜使用教材＞ プリント
体育科における非言語コミュニケーション力を培う指導法を考える		身体接触を手がかりにして、体育で培うことのできる非言語コミュニケーション力を考究する。	＜内容＞ ・なぜ、体育なのか。 ・身体接触の持つ意味。 ・身体接触を取り入れた非言語コミュニケーション力を高める体育授業について。

			<実施形態> 座学 <使用教材> プリント
--	--	--	------------------------------------

○ **実施上の留意事項**

討論がしやすいように机をコの字型にするなどの工夫が必要であった。

○ **研修の評価方法，評価結果**

所定のアンケート結果は高評価だった。ただ、アンケート結果からは、もう少し具体的指導法の紹介を求める声があったので、今後は非言語コミュニケーション力を育む指導法について内容を多くしたい。

○ **研修実施上の課題**

受講生の発言機会を保障するには講義の時間の延長を考えるべきかもしれない。

研修実施報告書

NO.15

「わかる授業づくりのポイントを学ぼうー生涯楽しく学びつづける教師であるためにー」

○ 研修の背景やねらい

本研修は、元岡山県教員を学外講師として招き、本学教員と協働で実施できるよう計画した。研修では、①子どもの言い分に耳を傾けて授業が創造できる教師、②保護者らとも連携しながら教育実践ができる教師、③生涯学び続ける教師、このような確固たる教師観と実践につながる知識が獲得できることを、主たるねらいとした。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小学校教員

人 数：23 人

期 間：平成 29 年 8 月 5 日（土）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：吉國 秀人（兵庫教育大学大学院 准教授）
安河内 功（元教諭）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

全ての研修項目は、学外講師と大学教員とが協働して実施できるように配置されていた。また、講義形式の研修は必要最小限に留め、具体的な教材を活用した実習形式の研修がどの研修項目にも取り入れられるよう工夫した。

研修当日の流れは、以下の順となるように計画した。

- （１）研修全体の流れと研修のねらいについての解説を行う。次に、学外講師についての紹介とともに、参加者の簡単な自己紹介を行う。
- （２）「子どもの学ぶ意欲を引き出す授業が創れる教師とはどのような教師か」，について、具体的な教材を提示・活用しながら考察する。
- （３）「保護者らとも連携しながら教育実践ができる教師とはどのような教師か」「子どもたちに学び、生涯学び続けられる教師とはどのような教師か」について、具体的な教材を提示・活用しながら考察する。
- （４）研修全体のふりかえりを行い、参加者との質疑応答を行う。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
1. 研修全体の趣旨説明と自己紹介の後、子どもの学ぶ意欲を引き出す授業が創れる教師についての考察（前半）を行う。	60～70分	子どもの言い分に耳を傾けて授業を創造するための具体的な教材や関連する実践事例についての知識を、実習を通して獲得すること。	<内容> 1. 講義概要&講師の紹介 2. 講師&参加者の自己紹介 3. 総合的な学習の時間における援助の工夫よくまわるコマをつくろう 実習 1 紙製バンドを利用して、コマを作ってまわそう。 <実施形態>講義&実習形式で実施した。 <進め方>学外講師と教員が協働して実施。 <留意点>講師と参加者との対話を大事にしながら研修が行えるように心がけた。

2. 子どもの学ぶ意欲を引き出す授業が創れる教師についての考察（後半）を行う。	60～70分	子どもの言い分に耳を傾けて授業を創造するための具体的な教材や関連する実践事例についての知識を獲得すること。目的	<内容> 4. 児童が興味を持って発言しあう理科授業における援助の工夫 （１）花とタネ 実習２ 実物の果物や野菜を観察して、花とタネの関係を学ぼう。 5. 算数の授業での援助の工夫 （１）繰り上がり・繰り下がりのある足し算・引き算 （２）割り算の援助の工夫
3. 保護者らとも連携しながら教育実践ができる教師について、及び子どもたちに学び、生涯学び続けられる教師についての考察を行う。	140～160分	子どもの言い分に耳を傾けて授業を創造するための具体的な教材や関連する実践事例についての知識を獲得すること。 （１）保護者らとも連携しながら教育実践を行うための具体的な工夫や関連する実践例についての知識を獲得すること。 （２）子どもたちに学び、生涯学び続ける教師を目指すための工夫や関連する実践例についての知識を獲得すること。	6. 学級通信を活用した児童&保護者との対話の工夫「はしりもの、かわりだね」の活動を続けよう。 実習３ 「はしりもの、かわりだね」を採取して、発表しよう。 7. 生活科&理科の授業における援助の工夫 （１）「飛ばす」「回転させる」の教材提案 （２）「音」と「振動」の教材提案 実習４ リング型磁石を回転させ落下させよう。 <進め方>学外講師と教員が協働して実施。 <留意点>講師と参加者との対話を大事にしながら研修が行えるように心がけた。 8. 児童が興味を持って発言しあう学級づくりの工夫 実習５ 木工パズル「人体」＆「都道府県」に挑戦しよう。 9. 算数の授業での援助の工夫 （１）角度を活用した分数指導の工夫 10. 理科の授業における援助の工夫（その３） （１）回路の学習場面における教材の提案 実習６ ピカ・ブーテスターを使った活動をやってみよう。 11. 講座参加者全体でのふりかえり <実施形態>実習形式で実施。

使用教材（テキスト）：極地方式研究会テキスト「花とタネ」，「回路」，「科学の方法シリーズ」，「学級通信を出し続けるために」。

○ 実施上の留意事項

学外講師と教員が、事前に話し合いを行い、研修全体の流れや方法について共通理解を図った。当日は、講師と参加者との対話を大事にしながら研修を行うよう心がけた。

○ 研修の評価方法、評価結果

事務局が準備して下さった評価アンケートにより、評価結果は概ね良好だったといえる。

○ **研修実施上の課題**

講師が教材を事前準備する負担量も考慮し、実習形式の取り入れ方と受け入れ人数とのバランスを再検討することが、今後の課題である。

「やってみよう！楽しい理科の実験・実技 ― 小学校の先生自身が楽しむ理科 ―」

小学校での教科担任制の導入に伴い、理科を担当しない先生が増えている。しかし、すべての小学校で導入できている訳ではなく、理科を教えないといけない状況におかれる先生方も多い。そんな中で、先生自身が理科嫌いであれば、子どもにうまく指導できるとは考えにくい。先生自らが理科好きになることが、スタート点である。そこで、科学クラブや授業の発展として応用できる理科の実験・実技を通して、理科が苦手な先生、もっと楽しい理科をやってみたい先生に理科の魅力を感じてもらい、理科の指導法を考えることを目的とした。

対 象：小学校教員

人 数：19 人

期 間：平成 29 年 8 月 6 日（日）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：笠原 恵（兵庫教育大学大学院 准教授）

山野井 昭雄（明石市立錦浦小学校 教頭）

小学校理科授業の発展として応用できる実験や科学クラブで行う実験を取り上げ、まず教員自身が実験を行い、実際に体験することを第一とした。子どもの立場にたった感覚で体験しながら、その実験の原理、実験技法の要点、指導法についての知識を深めるように組み立てた。

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
講義・実験	3時間	授業での発展的な実験および科学クラブでの実験を行い、その実践方法について学ぶ。	<内容>以下の3つの課題を行った。 1. ヒトの視覚について 盲点、錯覚による見え方の違い 3Dドラゴンの作製 2. 海藻の生体防御機構について カラー人工イクラの作製 3. 漂砂鉱床から宝石を取り出そう 漂砂鉱床からのガーネット探し <実施形態>講義・実験 <使用教材>自作プリント、人工イクラ、漂砂鉱床より採集してきた砂など

			<進め方>受講生の希望および経験などを考慮しながら、最初に各実験の原理の説明を行い、実験を行った。その後、各実験の指導の要点、実践例を交えて解説を行った。 <留意点>指導の要点、実践する場合の安全面での注意点、教育現場での実践例などを適切に解説を加えながら行った。
--	--	--	--

○ 実施上の留意事項

- ・研修しても教育現場で実践できなければ学んだ意義が薄くなるため、特別な環境・道具がないとできないような内容は取り扱わないように留意した。
- ・研修で学んだことは、新学期にも実践する可能性がある。そのため、単に技術を教えるのではなく、その際に留意すべき事項、児童が自宅に持ち帰った場合についての留意事項まで、伝えるようにした。
- ・参加した教員が技術などを修得するまで、何度か繰り返し実験を行った。

○ 研修の評価方法、評価結果

- ・研修後のアンケート調査によると概ね好評であったと思われる。
- ・受講者のほとんどが 10 年研修での参加であったが、どの内容も経験していた人は少なく、意欲的に取り組んでいた。
- ・教育現場での実践経験に基づいた解説が好評であった。

○ 研修実施上の課題

- ・申込み開始日が金曜日であったため、翌週に確認した時点で倍以上の申込みがあり、当初定員の 1.5 倍を受け入れたが、受講できない方もいて迷惑をかけた。受講できないという連絡がとれてなくて、当日来られた方がいたが、実験準備の都合もあるので、このようなことがないようにしてほしい。受付時に仮受付などとした方がよいのかもしれない。また、早期に受付終了となったため、後からのキャンセルに対応できるような対策もあればよいと思った。
- ・10 年研修の選択講座での開講であるが、早い時期で定員を満たしてしまったため、それ以外の希望者も参加できるように工夫が必要だと思った。

研 修 実 施 報 告 書

NO.17

「心理学から考えるいじめのない学級作り」

○ 研修の背景やねらい

学級は児童生徒の学校生活の土台であり、児童生徒が気持ちよく過ごすことのできる学級づくりに関心のない教師はいないであろう。しかし、児童生徒の居場所であるはずの学級が混乱する事態や、児童生徒同士のいじめが皆無ではないのも現実である。日々、居心地の良い学級づくりに向けた取り組みをしても、すべての児童生徒が喜んで登校してくる学級にするのは容易ではないと思われる。自身の取り組みや学級経営に迷いや悩みを感じ、見直したいと考えている教師は多いのではないだろうか。

そこでこの研修は、これまでの実践に心理学的な視点からの知見を重ねて、自身の取り組みを見直すきっかけとしてもらうよう計画した。講義とディスカッションを通して、二学期からすぐに実践できる学級づくりの工夫について考え、その具体的な手がかりを見つけてもらうことが、この研修の目的である。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：自身の学級経営の見直しに関心のある小学校、中学校、高等学校の教員

人 数：48名＜午前21名、午後27名＞

期 間：平成29年8月8日（火）＜午前9：00～12：00、午後13：00～16：00＞

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：秋光 恵子（兵庫教育大学大学院 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

研修の前半では心理学的な調査研究の成果を紹介しながら、いじめ未然防止につながるような教師の働きかけ、学級の状態、伸ばすべき子どもの資質能力等についての講義を行う。また後半では、調査研究からの示唆をヒントに、参加者相互のディスカッションを通して自身の実践例を見直し、自身の学級において二学期からどのような取り組みができるかについて考える。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
講義1	90分	いじめのない学級につなげるために、児童生徒と学級に育みたい資質能力について学ぶ。	①オリエンテーション：講師と研修講座の進め方を紹介する。 ②視覚的な資料を用いて、いじめ未然防止に関わる最新の心理学的知見を紹介・解説する。
講義2	60分	いじめのない学級づくりのために教師がとるべき指導行動について学ぶ。	③兵庫県心の教育総合センターが開発した「いじめ未然防止プログラム」を紹介する。

討論	30分	いじめのない学級づくりに向けて、自身の取り組みについて考える。	講義内容をヒントにして、今までの自身の実践を参加者相互で意見交換し、二学期からの取り組みについて考える。
----	-----	---------------------------------	--

○ 実施上の留意事項

参加者は小学校、中学校、高校と、異なる校種から構成されているメリットを生かして、子どもの発達といじめ、および学級経営について考えることができるよう、講義内容を工夫する。

○ 研修の評価方法、評価結果

参加者による事後アンケートによって評価を行った。各評価項目の平均値（4点満点）は「内容は受講の動機に合っていた」「講義や指導は興味をひくものだった」「教育実践に生かせる内容だった」「全体として期待通りだった」についてすべて 3.6 であった。また、自由記述では「自分の取り組みが悪くないと再認識できた」「自分の学級経営を見直すよい機会となった」との記述があり、全体として本研修講座に対しては十分な評価を得たと考える。

○ 研修実施上の課題

本研修講座は今年度初めて企画したが、金曜日に募集開始してから月曜日には定員を上回る申し込みがあり、急遽、午前の部と午後の部として二回に分けて開講することになった。また、事後アンケートの自由記述には「もっと討論の時間が欲しかった」といった要望があった。これらの点は、このテーマに対する関心の高さを示していると思われる。来年度も開講するならば、受講者のニーズに応えるようさらなる検討が必要であると考えられる。

「対話による授業リフレクションの体験 ― “自分のことば” で授業を語り―聴き合う教員研修―」

授業の中で生じた一連の事実について振り返り、また、そこでの教師の思考や感情のプロセスについてじっくりと時間をかけて対話し、その中で語り手―聴き手の双方が自己の授業実践を支えている授業観や実践知についての「気づき」を得て、授業を自ら変革・創造していくというように、授業者が主体となり、他者との対話によってなされる「授業リフレクション」と呼ばれる授業研究もしくは教員研修が近年注目を集めている。

本研修では、授業リフレクションの背景やねらいを紹介すると共に、その技法の一つ（カード構造化法）を受講生が体験し、自分の授業の内省から気づきを得ることと共に、教師同士が授業について語り―聴き合うことの楽しさと意義を実感し、現場での授業研究の変革と同僚性構築のためのヒントをつかむことをねらいとする。

対 象：小・中・高等学校の教員

人 数：21人

期 間：平成29年8月17日（木）、8月18日（金）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：宮元博章（兵庫教育大学大学院 准教授）

大向 勲（三田市立母子小学校 教頭）

本研修は「体験」と「対話」により気づきを得ることを主とするので、理論的な解説は実習する上で必要最小限の事項にとどめる。十分対話・省察ができるよう時間的な余裕をもって配置する。

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
導入・解説	2時間	授業リフレクションの意味と目的、理論的背景について概説すると共に、今回の実習として用いる「カード構造化法」について手順に沿って具体的に説明する。	<内容> 授業リフレクションについての概説。本研修で体験する「カード構造化法」についての解説 <実施形態> 講義 <使用教材> ・配付資料（オリジナルに作成、ただし一部に刊行物からのコピーを含む） ・DVD（オリジナルに作成） ・カード構造化の産出物の例（オリジナル） <進め方> ①講師自己紹介，受講者自己紹介 ②実習時のペア作りを兼ねたアイスブレイク

			③授業リフレクションについてのレクチャー ④カード構造化法についてのレクチャー <留意点> 「授業リフレクション」という言葉や内容について初めて聞くことを前提に，その必要性ややり方について，具体例を交えながらできるだけわかりやすく解説する。
実習	2 時間 40分	「カード構造化法」を用いて，ペア毎に語り手と聴き手（プロンプタ）役を体験し，気づきを交流する。	<内容> カード構造化法の体験 <実施形態> 演習（ペアによる対話） <使用教材> ・配付資料（授業で用いられた資料） ・BD（授業場面ビデオ オリジナルに作成） ・カード，模造紙，鉛筆，ペン等の文具 <進め方> ①ビデオで視聴する授業についての概要説明 ②授業場面（35分）の視聴 ③ツリー図を作成 ④ペアによる対話（役割を交代して2回） ⑤ペアで気づきを語り合う <留意点> ツリー図作成時は全体を巡回し，手順に迷っている人には適宜助言を行う。考察中はあまり介入せず，ペア間の相互作用に任せる。
ビデオ視聴と振り返り	50分	明日行う予定の「自分の授業」の振り返りにつなげるための働きかけを行うと共に，本日の研修の振り返りを行った。	<内容> 授業リフレクション場面の視聴と振り返り <実施形態> ビデオ視聴と討論 <使用教材> ・配付資料（オリジナルに作成） ・カード構造化の産出物（オリジナル） ・授業リフレクション場面DVD（オリジナル） <進め方> ①実習材料に使った授業場面の授業者による授業リフレクションのツリー図を掲示し，授業者自身が授業リフレクションをしている場面をピックアップした映像（20分）を視聴。 ②ビデオを見ての感想や気づきについて，4人グループで討論。 <留意点> 今回学んだ授業リフレクションの技法を2日目の自己の授業リフレクションにつなげていけるように留意した。

2日目

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
実習パート 1	1 時間	自分の授業を題材にしたリフレクションのためのツリー図作り	<内容> 各自のツリー図の作成 <実施形態> 個人作業 <使用教材> カード、模造紙、鉛筆、ペン等の文具 <進め方> 作成手順は昨日の演習で経験しているので、各自のペースで作成してもらった。 <留意点> 講師は質問には対応したが、介入は極力控えた。
実習パート 2	2 時間	ペアでの考察（語り－聴き合い）1 時間ずつ役割を交代	<内容> ペアによる考察（語り－聴き） <実施形態> 演習（ペアによる対話） <使用教材> 鉛筆、ペン等の文具 <進め方> ペアで対話によるリフレクションを行い、1 時間ずつで交代した。 <留意点> 1 日目とは異なるペアで行った。講師は、聴き方等について必要に応じて助言した。
振り返り	1 時間	4 人でグループを作り 本日のリフレクション体験について振り返った後、全体で個々人のシェア	<内容> 講座全体の振り返りと感想の共有 <実施形態> 演習（グループ討論） <使用教材> 振り返り用紙 <進め方> ① 4 人グループとなり、今日の授業リフレクション経験を振り返った。 ② 写真スライドショーにより、2 日間の講座全体を振り返った。 ③ 個々人の学びと感想を用紙に記入してもらいそれを発表して共有した。 ④ クロージング <留意点> 振り返りの視点となるような発問をこちらから提示した。

- 実施上の留意事項
上記表中に記載済み

- 研修の評価方法、評価結果

①計画した内容を十分に行うことができたか。②実習中の受講者の取り組みについての観察、③受講者によるアンケートの評定と感想によって判断した。その結果、①事前計画で焦点を「体験」に絞り込んで内容を構成し、時間に余裕を持たせてスケジュール

を組んだため、十分に消化することができた。②実習のメインであるペアでの語り一聴きではみな集中し、かつ深い対話を行うことができた。③アンケート調査で受講者の満足度や理解度に関連する項目での評価は概ね肯定的であった。実習の最後に書いていただいた感想文でも否定的なものはなく、「違う校種の先生方と話ができて興味深かった」、「話しをすることによって、マイナスポイントばかりに目が行っていた自分の考えが、幅広い視野で見つめ直すことができた」、「自分の授業を振り返り自身が柱としていることが発見でき面白かった。」、「改めて今後やるべきことがはっきり見えてよかった」等の成果が得られたようであった。また、「初任者の指導教員になった際には行いたい今後、教育実習生の指導にこれを活かしたい」との声も聞くことができた。これらからトータルに見て成功だったと言えよう。

○ 研修実施上の課題

昨年度に引き続き、高校教諭が多く参加した（21 名中 15 名）。そのため、これまで主に小中校の教員を対象者と想定して組み立ててきた本研修のプログラムに若干のズレが生じてきた。特に 1 日目のプログラムでは題材として小学校の授業場面の映像を提示しているが、高校教諭がどのように受け止めているかという点で受講者によって温度差があることが感じられた。今後も多様な校種の教員が受講する場合に備え、多様な資料や提示材料を用意しておく必要がある。また、2 日目のプログラムは、自分が行った授業を対象として振り返りを行うという課題であることから、夏休み中の開講ではなく、学期中の開講の方がよいといった意見も 1 人から出されたが、これは検討すべきことかもしれない。

NO.19

「教師としての成長・発達について考える―教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らないために―」

○ 研修の背景やねらい

グローバル化や情報化，少子高齢化など社会の急激な変化に伴い，学校教育や教師もまた高度化，複雑化する教育ニーズや教育課題への対応を余儀なくされている。例えば，子どもの学力問題，いじめや不登校，校内暴力等の生徒指導上の問題，保護者や地域社会との連携，学校内での同僚教師との協力関係の構築など枚挙にいとまがない。その一方で，学校教育における知の社会的価値の低下，教師の社会的地位の低下等の社会的問題が叫ばれる中で，教師は教職生涯全体を通じて様々な危機を乗り越え，職務上の役割遂行のために絶えず成長・発達を遂げていかなければならない。

そこで本講座では，教育専門職として成長するために必要な資質能力とは何かを問い直し，いかにして教師は成長・発達を遂げるべきなのか，また，教師の成長・発達における危機をどう乗り越えるのかについて受講生とともに考えることをねらいとする。

○ 対象，人数，期間，会場，講師

対 象：小・中・高等学校の教員

人 数：27 人

期 間：平成 29 年 8 月 20 日（日）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：別惣淳二（兵庫教育大学大学院 准教授）

新井 肇（関西外国語大学 教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

教師としての成長・発達を考える上で，どのように資質能力や専門性を伸長させるべきなのかを考える必要がある。そのため，前半はその概念的，理論的理解を促すために今日教育改革と教師に求められる資質能力を説明し，学び続ける教師像の実現に向けて教師の省察の重要性と省察プロセスを促す同僚性とメンタリングについて講義を行う。後半は教員の成長・発達における危機をどのように乗り越えていくのかを考えるために，バーンアウト症候群をキーワードにして実証データに基づいた理論的理解を深めるとともに，同僚性や協働性に関係した演習を行う。

○ 各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数，使用教材，進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容，形態，使用教材，進め方等
教員の成長・発達に必要な資質能力形成について	3時間	教師として成長するために必要な資質能力とは何かを問い直し，いかにして教師はマンネリズムに陥らずに成長・発達を遂げるべきかについて理解する。	<内容> ・教師を取り巻く教育改革と教師に求められる資質能力 ・学び続けるための教師の省察 ・教師の省察プロセスを促す同僚性とメンタリング <実施形態> 講義 <使用教材> 配付資料

			<進め方> ・配布資料に基づき，講義形式で進める ・内容によっては，受講生に話し合いをさせ発表させる <留意点> ・できる限り教員が直面する問題状況を取りあげながら説明する ・概念的，理論的な内容を取り扱うため，できる限り平易な言葉を使う必要がある
教師のメンタルヘルスについて考える―燃え尽きる前にどう支え合おうか―	3時間30分	教師の成長・発達における危機の実態を把握し，それをどのように乗り越えるべきかを個人のメンタルヘルスとソーシャルサポートの両面から理解する。	<内容> ・深刻化する教職員のメンタルヘルス ・教職員のバーンアウトの背景 ・バーンアウトへの対処方法 ・同僚性・協働性の高い職場にするために <実施形態> 講義・演習 <使用教材> パワーポイントと配付資料 <進め方> パワーポイントを用いて講義形式で進める 時々内容によってグループになって演習を行う <留意点> ・講師のこれまでの教職体験を事例に挙げながら受講生に分かりやすく説明する ・前半の講義との繋がりを意識して説明する

○ 実施上の留意事項

- ・午前の講義内容をわかりやすく簡潔にする。
- ・学校現場での具体事例を取り入れて説明する。
- ・時間を確保し，ゆとりのある中で講座を展開する。

○ 研修の評価方法，評価結果

- ・受講者のアンケート調査，そして受講者の反応などから自己評価を行った。
- ・受講生のアンケート調査からは，良好な評価を得た。特に，後半のバーンアウトの研修内容について高い評価が得られた。

○ 研修実施上の課題

- ・受講者のアンケート調査において、「研修講座全体の開講時間は適切だと思いましたか」について、5人が「あまりそう思わない」と回答していた。受講生の都合に合わせて開講時間を設定することが今後の課題である。

研修実施報告書

NO. 20

「教員のための分子生物学 - 演習を通して理解を深めよう」

○ 研修の背景やねらい

高等学校【生物基礎】では、「生物の共通性と多様性」の視点を重視した項目が設定され、「生物と遺伝子」に関する内容が充実している。【生物】では、新しい生物学の知見を踏まえた「遺伝子の発現」についての内容の充実化、そして【理科課題研究】では、先端科学や学際的領域に関する研究なども扱えるようになるなど、近年の生命科学の発展に伴って生物分野で取り扱われる内容が大きく改変されている。そこで、教員自らが分子生物学の知識を習得し、時代に即した授業が展開できるように、演習を通して分子生物学の一端を理解することを目的とする。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：高等学校生物教員・中学校理科教員および、理科に関心のある小学校教員
人 数：14 人
期 間：平成 29 年 8 月 22 日（火）
会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス
講 師：笠原 恵（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

教育現場での活用を視野に入れて、実際に目で見えない現象を理解するための教材を紹介した。実際の教育現場で利用できる、生徒が興味をもつような教材を扱うよう心掛けた。そして、実際に演習形式で教員自ら行い、実践に活用できるかどうか検討した。時間がかかる演習を最後にして、時間延長にも対応できるようにした。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
演習	1.5時間	分子生物学の基礎であるセントラルドグマについて理解する。	<内容>遺伝子の概念、遺伝子の本体としてのDNAについての基礎的な解説を行うとともに、遺伝子発現の基礎であるセントラルドグマについての演習を行った。 （例）ABO式血液型の遺伝子発現 <実施形態>演習 <使用教材>自作テキストおよびペーパークラフト型紙（原核生物用、真核生物用） <進め方>パワーポイントを使い進めた。 <留意点>最新の情報を取り入れ、図を多様することにより、理解しやすいように工夫した。また、あらかじめ作製しておいたペーパークラフトを参考に演習を進めた。
演習	1.5時間	DNAの構造を理解する。	<内容>DNAの構造を理解するために、塩基、糖、リン酸などを色分けし、ビーズでDNA構造を作製した。 <実施形態>演習

			<使用教材>自作テキスト，DNAストラップ，ファージストラップ <進め方>パワーポイントを使い進めた。細かい作業のため，まず，ファージストラップを作製し，作製方法を学んだ。その後，塩基の組合せ，リン酸，塩基，糖の結合の仕方を考えながら作製した。 <留意点>個別演習のため，演習時間が大幅にずれないように，できるだけ個別に声をかけながら進めた。また，学生補助により進行具合をチェックしながら行った。また，授業で取組む場合の注意点や工夫について解説した。
--	--	--	--

○ 実施上の留意事項

- ・教育現場で実施可能なように、テキストデータや DNA 配列のデータなどを USB メモリに入れて配布した。
- ・実験操作に関しては，個人差が大きいので，できるだけ個別に対応した。また，受講生 5 人に対して演習補助学生 1 人をつけ，PC の操作がスムーズに行えるように配慮した。
- ・最も時間がかかると予想された演習を最後にして，時間延長が可能なように配慮した。

○ 研修の評価方法，評価結果

研修後のアンケート調査による。
おおむね好評であった。

○ 研修実施上の課題

- ・演習形式の研修であったため，個人差が大きく，複数の学生の補助があり，個々に対応することができ，効率的に研修を進めることができた。
- ・実際に手を動かす時間が多くなってしまい，解説等の時間がもっととれるように工夫する必要がある。受講生からは，演習時間があっという間に過ぎたので，研修時間をもっと長くしてもよいのではという意見もあった。

研修実施報告書

NO.21

「部活動の指導と運営」

○ 研修の背景やねらい

数年前の体罰事件をきっかけとして、運動部活動の指導のありかたが改めて問われている。しかしながら、現職教員に対して、運動部活動の指導や運営について十分な理解を図る機会はありません。そこで、本研修では「学校教育における運動部活動の位置付け」を再考しながら、その望ましいありかたについて考えようとした。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：中学校の運動部活動顧問教員（高校教員も数名）

人 数：24人

期 間：平成29年8月25日（金）

会 場：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：森田啓之（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

① 運動部活動の現状と課題（1H）

② 指導の現場にありがちな事例から運動部活動指導・運営を考える（1H）

③ 学校教育として望ましい運動部活動指導（1H）

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
①	1H	学校教育としての運動部活動の現状について再確認し合う。	運動部活動が果たして来た役割と課題について共有すべく、グループワークを行い、その結果を発表させた。
②	1H	具体事例から指導・運営を考える。	グループで議論した結果をプレゼンさせつつ、それに対してコメントをした。
③	1H	普通教育としての学校の使命と矛盾しないありかたを考える。	「運動部活動指導の本質」について講義した。

○ 実施上の留意事項

受講者が日頃感じていること、悩んでいることを共有しつつ理解を深めさせたかったので、ディスカッションを積極的に取り入れた。

○ 研修の評価方法、評価結果

すべての受講者の反応は把握できかねるが、講習終了後も数名が熱心に質問に来たことから、概ね好評であったと思う。

○ 研修実施上の課題

特になし

NO.22

「思考力・表現力を育てる算数科授業づくり」

○ 研修の背景やねらい

算数科の学習指導においては、式だけでなく絵や図を用いて問題を解決し、クラスで考えを伝え合い深め合う授業が大切だと考えています。その際に、どのような子どもの力を育成する必要があるのか、それをどのようにして育てることが重要であるのか、具体的な教材をもとに講義・演習を行います。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小学校教員

人 数：18 人

期 間：平成 29 年 9 月 9 日（土）

会 場：兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス

講 師：加藤 久恵（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

演習と講話を有機的に融合した研修を行う。具体的には、演習で教師が経験した数学的活動を踏まえて、研修の理論的側面を理解する研修の流れを意図している。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

研修項目	時間数	目 的	内容、形態、使用教材、進め方等
1. 説明	10 分	参加者は、本日の研修の概要とその進行について理解する。	研修の流れを説明するとともに、参加者同士の交流をはかる。
2. 講話・演習①	45 分	参加者は、算数科の学習指導要領改訂の方向性について理解する	下記について、講義を行うとともに、関連する演習を行う。 「算数科学習指導要領の改訂の方向性」 4 人程度のグループで演習を受ける。 
3. 講話・演習②	45 分	参加者は、算数科における思考力・表現力育成と、数学的活動についての理論を学習する	下記について、講義を行うとともに、関連する演習を行う。 「思考力・表現力の育成と 理解」 「数学的活動」

		とともに，具体例を通して理解を深める。	その授業例として，「数直線」に関する数学的活動を行う。 4人程度のグループで演習を受ける。
4. 講話・演習③	45分	参加者は，思考力・表現力を育成する授業にむけた，教材研究の方法を具体例をもとに学習する。	思考力・表現力を育成する授業づくりと，教材研究の仕方について講義する。 小学校5年「単位量あたりの大きさ」単元を例に，教材研究を行う。
5. 講話④	10分	まとめ	全体をとおして注意すべき点等を振り返り，講義内容の定着をはかる。

○ 実施上の留意事項

- 研修の中で参加者の現状をききとりながら，参加者の興味関心・疑問等を踏まえた研修になるように工夫する。
- 3名から4名程度のグループで活動することで，参加者同士がお互いの意見交換を積極的に行い，それぞれの理解が深まるように工夫する。

○ 研修の評価方法，評価結果

アンケートを実施した結果，研修への希望を確認できたとともに，おおむね良好な評価結果となった。

○ 研修実施上の課題

教材研究の難しさとおもしろさを，研修の中で議論することができたことは，本研修の成果であった。その一方，参加者の中には，研修テーマと直接は関連しないが，算数科の学習指導について様々な課題をかかえていることがわかった。そのような実態を踏まえると，今後，算数学習に関する疑問点について議論する機会を研修の最後に設けることも必要ではないかと考えている。

NO.23

「陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞」

○ 研修の背景やねらい

(背景)

図画工作・美術科は表現と鑑賞の2領域により構成されている。表現領域と比べ鑑賞領域は具体的な授業内容や題材開発が十分になされていないことから、現場の教員からはどうのように実施すれば良いのか分からないという声を良く耳にする。

又、昨今、学校教育と社会教育施設との連携を推進する動きがあるが、現場の教員にはその具体的な方法や内容についての情報が行き渡っていない。

(目的・ねらい)

- ・美術館等の社会教育施設を活用した鑑賞の授業を考える。
- ・表現領域と鑑賞領域がリンクした実践内容を体験し、その可能性を考える。

○ 対象、人数、期間、会場、講師

対 象：小中学校現職教員

人 数：17人

期 間：平成29年8月18日（金）

会 場：兵庫陶芸美術館

講 師：浅海真弓（兵庫教育大学大学院 准教授）

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方等

	時間	内容	担当	形態	会場
1	13:15	受付	大学・社会連携事務室		工房
2	13:30	オリエンテーション ・導入	浅海		工房
3	13:35	美術館の学社連携事業の取り組みについて	美術館・企画事業課	講義	工房
4	13:55	鑑賞を考える	浅海	講義	工房
4	14:10	丹波焼について	美術館・学芸課	講義	工房
5	14:25	技法体験	浅海 美術館陶芸指導員	実習	工房
6	14:55	展覧会鑑賞「丹波焼の世界」 ※会場全体を見学した後、ワークシートを使った鑑賞	美術館・学芸課 ※作品等の解説 企画事業課 ※展示室入室時の注意事項等説明 浅海	演習	展示室
7	14:25	まとめ ・アンケート	浅海		展示室

8	15:30	特別展「マイセンの美 ーいとしのフィギュ リン 華麗なるセルヴ イス」自由鑑賞 (希望者のみ)			展示室
---	-------	---	--	--	-----

技法体験

(丹波焼の代表的な装飾技法)

- ・墨流し 器面上に2種類以上の化粧土を使い模様を作っていく
- ・葉文 植物の葉っぱを器面に貼り付け形を写す
- ・貼り付け 動植物の形などを粘土で作り器面に貼り付ける
- ・イッチン 器面に泥漿（でいしょう）を筒やスポイトなどを使い絞り出し盛り付ける
- ・鎚（しのぎ）器面を削って稜線をつける

○ 実施上の留意事項

陶芸美術館と数回に渡り打ち合わせを行った。

○ 研修の評価方法、評価結果

(評価方法)

受講態度

技法体験の出来

(評価結果)

参加者全員、熱心な受講態度であった。技法体験も技能の差はあるものの一定の水準はクリアーしていた。

○ 研修実施上の課題

アンケート結果を見ると、受講者によって、若干、求める内容のレベルが異なることが分かった。募集の際に内容をもっと明確に記述すべきであった。又、内容が多い割に時間が短かった。全体の研修時間をもっと長めの設定にすべきであった。



平成29年度兵庫教育大学研修講座に関するアンケート

このアンケートは、今後本学が実施する研修講座等の企画・運営の参考資料を得ることを目的としています。

調査は無記名でご記入いただき、結果は全て統計的にまとめますので、個人が特定されることはございません。アンケートの意義をおくみとりいただき、ありのままにご記入下さい。

選択式の回答は、該当箇所のマーク  を塗り潰してご回答ください。

 : 空白マーク  : 正しいぬりつぶし  : 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

(1) 所属校の種別

☐ 小学校

☐ 中学校

☐ 高等学校

☐ 幼稚園

☐ 特別支援学校

☐ その他 ()

(2) 教職経験年数

☐ 1 年目

☐ 2 年目～5 年目

☐ 6 年目～15 年目

☐ 16 年目以上

(3) この研修講座をどのようにして知りましたか。(主なものを3つ以内で選択)

☐ 教育委員会からの案内

☐ 勤務校からの案内

☐ 本学教職員等からの情報

☐ 兵庫教育大学ホームページ

☐ 兵庫教育大学携帯サイト

☐ 案内リーフレット

☐ その他 ()

(4) 本学の研修講座を受講されたのは、今回を含め何回ですか。 () 回

(5) この研修講座を受講しようと思われた動機は何ですか。(主なものを3つ以内で選択)

☐ 大学が主催する研修講座に興味があったから

☐ 教育委員会が準備されている研修講座にはない内容があったから

☐ 中堅教諭等資質向上研修等に活用できるため

☐ スクール・パートナーシップ事業で担当講師の講義を聞いたことがあったから

☐ 表題や内容(テーマ)に興味があったから

☐ 知人・友人に誘われたから

☐ 校(園)長又は教頭に受講を勧められたから

☐ その他 ()



悪い



良い

(6) 研修講座を受講されて、次の点について当てはまるものを選択してください。

		どれか一つを選択して下さい。			
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	研修講座の内容は、受講の動機にあっている。	☐	☐	☐	☐
2	研修講座全体の開講時間は適切である。	☐	☐	☐	☐
3	研修講座の開設時期は適切である。	☐	☐	☐	☐
4	研修講座の内容はよく理解できた。	☐	☐	☐	☐
5	自分の理解度又は技術向上の程度を確認する機会になった。	☐	☐	☐	☐
6	講師の講義や指導は、興味をひくものであった	☐	☐	☐	☐
7	用意された教材は分かりやすかった。	☐	☐	☐	☐
8	実際の教育実践に活かそうだ。（ヒントが得られた。）	☐	☐	☐	☐
9	研修講座全体の評価としては、期待通りであった。	☐	☐	☐	☐

(7) 今後、どのような研修講座が開講されることを希望しますか。（主なものを1つ選択）

☐ 学校運営・経営

☐ 学級運営・経営

☐ 生徒指導

☐ 教育評価

☐ 総合的な学習の時間

☐ 教科内容・教科指導

☐ 道徳・人権

☐ 特別支援

☐ ICT

☐ 保護者対応

☐ その他（ ）

(8) 上記で選択した領域について、希望する内容をなるべく具体的にお書き下さい。

(9) 今回の研修講座を受講されて、印象に残ったこと、感じたこと、研修講座全般について、お気づきの点、ご要望などをご自由にお書きください。

☆ご協力ありがとうございました☆

【本件に関する問い合わせ】

国立大学法人兵庫教育大学 社会連携センター

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

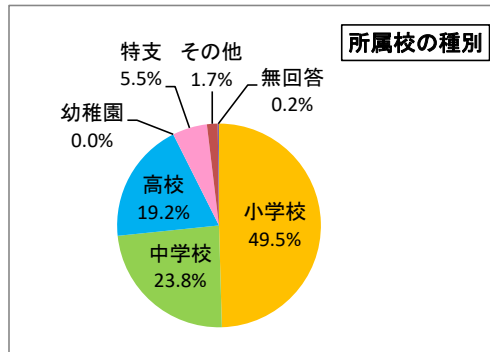
電話0795-44-2053, 2412

平成29年度兵庫教育大学研修講座に関するアンケート集計結果(総計)

【受講者数:442名, アンケート回答者数:416名(回収率:94.1%)】

問1 所属校の種別

小学校	206	49.5%
中学校	99	23.8%
高等学校	80	19.2%
幼稚園	0	0.0%
特別支援学校	23	5.5%
その他	7	1.7%
無回答	1	0.2%
合計	416	100%

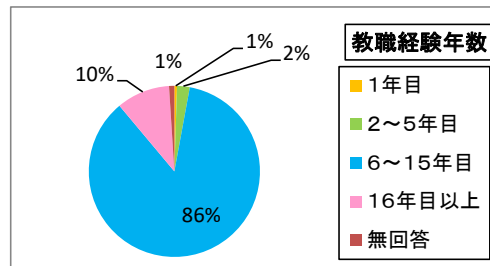


(その他)

- ・中高一貫校(3)
- ・私立大学(1)
- ・中等教育学校(1)
- ・無記入(1)
- ・外国人学校(1)

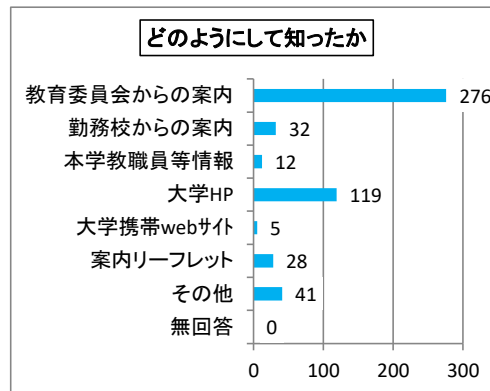
問2 教職経験年数

1年目	2	1%
2年目～5年目	10	2%
6年目～15年目	358	86%
16年目以上	42	10%
無回答	4	1%
合計	416	100%



問3 この研修講座をどのようにして知りましたか。(主なものを3つ以内で選択)

教育委員会からの案内	276	53.8%
勤務校からの案内	32	6.2%
本学教職員等からの情報	12	2.3%
兵庫教育大学ホームページ	119	23.2%
兵庫教育大学携帯ウェブサイト	5	1.0%
案内リーフレット	28	5.5%
その他	41	8.0%
無回答	0	0.0%
合計	513	100%

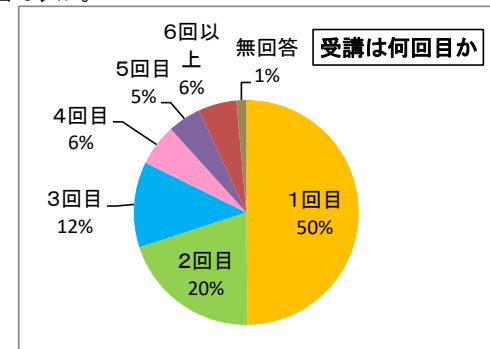


(その他)

- ・中堅研修冊子(27)
- ・市中学校技術科研究会(3)
- ・修了生(2)
- ・8年目法定研修の案内(1)
- ・家族からの紹介(1)
- ・院生からのおすすめ(1)
- ・ニューリーダー研修で兵教大に来てチラシをもらった(1)
- ・生物部会(1)
- ・無記入(4)

問4 本学の研修講座を受講されたのは、今回を含めて何回ですか。

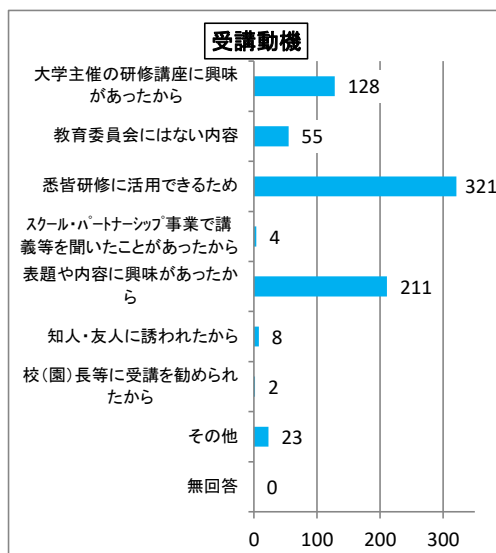
1回目	207	50%
2回目	84	20%
3回目	51	12%
4回目	25	6%
5回目	20	5%
6回以上	23	6%
無回答	6	1%
合計	416	100%



問5 この研修講座を受講しようと思われたのはどういう動機からですか。

(主なものを3つ以内で選択)

大学が主催する研修講座に興味があったから	128	17.0%
教育委員会が準備されている研修講座にはない内容であったから	55	7.3%
中堅教諭等資質向上研修等に活用できるため	321	42.7%
スクール・パートナーシップ事業で担当講師の講義等を聞いたことがあったから	4	0.5%
表題や内容(テーマ)に興味があったから	211	28.1%
知人・友人に誘われたから	8	1.1%
校(園)長又は教頭に受講を勧められたから	2	0.3%
その他	23	3.1%
無回答	0	0.0%
合計	752	100%



(その他)

- ・先生のお話が聞きたかったので(6)
- ・市中学校技術科研究会(2)
- ・立地が良かったので(2)
- ・以前授業指導助言をしていただいたことがあったので(1)
- ・出身校で訪れてみたかった(1)
- ・ライセンスセミナーの内容を補完するため(1)
- ・音楽の授業が苦手だから(1)
- ・大学の授業で活用したいため(1)

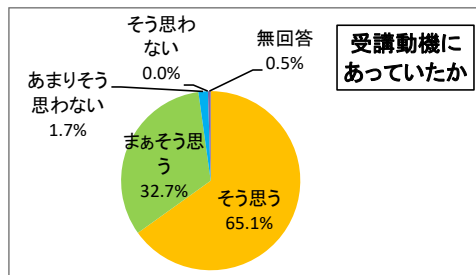
- ・PCR復習のため(1)
- ・DNAの教材研究を深めたかったから(1)
- ・もっと勉強がしたいと思ったから(1)
- ・自分の実践に活用したいから(1)
- ・自己研鑽のため(1)
- ・日程があった(1)
- ・以前受講された方に勧められたから(1)
- ・通いやすい(1)

問6 研修講座を受講されて、次の点についてどの程度満足されましたか。

下記の5段階評価表を参考に、各設問の該当する評価の数字を○で囲んでください。

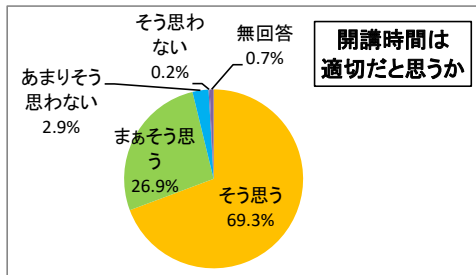
(1) 研修講座の内容は、受講の動機にあっていましたか。

そう思う	271	65.1%
まあそう思う	136	32.7%
あまりそう思わない	7	1.7%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



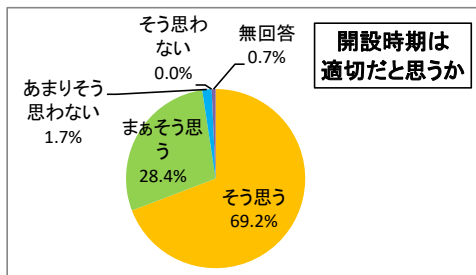
(2) 研修講座全体の開講時間は適切だと思いましたか。

そう思う	288	69.3%
まあそう思う	112	26.9%
あまりそう思わない	12	2.9%
そう思わない	1	0.2%
無回答	3	0.7%
合計	416	100%



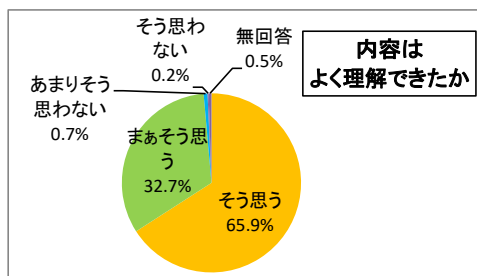
(3) 研修講座の開設時期は適切だと思いましたか。

そう思う	288	69.2%
まあそう思う	118	28.4%
あまりそう思わない	7	1.7%
そう思わない	0	0.0%
無回答	3	0.7%
合計	416	100%



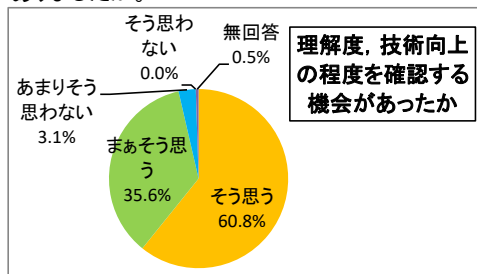
(4) 研修講座の内容はよく理解できましたか。

そう思う	274	65.9%
まあそう思う	136	32.7%
あまりそう思わない	3	0.7%
そう思わない	1	0.2%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



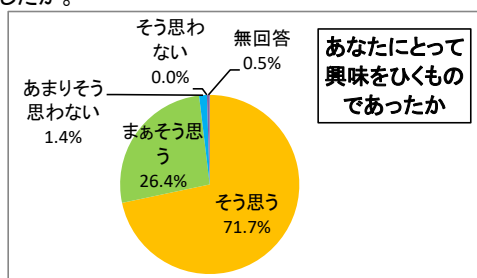
(5) 自分の理解度または技術向上の程度を確認する機会がありましたか。

そう思う	253	60.8%
まあそう思う	148	35.6%
あまりそう思わない	13	3.1%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



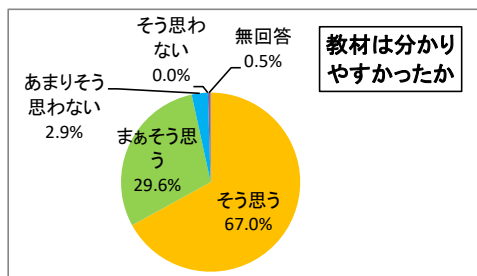
(6) 講師の講義や指導は、あなたにとって興味をひくものでしたか。

そう思う	298	71.7%
まあそう思う	110	26.4%
あまりそう思わない	6	1.4%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



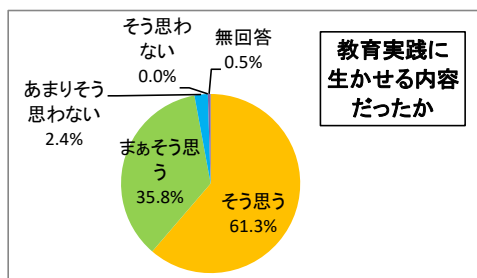
(7) 用意された教材はわかりやすかったですか。

そう思う	279	67.0%
まあそう思う	123	29.6%
あまりそう思わない	12	2.9%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



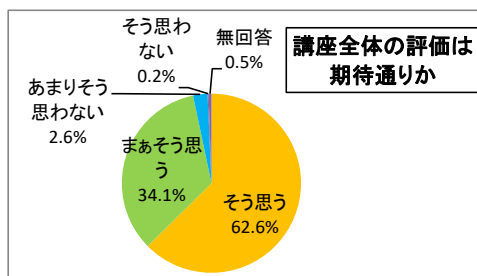
(8) 実際の教育実践に生かせる内容でしたか。
(ヒントが得られましたか)

そう思う	255	61.3%
まあそう思う	149	35.8%
あまりそう思わない	10	2.4%
そう思わない	0	0.0%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



(9) 研修講座全体の評価としては、期待通りでしたか。

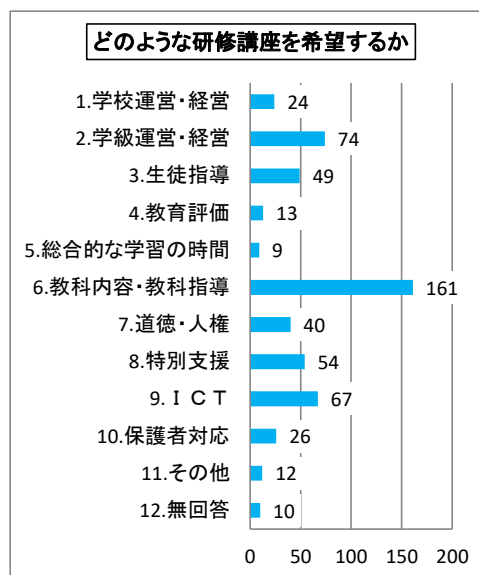
そう思う	260	62.6%
まあそう思う	142	34.1%
あまりそう思わない	11	2.6%
そう思わない	1	0.2%
無回答	2	0.5%
合計	416	100%



問7 今後、どのような研修講座が開講されることを希望しますか。

(1) 領域について(主なものを1つ以内で選択※重複回答あり)

1.学校運営・経営	24	4.5%
2.学級運営・経営	74	13.7%
3.生徒指導	49	9.1%
4.教育評価	13	2.4%
5.総合的な学習の時間	9	1.7%
6.教科内容・教科指導	161	29.9%
7.道徳・人権	40	7.4%
8.特別支援	54	10.0%
9.ICT	67	12.4%
10.保護者対応	26	4.8%
11.その他	12	2.2%
12.無回答	10	1.9%
合計	539	100%



(その他)

- ・アート、自分づくり(1)
- ・図工の鑑賞について(1)
- ・部活動(1)
- ・鑑賞(美術)(1)
- ・プログラミングについて(1)

- ・生活習慣の大切さ(食べる、睡眠から)(1)
- ・教育課程(1)
- ・評価(1)
- ・無記入(4)

(2) 上記の中で特に関心のある内容について事例を挙げて具体的にお書きください。

【学校運営・経営】

服務について(法的根拠を視点に)
学校組織の動かし方
新たな学力観やこれからの学校像についての実践例
公立学校の組織的運営、モデルケースと実践例
これからの社会に対応した学校づくり
様々な変化や出来事に対応できる学校になるための方策
学校安全・危機管理(リスクマネジメントetc)
カリキュラムマネジメント

【学級運営・経営】

集団としての育て方
生徒個々が主体的に活動できる学級運営・経営など
学級会、係活動の児童の自発的な取り組み
学級開きや、学期始めのLHR等の良い進め方

【学級運営・経営】

ワークショップの入門の次
日常的にできるアクティブラーニングの手立て
現在の子どもの発達課題を踏まえた学級経営
通常学級で支援の必要な子(発達障害など)を含めて、どのように学級経営していくか
個性がある子が多く在籍する場合の学級経営
特別活動と関連させた学級経営
児童理解の力を向上させる内容
学習意欲、学びに向かう力
クラスの作り方(コツ)
仲間づくり(児童を繋ぐ方法)
新指導要領を意識した学級経営
アドラー心理学を用いた効果的な学級経営方法
学級崩壊を立て直す方法
指導と評価の一体化について
Q-U, RCRT, CoCoLoなど実際に使えるツールについて
いじめが発覚した場合のクラスでの取り組み
学級の子ども達と担任とのコミュニケーションを育てる方法
掲示物

【生徒指導】

発達障害と非行、不登校
不登校児への支援(保護者への支援も含めて)
いじめ、不登校の実態と具体的な取り組みについて
脳科学や心理学の知見から生徒指導や特別支援教育についてのテクニック 道徳的な心の育成のために有効な(必要な)指導
自尊感情を高める内容
実際起こった事例

【生徒指導】

生徒指導の今と昔
児童との関わり方・教師間での連携
教師、子どものメンタルヘルス
問題行動のある生徒への対応
困難校への指導方法、生徒対応に関する内容
トラブル時の生徒指導、児童との関係づくり

【教育評価】

何のための評価教育なのか
道徳の教科化に伴う、評価について
アクティブラーニングとその評価
データから具体的改善策への反映の仕方

【総合的な学習の時間】

児童が自主的に活動していけるような手立て、手法
具体的な事例にもとづいた実践の紹介、評価、通知表への記入法など
新学習指導要領改訂後の授業展開の仕方
新しい調査書に記載すべき総合の活動内容の具体的な内容

【教科内容・教科指導】

国語の教材研究
主語指導について（細かい具体的実践）
書く活動
数学の授業におけるアクティブラーニング
算数・数学科教材の紹介と実践方法
算数の教科研修
理科の中では地学・生物領域
中学生が授業で興味を持って取り組めるような実験観察の方法

【教科内容・教科指導】

正確な測定値の得られる実験方法
兵庫県の自然科学分野(物理・化学・生物・地学)について
要支援生徒への手立て 生徒が科学的に考えることの出来る理科実験の手法
楽しい理科実験
教科書の実験でなかなか上手くいかない物
教科書の内容の理科実験、工夫や留意事項について
DNAや遺伝子などの実験で特別な道具や薬品を使わずに、生徒にさせることができるもの。または、インターネット等の授業に使えるコンテンツなど
分子生物学・実際に生物を用いた学習
免疫
ホメオテック遺伝子の役割についての指導法
子どもが興味をもって活動できるものづくり(工作)の講座
ユニバーサルデザインの授業や合理的配慮、インクルーシブ教育といった観点で見た教科の授業の工夫(社会科)
社会科の授業の仕方
音楽の新学習指導要領について、評価の仕方や変わった点など
音楽の授業づくりについて
中学校音楽の鑑賞指導
音楽の鑑賞(表現を絡めた学習)
音楽科:合唱指導に関すること
音楽とICT, 音楽と新学習要領
図工展や音楽会で活用できそうな芸術系の教科指導
図工等の授業の実践例について
図工・美術に関するもの
英語科の指導法(苦手な先生がどのように指導していくのか)
新しい学習指導要領での英語授業の進め方など

【教科内容・教科指導】

外国語活動・生活単元
教科は「道徳」指導の実際・通常学級で生かす特別活動の視点
技術科(分野)の教材研究
エネルギー変換での問題解決の取り組み
アルゴリズムとデータ構造(情報分野)
情報教育と他教科との関連について
保健分野における時代背景に沿った教材づくり
保健体育科の指導や評価について
体育科教育の教科内容・指導
体育の実技指導
新学習指導要領になって変更する点
新学習指導要領改訂後の教材研究
指導要領改訂に伴う具体的授業展開例
新学習指導要領を踏まえたアクティブ・ラーニングとその授業展開について
生徒に興味を持たる授業展開など
児童の興味を引くような小ネタ、導入時のヒント
主体的、対話的に学びを実現するための課題の待たせ方。子どもの目がキラキラする学びの題材や方法の例を知りたい。
教科書において新たに加わった内容
教科書の発展的な内容
先進的な取り組みの紹介
実践的な講習
実地・実習
実技等、すぐ実践できるもの
know how が学べるような実技指導

【教科内容・教科指導】

実際に2学期から活かそうなもの
授業で活用できそうな授業づくりや教材など
指導の技能
目標を設定する際の根拠、そこからの展開について
コンピテンシプログラム研修
流体力学を活用した内容
アクティブラーニングや協同学習の実践的な授業づくり
インプロ(自己表現)の引き出しを持つべく、その流れを実行している場面を検証するような講座
脳科学、最新医療情報、がん治療など
商業科に関する研修

【道徳・人権】

指導方法の具体を研修(例:モラルジレンマの手法)
道徳の教科化に伴う授業展開の仕方
道徳・人権の適切な資料(教材)・評価について
道徳の教科化に伴う評価のあり方
道徳の教科化に伴う指導法
人権の視点で道徳を進めていくにはどうすればいいか(教材、展開など)
教科となったことで重要とされること
中学校での道徳の評価方法についてどのような実践や研究があるのか
教科書、指導書の活用の仕方
他市、他県の人権教育の取り組み
道徳教科化に伴い、学校で受けている研修とは違う実践的なものが知りたい。
道徳におけるアクティブラーニングの具体的な指導方法など
特別支援学校での実践が知りたい

【特別支援】

支援の必要な生徒への対応について
教室の中での気になる子どもへの正しい対応(特別支援学校に入っていない通常学級の子ども)
普通教室にいる支援が必要な生徒の対応
学級内(通常学級)における、特別に支援を要する児童に対する様々な声掛けや関わり方など
発達障害のことだけでなく肢体の障害に関する内容(体の学習についてや肢体不自由の生徒へのアプローチの仕方など)
授業研究、改善に役立つもの
学習指導の効果的教材等
通級担当への研修(アセスメント、個別指導、評価、コンサルテーション、保護者支援)
特別支援教育のスキルアップ研修
基本的環境について具体的な実践の紹介
発達障害のある児童への対応を学べる研修
発達に課題がある子どものコミュニケーションについて
発達障害の子ども達や通級での指導を受ける子ども達についての対応などを取り扱ったもの
自閉症、発達障害
発達支援について
自閉症児童・生徒の指導
言語聴覚士、作業療法士、理学療法士の方などの医療に対するアプローチ方法医療と教育現場の連携について
ADHDやLDの児童への学習の手立て (例)注目のさせ方・ノートの取り方・集中のさせ方など
特別支援の視点から、体のつくりについて
特別支援(知的)の授業づくりについて
特別支援の生徒の性について
突発的な事象への対応
子どもの特性やその具体的対応、指導内容

【特別支援】

教科指導の中での合理的配慮について
特別支援学級の担任になったとき、また交流担任になったときに活用できる発達障害に関する支援について

【ICT】

タブレットの活用法
タブレットを使用した効果的な学びの場の設定
タブレットを使用した授業展開を詳しく知りたい。
授業で使える簡単なソフト・プログラミング(簡単なものの方が助かります。)
ICTを利用した授業の進め方や、アプリケーションの紹介など
プログラミングを使って学習を定着できるような活動
制御について、プログラムについて
アクティブラーニングに活用できるICTの利用方法
アクティブラーニングでのICTの活用術等
技術科におけるカリキュラムマネジメントの例
プログラミング教育の実践例に特化した内容
実践例やすぐ使えるデータ(ファイル)等の紹介
基礎的な校務作業に役立つことや、授業に役立つような紹介
ICTの最新の情報
プログラミング指導について
powerpointを使った授業展開
情報・技術教育に関する具体的な事例とその効果
マクロ、プログラミング(子供用の)
パソコンの活用、自立支援などについて
効果的な活用方法について
ICTを様々な教科実例を研修するような講座

【ICT】

各教科における有効なICT危機の操作方法
簡単なICTの活用術を学びたい
低学年におけるICT活用について
表計算ソフトの使い方
授業の直接関わるICTの活用の仕方 今までの使用とまた違う利用法

【保護者対応】

保護者は、ほとんどの方が子育ての悩みを抱えているので、そこに寄り添った対応について
家庭へのふみこみについて 不登校への対応
対応が困難な保護者の方への関わり方
powerpointを使った授業展開
教員の仕事、職務について 義務や権利について
生徒だけでなくその保護者の対応で困ることがある。よく生徒さえ納得してくれれば・・・、と言いますが、事例をあげて上手く切り抜ける対応について話し合ってみたい。
学校に協力的でない保護者にどのように学校に目を向けてもらうか
様々な保護者がいる中でどの保護者とも思いを連携して生徒と関わる方法があれば知りたい。
様々な保護者がおり、多応に苦慮することもあるので
進路やクレーム対応
保護者が何でもかんでも要求してくることがあり若手教員が苦しんでいる。学校がすべきこと、教員がすべきこと、教員の本来の姿を教えて欲しい。
保護者に対する「カウンセリング」力の向上手法

【その他】

美術のスキルアップ、知識と実践
美術館との連携
今後プログラミングの授業がはじまるのでそれに向けてのヒントや具体的な授業の進め方について。
食品添加物や睡眠など、元気な身体をつくるために大切なことを詳しく知りたい。
脳や情動等、普段学ぶ機会が少ない科学の世界について話を聞きたい。

【その他】

新しい教育課程で大切にすべきことと特徴。これまでの教育課程との違い。

今後も今回のような部活動の運営や指導についての内容を学んでいきたい。

【問7-(1)無回答】

授業、校務の時間をどのようにマネジメントしていくか

道徳の評価の方法について

美術館連携、博物館連携

問8 今回の研修講座を受講されて、印象に残ったこと、感じたこと、研修講座全般についてのお気づきの点、ご要望などをご自由にお書きください。

【顕微鏡による岩石の観察】

とても分かりやすく良かったです。ありがとうございました。

今回の研修の岩石に関する単元は、生徒に興味を持たせにくい単元だと思っていたので、今回の内容を参考にして授業をしていきたいと思います。

偏光板を1枚(2枚)顕微鏡に取り付けるだけで、鉱物の特定がこんなに幅広く可能になることに感激しました。直交ニコルで見る方が、美しいことが多かったので、生徒に見せてあげられるような工夫をしたいです。ありがとうございました。

【学習指導の多様な展開を構想する道徳の時間の授業づくり～持ち帰ってすぐに使える指導案を作成しよう！～】

とても参考になりました。来て良かったです。ありがとうございました。

自分の力不足と勉強不足、そしてやらなければならないことに改めて気づかせていただきました。たくさんの資料をいただいたので、しっかり目を通し今後に生かします。

実践につながる分かりやすい講義内容で、とても充実した時間でした。すぐに現場で生かしていかたいです。

自分自身の知識の少なさや感性の育む努力ができていないことに改めて気づきました。道徳の授業についても、研究していかなければいけないと思いました。ありがとうございました。

先生の引き出しの多さに、また勉強をさせていただきたいと思いました。

もう少し長い時間お話を聞いたり、意見交換がしたかったです。2日間とかだったらよりありがたいです。

もっと先生(淀澤先生)の色々なお話を聞きたかったです。時間が短すぎて足りなかったです。学級経営が上手にできていれば道徳の授業は怖く無いということと、板書計画の大切さ、詳細なねらいの設定

案内も研修の内容も丁寧で分かりやすかったです。ありがとうございました。

講師の先生の熱意が伝わってきました。道徳をはじめ教科指導にも2学期から頑張りたいと思います。

これから教科化される道徳の取り組み方について、詳しく教えていただけたので、役立てたいと思います。

何度か先生の講義は受講させていただいていますが、やはり自分自身の力量をいかに上げていくかが基本だと再認識しました。ありがとうございました。

教科化される道徳の今までと違う点や指導案を作る上でのポイントが分かった。

【校務におけるICT活用のための基礎-ワープロ、表計算ソフトを中心としたオフィスソフトウェア活用における基礎とポイント-】

とても丁寧に教えていただき、ありがとうございました。 Excelやワードを学ぶ機会がなかったので、とてもありがたい講座でした。
中学校国語科のため、普段「一太郎」ばかりを使用しています。(教材やテスト作成など)その為校務の多くで使われる「Word」を使いこなせず四苦八苦している状況です。個人的にWordをもっと学習してから講義を受けた方が良かったかもしれません。今日のExcelなどはとても勉強になりました。
先生が質問に対して広い知識で答えられているのが印象的でした。新しいことに興味を持って取り組んでいきたいと思います。
今まで何となくExcelを使っていたが、ゆっくり分かりやすく説明してもらい、実践もできて非常に分かりやすかったです。ありがとうございました。
大変丁寧に指導して下さりありがたかったです。PCは普段から使わないと機能を忘れてしまうなど痛感しました。USB持参等事前にお知らせいただければ助かります。本日はありがとうございました。
実際に活用できる素材を学習できました。プログラミングはとても興味深かったです。
Excelのシートを使っのデータ処理で知らない機能を知ることができて、とても良かった。

【「デス・エデュケーション」としての美術教育を考える】

盛りだくさんの内容で細かくやりたいところもありました。楽しかったです。ありがとうございました。
です・エデュケーションと聞いて、暗いイメージを持っていましたが、活動も多く楽しみながら取り組みました。美術教育への関心が私自身高まったような気がします。ありがとうございました。
図工・美術の専門では無い方が、たくさん参加されていましたが、教科として大切に部分や良さを作品作りを通して感じ取っておられた様子が、印象に残りました。平成元年の学習指導要領改訂から教科として打ち立てている部分がなかなか浸透しきっていない現状を考えると、この様な研修を開いていただく意義を感じました。今回学んだことを現場での指導や教員研修に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
「死」の教育において「不死」と考えると「死」より「不死」の方がつらいことに気づきました。また、子どもたちに抽象的なことを連想させて、表現させる事の重要性を感じました。
いつもはタブー視されがちな死について考えるより機会になった。美術教材は死を明るく取り扱える教材だと感じた。
他の人とは感じ方が異なるのだということが分かった。

【ワークショップ入門 -協同的な学びと創造の新しいスタイル-】

楽しかったです。
丸一日の研修ではあったものの参加型、体験型であり、自分でやっていこうとすることができたので、1日があっという間でした。ありがとうございました。
勇気をいただきました。自分の歩を整理する良い機会となりました。ありがとうございました。
とても楽しかったです。ありがとうございました。
居心地の良い研修だったなと思います。先生方のご配慮のおかげだと思います。ありがとうございました。
WS入門が本当に面白かったので、次のステップも受講してみたいと思いました。
楽しく受講させていただきました。ありがとうございました。

【ワークショップ入門 -協同的な学びと創造の新しいスタイル-】

丁寧に作られた講座で、本当に勉強になりました。本当にありがとうございました。

教育現場特有の固定概念の変換のヒントや複合的な要因を決めつけや答えではなく自分の捉え方で思考する時間をいただけたことに感謝です。ありがとうございました。

多角的な面から見て色々な内容を考えていただいたので、とても分かりやすい内容で良かったと思った。

ワークショップ入門ということで、まだ分からないことはたくさんありましたが、子どもたちと一緒にチャレンジしながら取り入れていきたいと思います。

場所が分かりにくかったですが、室内の机やイスの配置がよく、学びやすかった。

とても自分にとって興味深かったです。「モヤモヤ」が残ることこそ自分が学びのスタートに立ったということに気付きました

実践にワークショップを行うことで体験的に理解が深まりました。ありがとうございました。

とても良かったです。ありがとうございました。

楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。

良く完成された講座内容だった。

【技術科におけるICT活用の授業デザイン 2017-電気回路シミュレーションの活用-】

すごく楽しく受講させていただきました。ありがとうございました。

新学習指導要領のお話も聞けて良かったです。ありがとうございました。

勉強になりました。技術として教えるべき内容が理解・整理することができた。

他校の先生方との交流を深めたいです。

苦手な分野について少し期待を持つことができて良かったです。

勉強になりました。ありがとうございました。

手袋の動きをアクチュエータに反応させることがよく分かり良かった。

自分自身だけではアイデアや知識に限界があるためこのような機会をいただき勉強させていただき、ありがとうございます。

技術・家庭科の今後の展望など詳しく丁寧に教えていただきありがとうございました。

【技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究 2017-パソコンによるフルカラーLEDの制御-】

新学習指導要領の改訂についてよく理解できました。今から改訂に向けて準備ができます。

毎年お世話になり、本当にありがとうございます。

学習指導要領の改訂において、まだまだ勉強をし、教材研究・開発をしなければならないと強く感じました。本日は、ありがとうございました。

【技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究 2017-パソコンによるフルカラーLEDの制御-】

空調等配慮いただきありがとうございました。今後も現場で実践できる研修の充実を望んでいます。

丁寧に教えていただきありがとうございました。

VBAを使う機会が少なく、不安を感じていたが、少しばかり不安感を取り除くことができた。また深めていきたいと思う。

自身がまだまだ勉強不足であることがよく分かった。

【インプロ・ワークショップでこころと身体を解きほぐそう-共感的・応答的・創造的コミュニケーションの愉しみ-】

今後の活動に活かせそうです。

動きながら触れ合いながらの講座で楽しかったです。

今回は本当に日々の授業に生かせる内容のものをありがとうございました。

演じるというのは難しいものですが、楽しくもありました。

ワークショップ形式で様々な活動を実際に体験でき、すぐにでも教育活動に活かしたいと思いました。
※終了時間がもう少し早ければありがたいです。(16:30ぐらい、そのために開始時間も早くしてほしい)

「インプロ」と聞くと「体を動かす」というイメージが強かったが、「心を動かす」事が大切だと感じた。

自由に体を動かし、少人数で講堂で聴くより頭に残った。

ありのままの本音、自分とは常本気。なんだかいろんなことを思いました。普段ではこうはいかない。日常の視点が変わられるようになりたいと思いました。

【ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫-歌唱、リコーダーを中心として-】

小学校教員対象ということで、対象ではなかったのですが、受講させていただき、ありがとうございました。大学の授業で活用させていただきます。

新学習指導要領にもふれ、実技と講話をまぜた内容で楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。

how to と know how のお話で、これからの授業づくりで大切にしていきたいことがはっきりしました。2学期から生かせる内容ばかりで大変勉強になりました。

とても興味深く、楽しく受講させていただきました。

とても具体的で分かりやすく、すぐ実践してみようと思うことも多かったです。2学期も頑張ろうと前向きになりました。ありがとうございました。

中堅研で参加させていただきましたが、とっても楽しかったし、先生の説明も分かりやすかったので、また来年も参加したいなと思いました。ありがとうございました。

指導要領の改訂について、伝達講習では分かりにくかった部分が知れました。ありがとうございました。

期待したとおりの内容でした。また、受けたいです。ありがとうございました。

音楽の指導が苦手で、どのような工夫をしたら、良いのか分からなかったもので、これからのヒントになった。

とてもわかりやすく、他の先生に聞きにくいようなことも教えていただけて良かったです。音符に書き込みしたメモを持ち帰れたかったので、持ち帰れないなら事前に用意できると良かったかも知れません。

【ここがポイント！音楽科における実技指導の工夫-歌唱、リコーダーを中心として-】

音楽が苦手で歌唱指導にも不安があった。ここは、この様に歌うと良いという指導に対して「なぜそう歌うのか」という理由を初めて知りました。苦手ながらもすごく楽しかったです。ありがとうございました。
小学校の現場で実際に指導する場面を意識して教えて頂いたので、すぐに実践に生かせそうで、大変良かったです。
自分で演奏することで、表現の仕方がより具体的に分かりました。
how to の裏にあるノウハウのお話は印象に残りました。なるほどと勉強になりました。ありがとうございました。
2学期からの実践に役立つモノばかりで有意義でした。中堅研修で参加しましたが、とても楽しい時間でした。ありがとうございました。
2回目の受講ですが、先生の指導がとても丁寧で感謝します。ありがとうございました。
とても楽しい講座でした。実際に演奏してからこそ分かる部分があると、とても勉強になりました。ありがとうございました。
先生のリコーダーの音色がとてもきれいでした。大変分かりやすかったです。
how to に頼りがちなところがありましたが、know how についてきちんと学んで指導することの大切さに改めて気づきました。
大変分かりやすい講座でした。2学期からすぐに取り入れていきたいです。特支の子にも活用できそうです。
教科書教材を使っただけの研修だったので、すぐに現場でも活用できそうです。
楽曲分析をより深くすることで、子どもたちに音楽の楽しさを伝えることができる。ありがとうございました。

【プログラミングに挑戦！ -Scratchによるゲーム・教材作成体験-】

必要であると感じつつ、敷居が高く、なかなかチャレンジできなかったscratchに触れて良かったです。総合の時間に導入するにあたって授業のプランがよく分かりました。
たくさん新しいことが分かりました。実践までのハードルは高そうですがきっかけになりそうです。
学校現場ではプログラミング教育についてあまり研修等がないので、今回の研修で理解を深めることができて、とても勉強になりました。
時期がもう少し早ければ夏休み中に振り返りができるか、8/29では研修を振り返る時間が限られてしまうので、せめて1週間前倒しがいいたいです。
事例が聞けて良かった。
とても分かりやすく新しいことをたくさん知れました。実技をもう少しやりたかったのですが、続きは学校でしてみます。ありがとうございました。
アプリやソフトウェアを使って授業をするときには、子どもに何を学ばせたいのか身につけるための目標設定、単元計画を綿密に練る必要があると感じました。
勉強になりました。ありがとうございました。

【アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ】

指導する校種や学年の年齢が低ければ低いほど、発問の仕方や教材準備を入念に行う必要があるということ強く感じました。
アクティブラーニングにおけるラーニングスケッチを学び、生徒の発言、発想を予想し授業を組み立てる事の大切さを改めて感じました。今後の授業に生かしていきたいと思います。

【アクティブラーニングを支援するラーニングスケッチのすすめ】

イントロのスライドの資料があれば良かった。(メモを取りやすいので)
配付資料の文字が小さく見づらいのが残念でした。

パワポの指導案等が見づらいのでA4で資料提示していただけると、より分かりやすかったと思いました。ありがとうございました。

今回は小学校の先生方のラーニングスケッチについての内容でしたが、とても興味深くお話を聞かせていただきました。ただ、自分の校種である中学校ではどの様にラーニングスケッチを取り入れ、実践されているのかを知りたいと感じました。兵教大の附属中学校ではどのような実践が行われているのでしょうか。

【脳科学と教育ー情動・睡眠に関連してー】

今までに習ったことのない領域の講義で、大変興味深く聴くことができました。

パワーポイントの資料は1ページ2～4枚くらいが見やすいと思います。

科学を根拠にした説明は、説得力があります。日頃の指導がより深まりました。ありがとうございました。

私に子どもがいるので、生徒はもちろんですが、自分の子どもでも生かせそうで勉強になりました。ありがとうございました。

睡眠との関連が面白かった。脳の生理学も大好きです。情動は2学期ソーシャルシンキングをやるつもりなので、再確認出来ました。

睡眠の質と内容(時間)が与える影響が想像以上に大きかったです。私自身もよく電気をつけてTVをつけて、携帯を見ながら寝るので、やめようと思いました。生徒にも教えてあげられるし、保護者とも話せそうです。

睡眠の大切さが改めて分かった。自分自身の睡眠を見直す必要や子どもたちの生活リズムを考える良い機会になったと思います。

発達障害と睡眠の関係について学ぶことができ、そういう見方で、指導に繋げていくことが、できるのだと思った。

3人の講師の方から聞いたので、集中が切れず良かった。

脳科学のお話は興味深く、他の研修とは違った視点で教育について考えることができました。

パワーポイントの資料が見にくかった。内容が難しく現場でどの様に生かしたら良いのか、まだ消化しきれしていない。

もう少し具体的に子どもへのアプローチ、支援の方法を教えてほしかったです。

医学的な視点からのお話は新鮮で大変興味深かったです。分かりやすく、又楽しく講義をして下さった先生方には感謝を申し上げます。ありがとうございました。

とても良かったです。

資料の字が少し見にくかったですが、先生方のお話を聞きながら何とかついていきました。興味深い内容でした。

幼児期の重要性が分かったが、幼児期を越えてしまった後、どのように生活リズムを取り戻せば良いのか詳しく知りたいです。ありがとうございました。

専門的な話が多く、少し難しく感じる部分もあったが、とても参考になった。個人的には朝、起きづらい生徒がいるので、谷池先生のお話をもう少しお聞きしたいと思った。

睡眠の重要性がよく分かった。脳の話は、大変難しかったですが、色々なことが学べて良かったです。普段分からないことが分かったので、勉強になりました。今回学んだことを学校現場で生かしていきたいと思います。

【脳科学と教育 -情動・睡眠に関連して-】

とても刺激的でした。教育も学際的な立場から実践していかないと通用しなくなるかなと思いました。また受講したいです。
とても興味ある内容だったが、もう少しゆっくりと説明して欲しかった。できたら、資料を前もって送付していただければ、心の準備ができたと思う。
谷池先生のお話は当てはまる子がいてとても参考になりました。ありがとうございました。
中学校教師です。生徒の不登校(気持ちが合っても起きられない)について、少しでも知ることができて良かったです。
スライド等、とても分かりやすかったです。ただ小学校現場のものにとっては、脳の話は少し難しかったです。
幼少期の子供を育てる環境が大切だと思いました。ありがとうございました。
人によっては、脳の発達がちがいが個性があるということ。脳は寝ているときに起きているときの活性化していたところが、活性化するという事。
子どもの健全な発達には、適切な時期に適切なアプローチが必要であることが分かった。今後の学校生活の中での指導に生かしていきたいと思う。
大学での研究内容はとても聞いていて勉強になりました。
人間にとって、睡眠が本当に大事であるということが、良くわかりました。お話も分かりやすかったです。ありがとうございました。
睡眠について考えさせられるいい機会になりました。

【子どもと学級をみる目を広げる】

RCRTも興味深かったですが、1日目のお話の内容がそれ以上に興味深く、もっとお話を聞きたいと思いました。ありがとうございました。
今まで自分が気づいていなかった自分の中に潜んでいた尺度や視点にきちんと向き合えて、それを今後どうしていくかを考える良い機会になった。また校種も異なる先生方と意見交換でき、有意義な時間だった。ありがとうございました。
教師用RCRTは今後学級担任をしたときに行き詰まったらやってみようと思う。RCRTを通して気づきを得ることができたと思う。
理論に対して丁寧に説明して下さり、理解した上で実践することができました。また、細かいデータ分析をして下さり、自身を振り返る大きな視点をいただきました。続けて受講できる機会をいただけるとありがたいです。(今回は中堅講習で優先的に入れてもらったと思いますが、来年はそうはいかないと思いますので。)
改めて子どもに対する自分の視点について学ぶ事ができました。もう少し深くこの教師用RCRTについて知りたいと思います。
自分のことを客観適に見つめるのはとても大事な事だと思いました。無意識だからこそ「やってしまうこと」があり、そこに無自覚なのはとても怖いと思います。だからこそ、今回のようにデータなどの資料を基に「クラスを見ている自分」を見つめることを継続しないとないと思いました。
自分がどんな視点で子どもを見ていたのか、目に見える形で、再認識できた。自分らしくやわらかく子どもと向き合っていきたいと思いました。2日間、ありがとうございました。
RCRTは、自分で集計できるのか(1人でも続けていきたい)。分析の視点(結果の見とり)が、本人独自となるので、他にどんな見とりができるのか、知りたいと思った。
秋光先生のお話を始め、川元先生や石井先生のお話はとても参考になりました。機会があれば、私も大学でこのような研究をして見たいと思いました。
自分の気づかなかった事に気づけた。立場によって子どもの見方が違うが、見ている子どもたちを中心に、どう育てたいかを大事にしつつ、今回のような客観的なデータを取り入れた実践が重要だと感じた。

【非言語コミュニケーション力を育む体育授業づくり】

久しぶりに体育についての勉強をさせていただきました。

コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションについて、新しい知識や認識を得ることができた。

ありがとうございました。

1学期は身体ほぐし活動を5～10分していました。今日の講義で、自分の指導の根拠がより深まりました。ありがとうございました。

先生の実践に基づいてお話しいただき、大変興味深く聞くことができました。

「コミュニケーション」を新しい視点で改めて考えるきっかけになりました。非言語が70%以上ということにも驚きで、教師の姿勢も問われるなどと思いました。授業にも少し取り入れたいと思いました。

分かりやすくとても面白かったです。

体育が苦手なので、受講しましたが、二学期以降のヒントをもらえました。授業の導入にどんどん身体接触の活動を入れていきたいと思います。低・中・高学年別にどんな活動があるか具体例をもっと知りたかったです。

また体育の実践について学びたいです。

身体接触が、非言語のコミュニケーションのツールであることは、とても納得できましたので、家で早速してあげたいです。

研究担当として非言語コミュニケーションの角度から考えることをしてこなかったと振り返ることができました。今後に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

先生が自己紹介され、最初の5分で今日の授業は素晴らしいものになると感じました。それは先生がもっとおられる非言語コミュニケーションが素晴らしいからだわかりました。ありがとうございました。今日紹介していただいた本を買い、勉強します。

大学の先生らしい理論的なお話を伺い、いっぱい頭を使って考えました。ありがとうございました。

発信重視の関わりに日頃疑問を感じるが多かったため、講座が興味深く分かりやすく、勉強になりました。各教科でどの様に活用すればいいかを今後学んでみたい。

肌の触れあいによって、技能の伸び、集団凝集力の向上が図れる可能性について、是非実践していきたい。

具体的な事例と理論とが分かりやすく身体接触について理解できました。2学期以降に生かしていきたいです。

【わかる授業づくりのポイントを学ぼうー生涯楽しく学び続ける教師であるためにー】

子どもたちが興味を持てそうな内容がたくさんあり、とても面白かったです。

講師の先生が様々なものを準備して下さり、あっという間の時間であった。とても楽しく実践をすることができたように思う。

とても楽しかったです。

今日はとても楽しかったです。安河内先生の優しい話し方、雰囲気色んな楽しい事が知れて、とても良かったです。2学期に何か1つ今日学んだことをやってみたいと思います。ありがとうございました。

大変楽しく参加しました。気持ちを大らかに持って子どもたちの姿を目の前に思い浮かべ、教材と向き合えば良いのかなと思いました。講師のお二人もご親切で、受講して良かったなと思いました。どうもありがとうございました。2学期もがんばれそうです。

先生のお人柄にふれ教師としてのあり様を改めて考えさせられました。“全ての子に全てのことを”どこかあきらめているようなところがあるのではと反省させられました。

今まで受けた中で最も楽しくお土産がある研修でした。安河内先生のように同じようなことは出来ないと思いますが、少しでも今日の自分が感じられた「楽しさ」を子どもに伝えていきたいと思います。大変なご準備、ありがとうございました。

【わかる授業づくりのポイントを学ぼう-生涯楽しく学び続ける教師であるために-】

初任時を振り返られると同時に、今後の教師人生で忘れてはならない心構えを教えてくださいました。ありがとうございました。
とても楽しい講座でした。今までの講座とは違って、体を使って、頭を使って、色んな事を考えながら、楽しんで研修を受けることができました。「もっと学びたい」「この後は何があるのだろう」という気持ちがありました。これこそが、子どもに感じさせたい事なのだという事を自分自身が体験してすごく実感しました。ありがとうございました。
全員が出来ることを目指す授業の大切さを学びました。生涯楽しく学び続ける教師、安河内先生はまさにそんな先生なのだと実感しました。早速、2学期から取り入れていきたい内容が、盛りだくさんでした。ありがとうございました。
自分も楽しみながら、学ぶことができました。ありがとうございました。子ども達に教えるためには、まず自分が楽しむことを改めて感じました。
とても楽しく参加させていただきました。教師が楽しく教材を準備できたら、子どもも楽しく学んでくれる様な気がしました。ありがとうございました。
安河内先生の素晴らしい人柄と温かさに触れ、教師の子どもに対する姿勢を学ぶことができました。たくさんお土産をいただき、直ぐに学校の実践に活かそうです。ありがとうございました。
教材のおもしろさ、興味を引く教材、その準備にかける力、先生ご自身の子ども達への愛情の深さ、全てにおいて深い学びの時間になりました。ありがとうございました。
楽しい教材、授業展開、参考になりました。そのような取り組みが必要なのは教師の熱意だということも分かりました。ありがとうございました。
安河内先生の情熱、人柄に感銘を受けました。たくさんのお土産をいただき、ありがとうございました。
とても楽しく学びました。ありがとうございました。
色んなグッズを使いながらの授業で楽しかったです。時間が経つのがとても速く感じました。
楽しくあっという間に時間が過ぎました。誰もが出来ることが大事という部分を大切に今後に活かしたいと思います。ありがとうございました。
子どもが、ワクワクするようなたくさんのアイデアや教材を教えてくださいました。2学期に早速実践していきたいと思います。
とても楽しく、あっという間に一日が終わってしまいました。児童が本当に楽しい授業を作っていかなければならないなと気持ちを改めなければと思いました。

【やってみよう！楽しい理科の実験・実技-小学校の先生自身が楽しむ理科-】

様々な実験を実際に体験でき、とても良かったです。自分も学校で活用できる内容であったので参考になりました。
楽しく研修を受けさせてもらいました。ありがとうございました。
1つ1つ分かりやすく丁寧で勉強になりました。ありがとうございました。
とても楽しかったです。ありがとうございました。
とても分かりやすく楽しく教えてください、理科が苦手な私でも興味を引かれ、頑張ってみようと思いました。ありがとうございました。
楽しく学ぶ事ができました。ありがとうございました。
子どもにとって「楽しい」だけでなく「安全である」ということも大切だと言うことが、小さい兄弟の話を聞いて分かりました。今日は特に目の錯覚の話が興味深かったです。ありがとうございました。

【やってみよう！楽しい理科の実験・実技-小学校の先生自身が楽しむ理科-】

安全な実験。教室でもできる、持ち帰った物の安全性にも配慮するなど、教師として大事なことを学びました。ありがとうございました。

先生のお話や講義内容がとても楽しく、あっという間の3時間でした。ありがとうございました。

講師の方がご親切で分かりやすく、参加して良かったなと思いました。また参加したいと思います。ありがとうございました。

これまでしたことのない実験ばかりで楽しかったです。ありがとうございました。

すごく興味深く取り組みました。面白かったです。

とても分かりやすく実際に実験をやることもでき、実感を伴った理解が出来ました。また参加したいと思いました。ありがとうございました。

【心理学から考えるいじめのない学級づくり(午前の部)】

生徒指導と教科指導、その両方が繋がって大きな目標(めざすところ)を達成できると考えます。評価し、自己評価させ、自治能力を高めさせることで、居心地良い教室、学校になると思います。

大変分かりやすく勉強になりました。ありがとうございました。

道徳の評価について

データを元にして2学期以降の学級に活かせると思います。

実際に子どもが感じていることと教師が思うことのズレがある事が分かり、これからの学級づくりに生かしていけると思った。

時間帯の調整ありがとうございました。

講義を受けた後の、グループワークも、日頃の実践を教えてもらえて、とても参考になった。

子どもの居場所を作っていくこと、教師の働きかけを充実していこうと思いました。

ありがとうございました。

自分のやっていることが悪くないとの再確認、新しいことの発見

データから客観的にみえる子どもの実態把握に関心が持てました。参加者の方と意見交流できてヒントがいただけました。

先生方ともう少しお話をしたいと思いました。

自分の学級経営を見直すよい機会となりました。しっかりと2学期からやっていきます。ありがとうございました。

CoCoLo34を使ってみます。ありがとうございました。

自分の学級経営を見直すよい機会となりました。今日学んだことを自分の学校、学級で生かしていきたいと思います。

テーマに対しての提案をエビデンスデータに基づいて講義をしていただいたので、理解しやすく納得できるもので、ありがたかったです。

【心理学から考えるいじめのない学級づくり(午前の部)】

学級をみる目、学級づくりについての研修を受けさせていただきました。自身の足りない所を自覚することが出来たので、これからの学級づくりに役立てたいと思います。とても具体的かつすぐ実践できるような内容で良かったです。ありがとうございました。

【心理学から考えるいじめのない学級づくり(午後の部)】

温かい学級経営が大事だと言うことが分かりました。

教師と生徒との意識の違いが分かりました。

知らない事が多かったので知識として身につけることができて良かった。

なぜ「良い学級」が「良い学級」であるのかが、ずっと入ってきました。ありがとうございました。実践に生かしていきます。

わかりやすく丁寧に話をしていただきありがとうございました。

客観的なデータを元に学級経営のあり方を分かりやすく話していただき、大変興味深かったです。ありがとうございました。

先生のお話を聞いていて、現在気になる生徒のことを思い浮かべながら、次の対策を考えることができた。自分に足りているものと、足りていないものが、今回の研修ではっきりしたと思う。早速、明日からの学校生活で意識しようと思う。

これまで経験に基づいて自分なりに何となく行っていたことが今日のお話で理由付けられるということがいくつもあった。今後、生徒と接するときや、学級運営に生かしていきたいと思う。

解析は統計的に処理されているのですが、対象(者)がアンケートに答える時に指標が曖昧で主観的すぎないかと思う。従って、その結果を処理しても実態とは違っている部分があるのではと思う。最後の20分は投げすぎかと思う。

様々な研究の内容を紹介していただき、わかりやすく学校、学級内の子ども達について知ることができました。2学期からの自身の取り組みに生かしていきたいと思います。

毎年、受講する事を楽しみにしている者です。講座もバージョンアップしていて大変嬉しいです。校内で同僚にも勧めているところです。

子ども達に対する何気ない言葉がけが、子どもの居場所づくりに繋がっているということが目からウロコでした。ありがとうございました。

学級経営のポイントがよく理解でき、とても分かりやすい内容でした。ぜひCoCoLo-34を活用させていただきたいです。本日はありがとうございました。

【対話による授業リフレクションの体験-“自分のことば”で授業を語りー聴き合う教員研修-】

ありがとうございました。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

2日間にわたり、リフレクションの体験を行うことでかなり深める事ができた。

リフレクションという手法で自分の授業を振り返り自身が柱としていることが発見でき面白かった。講座の開設時期がもう少し早い時期の法がより深く振り返れる(授業リフレクションなので)

高校の先生が多く、小学校の先生が逆に少なかったことです。

日頃の自分の思いや考えに気づく良い機会をいただきました。どうもありがとうございました。

【教師としての成長・発達について考える-教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに陥らないために-】

非常に勉強になりました。ありがとうございました。
周囲を変えるのは難しい。変えられる、変えやすい自分の部分から取りかかることができればと思いました。
バーンアウトしそうなことがあり、今回の講座はこれから仕事を続けるうえで大事だと思いました。2度とそのような状況にならないよう、同僚性、協働性の高い職場づくりに努めるとともに、自分を少しずつ変えていけたらいいなと思いました。(変えなければいけない、ではないですね。)
他の校種の先生方との交流が出来たので良かったです。
メンタルヘルスの研修は今までにも教育委員会主催のものなどを受けてきましたが、本日の研修はとても分かりやすく理論的にも詳しく教えていただきました。ありがとうございました。
他市の先生と話して、色々な学校の状況の様々ななどを聞いて良かった。
大変分かりやすい語り口で最新の研究内容を講義していただき、良かったです。ありがとうございました。
とても勉強になる講座で非常に楽しく聞かせていただきました。ありがとうございました。
明日、2学期からの勤務に生かしていきたいです。
良かったです。
ありがとうございました。
もう少し理論的な内容の話を聞きたかった。
とても楽しめました。正直始めは不安でしたが、講座に参加したことで、これまで馴染みのなかった分子生物学に興味がありました。ありがとうございました。
ゆっくり進んだので非常に分かり易かったです。ありがとうございました。
もう少し時間が長くても良いです。もっとお話しが聞きたいです。直ぐに学校で使えるような教材を多く紹介していただい、とてもありがたかったです。
細胞やウイルスのスケールを、手元のものと比較しながらサイズイメージをつけることは、今後授業で活かそうです。工作については、人数や材料面で活かせる機会があれば取り組んでみたいと思いました。
演習もあり、とても楽しく分かりやすかったです。ありがとうございました。
授業でやろうと思います。とても楽しかったです。ありがとうございました。
少人数で質問等も気軽にできる雰囲気だったのが良かったです。授業で生徒が行う作業を実際に行うことができたのは、とても良かったです。座学の時間ももっとあるとより勉強になってありがたいです。
とても良い環境でよく考えられ支援も十分であった。
サンガー法は今回のように実習させた方が生徒の理解は早いと思った。実習するには自分自身が不器用である事を痛感した。DNAストラックの作製では作り始めがもう少し分かりやすく書かれていれば・・・と思いました。
長い時間お付き合いいただきありがとうございました。受講時間がもっと長い方がありがたいです。

【部活動の指導と運営】

自分の部活動に対する考え方を 今一度考えることができました。
部活動はほんと大きな教育のテーマでなかなか改善が難しい部分。どうなっていくのか…。自分自身が教師である内に激変されることを願う。
現在問題になっている内容や、身近に体験する内容の混ざった内容で、大変勉強になりました。
時代に合った考え方ができるようになりたい。生徒のためになる運営をしたい。自分にもためになる話だった。
納得できる話が多くて良かったです。ありがとうございました。
分かりやすいお話でした。今どんどん教育現場は変わっているので、私たちが変わらねばと思いました。
ありがとうございました。
勉強になりました。
お世話になりました。また、指導観が少し変わりました。
自分の部活動指導観を見直す良き機会となりました。本日教わったことを今後現場で生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
部活動について考え直すいい機会になりました。
クラブ活動の運営・考え方等について、とても興味深い内容でした。ありがとうございました。
他校の先生方と情報、意見を交換する機会があって良かったです。
今求められている部活動のあり方について考えさせられた。また、「楽しい」の裏返し、考えさせられた。
私は普段小学校の教員をしていますが、中学校の先生方と直接交流することができ、学びがありました。中・高・大の部活動につながる「スポーツ観」を小学校体育を通じて、育てていきたいと思います。
世代的、感覚的、教育に染みついてしまった概念を取るようでありながら、教育シーンが何を基盤として今後の世代に残していくのかを考えるきっかけ、再確認の場となりました。ありがとうございました。
ありがとうございました。日々の部活動指導を振り返る良い機会となりました。

【思考力・表現力を育てる算数科授業づくり】

算数に関してこんなに深く考えたことは正直ありませんでした。なので、とても興味深かったです。
指導要領がかわることがよく解った。振り返りが大切。
楽しく学ぶ機会を設けていただき、ありがとうございました。
実際の教科書を題材にグループで考えられたのが良かったです。
すごくわかりやすく、すぐに使えるような内容だった。面白かったです。
専門的な内容で面白かったです。
「思考力・表現力を育てる」と言う言葉は良く耳にするが、具体的な方法というものには、なかなか出会えない(正解がない)。ですが、本講義で「誌してみよう」という気持ちになれたことが大きかったので、受講して良かったです。

【思考力・表現力を育てる算数科授業づくり】

振り返る(検索する)ことの重要性を改めて考えるきっかけとなったように思う。少しでも2学期取り組めるよう精進していきたい。本日はありがとうございました。
全部勉強になりました。「ふりかえり」のやり方が分かりました。児童の記憶に残っていることが、少しでも増やせるよう日々授業を工夫したいです。ありがとうございました。
おもしろかったです。どうしてもその時は分からない子がいるのは仕方ないこととお聞きし、ホッとしました。ヒントがもらえました。
子どもの思考のつまづき、指導のポイントになる点について自分の授業を振り返ることができた。明日からの授業づくりにすぐに生かしていきたいです。なるほど！と思うところが多くありました。やる気が出ました。ありがとうございました。
新指導要領の変更点がよく分かった。数学的にという意味が少し分かった気がする。ありがとうございました。
また続きを受講したいと思った。
今回の研修講座で指導要領の改正点や授業づくりにおいて新たな視点で取り組もうと感じました。
算数(数学)の奥深さを感じました。学べば、分かれば、もっと面白いだらうなと思いました。

【陶芸美術館で考える美術の表現と鑑賞】

短い時間に濃い内容で、充実した研修でした。ありがとうございました。
作品持って帰りたかったです。費用があっても体験はしたいです。
丹波焼について詳しく知れて良かった。5年生の自然学校の際に役立つ資料もいただきました。ありがとうございました。
短時間でしたが、様々な内容がコンパクトに詰まっていて、とても有意義でした。ありがとうございました。作った作品を持ち帰れたら、なお良かったです。
兵教大ではない施設で本校の近くだったので、教育活動にも活かせると思った。活用してみたい。
体験がとても楽しかったです。ありがとうございました。
有料でも良いので、もう少し時間をとって、皿・湯飲みなどを作ってみたかった。(実際に作ったものが教材にできるから)
たくさんの技法が知れて楽しかった。
研修でしたが、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
初めて丹波焼を身近に感じることができました。美術館での研修はなかなか行く機会がない私にとって、とても魅力的でした。ありがとうございました。
立杭焼(丹波焼)のことを近くにも余り分かっていない事を痛感した。丹波焼の柔軟な変化に先人の苦勞や前向きに取り組むいいものを作ろうとする姿勢を感じた。
もっと専門的な内容かと思ったが、特に目新しいものがなかった。(美術の先生以外も参加されているので、仕方ないと思いますが)実技はとても楽しかったです。
美術科ではないが「鑑賞」という領域について興味があり参加した。「鑑賞」＝「表現」自分のフィルターを通して感じるということ自体が教育の学びスタンスであると確認する事ができた。また技法について実際体験できたのが勉強になりました。ありがとうございました。

〔 参 考 資 料 〕

平成29年度 教育委員会等との連携によるその他の教員研修の実施

① 県立高等学校中堅教諭等資質向上研修（生徒指導）の実施

〔兵庫県教育委員会との連携〕

（平成29年度県立高等学校中堅教諭等資質向上研修（生徒指導）実施状況）

② 兵庫教育大学スクール・パートナーシップ事業の実施

（平成29年度兵庫教育大学スクール・パートナーシップ事業実施状況）

平成29年度 県立高等学校中堅教諭等資質向上研修（生徒指導）実施状況

【兵庫教育大学会場】

期 間：平成29年9月5日（火）、6日（水）

場 所：兵庫教育大学共通講義棟104

月日	内 容	講 師	受講者数
9/5 (火)	講義・演習 「チーム援助を促進するためのケース会議の実践」 概要 児童生徒に対してチームとして援助を行うための ケース会議について、その意義と方法についてレク チャーし、小グループに分かれて演習を行う。	兵庫教育大学大学院 准教授 隈元みちる	17人
9/6 (水)	講義・演習 「教師のためのストレスマネジメント」 概要 リラクセーションを体験ベースに、ストレスと付き合い 上手になるためのストレス理解と自身のストレスへの気づ きに関するレクチャーと演習を行う。	兵庫教育大学大学院 教授 藤原 忠雄	31人

※ 受付開始：10:00 講義開始 10:30 講義終了 16:00

平成29年度スクール・パートナーシップ事業申請状況等一覧

現在 H30.3.31

校種等		校内研修会	研修会	会議	講演会	特別授業	PTA関係	サマーセミナー	合計
学校教育関係	小 学 校	9	3						12
	中 学 校	5							5
	高 等 学 校	1	2		2	2			7
	幼 稚 園					1			1
	特別支援学校								
	教育委員会		6	3				1	10
	そ の 他 ※ 1		1						1
生涯学習関係	市 町 村 役 場 (公 民 館 等)								
	高 齢 者 大 学								
その他					1				1
合 計		15	12	3	3	3		1	37

[備考] (1)「校内研修会」は学校内の教員を対象としたもの、「研修会」は当該学校以外の教員も参加対象とするものを示す。

(2)「特別授業」は園児・児童、生徒を対象とした講義、講演会を表す。

(3)「サマーセミナー」は園児・児童、生徒を対象とした夏期休業中のイベントを示す。

(4)※1は、学校、行政関係組織以外の組織(自主的な研究会、実行委員会等)を示す。

兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト実施要項

平成19年3月19日
学 長 裁 定

(設置)

第1 現職教員の研修を支援するために兵庫教育大学が行う研修事業のプログラムを開発、実施することを目的として、「兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト」(以下「プロジェクト」という。)を組織する。

(研究、開発事項)

第2 プロジェクトにおいては、次の事項について研究、開発を行う。

- (1) 現職教員研修の教育内容・方法に関すること。
- (2) 現職教員研修における教育委員会・学校との連携協力に関すること。
- (3) 現職教員研修の運営体制に関すること。
- (4) 担当教員の研修(FD)に関すること。
- (5) その他現職教員研修のプログラム開発に関すること。

(構成)

第3 プロジェクトを実施するための組織として「研修プログラムチーム」(以下「チーム」という。)を置き、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 大学教員のうちから、学長が指名した者
- (2) 教育委員会及び教育センター等の関係者のうちから、学長が委嘱した者
- (3) 公私立学校等関係者のうちから、学長が委嘱した者
- (4) 学校長会等関係者のうちから、学長が委嘱した者
- (5) 本学大学院学校教育研究科修士生のうちから、学長が委嘱した者
- (6) その他、学長が必要と認めた者

2 前項第1号から第5号までに掲げる構成員の任期は、2年とし、同項第6号に掲げる構成員の任期は、指名に際し学長が別に定める。ただし、欠員を生じた場合の後任の構成員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による構成員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4 チームに委員長及び副委員長を置き、委員長は学長が指名し、副委員長は委員の互選によって定める。

2 委員長はチーム会議を招集し、これを主宰する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長の職務を代行する。

(専門部会)

第5 チームに、専門的な事項を調査研究するため専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の出席)

第6 チーム会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第7 プロジェクトに関する事務は、総務部広報・社会連携課が処理する。

(雑則)

第8 この要項に定めるもののほか、プロジェクトの運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この要項施行後、最初に指名又は委嘱された構成員の任期は、第3の2項の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則 (平成25年6月19日)

この要項は、平成25年6月19日から施行する。

兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト研修プログラムチーム構成員名簿

H29. 6. 1

区 分	所 属 ・ 職 名 等	氏 名	備 考
大 学 関 係 者	人間発達教育専攻 教授	秋光 恵子	
	特別支援教育専攻 教授	井澤 信三	
	教科教育実践開発専攻 教授	吉田 達弘	
	教科教育実践開発専攻 准教授	笠原 恵	
	教科教育実践開発専攻 准教授	掛川 淳一	
	教育実践高度化専攻 教授	浅野 良一	
	教育実践高度化専攻 准教授	安藤 福光	
	教育実践高度化専攻 教授	森山 潤	
	教育実践高度化専攻 講師	宮田佳緒里	
	教育実践高度化専攻 准教授	隈元みちる	
	教育実践高度化専攻 准教授	加藤 久恵	委員長
教 育 委 員 会, 教育センター等関係者	兵庫県教育委員会 高校教育課副課長	千家 弘行	
	兵庫県立教育研修所 主任指導主事兼企画調査課長	村中 利章	
	神戸市総合教育センター 研修係長	野方 俊克	
	姫路市立総合教育センター 教育研修課 研修企画・ICT係長	柳井 克文	
	尼崎市立教育総合センター 教職員の学び支援課 係長	井上 雅登	
	西宮市教育委員会学校教育部 教育研修課長	乾 公人	
公私立学校等関係者	兵庫教育文化研究所 事務局員	美安 周平	
	関西学院中学部 校長 (兵庫県私学総連合会)	安田 栄三	
学校長会等関係者	宝塚市立中山桜台小学校長 (兵庫県小学校長会)	山下 一	
	神戸市立垂水東中学校長 (兵庫県中学校長会)	住谷 照雄	
	兵庫県立加古川東高等学校長 (兵庫県立学校長協会)	安本 直	
	立花愛の園幼稚園長 (社団法人兵庫県私立幼稚園協会)	濱名 浩	
大学院修了生関係者	兵庫県立小野高等学校長	菅野 恭介	

任期：(学内委員) 平成29年4月1日～平成31年3月31日

(学外委員) 平成29年6月1日～平成31年3月31日(予定)

現職教員研修支援プログラム開発に関する調査研究報告書

平成30年3月発行

編集 兵庫教育大学現職教員研修支援プログラム開発プロジェクト
研修プログラムチーム

発行 兵庫教育大学広報・社会連携課社会連携チーム
〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1
